

逗子市文化財調査報告書

第十一集

植 物

逗子市教育委員会

逗子市文化財調査報告書

第十一集

逗子市の植物

FLORA ZUSIENSIS

逗子市教育委員会

刊 行 に あ た っ て

逗子市教育委員会教育長

高 木 栄 一

このたび逗子市文化財調査報告書第十一集が刊行されるはこびとなりました。

逗子では既に多くの文化財を調査してきました。古代の住居址から、中世城郭遺構にいたるまで、きめ細かい調査が続けられています。今回はわたくしたちの生活の中でとかく失いがちな自然環境に目をむけてみました。

文化財という言葉の響きがややもすると物的な美術工芸に限られたものと思いがちですが、古代から広葉樹林帯に生活した先人たちはこの自然環境の中から日本文化を生み出してきたといわれます。

今回の植物調査はそんな意味でも忘れかけている自然と人間の共生関係を見つめてみる時代でもあると思います。

逗子はいま自然の姿が大きく変わってきています。そしてその植生までも変わろうとしています。しかし池子や神武寺、桜山にはまだまだ貴重な自然林が残されています。また海浜には稀少価値の高い植物もあって、わたくしたちを楽しませてくれます。そうした自然とのふれあいの中で生活できることが、これからのわれわれのほんとうの生きかたであり、祖先からうけつがれた文化の継承と進歩につながる大切な要素を持つものだと思います。

この冊子が皆様の自然に対する目を開かせてくれることを願います。また研究のための資料として役立てば幸いです。

おわりに、調査ならびに執筆にご協力を賜りました関係各位に、深く感謝を申し上げ刊行のことばといたします。

昭和57年3月31日

ま え が き

逗子市は北は鎌倉市に接し、北東部から東部は横浜市・横須賀市に、南部は葉山町に接している。その境界はほとんど丘陵の頂点の連続である。西は相模湾に面している。総面積 17.85 ㎢ におよぶ、やや西南向きに開かれた地形である。

三浦半島の脚基部に位置する気候温暖な地で、古くから人々の定住したところで、文化財にもそれらをうかがうことができる。

近世になりよい住宅地として、多くの人が住んでみたいと願うところで、気候的にも、首都圏への交通面からも、景勝的にも恵まれた地である。ごく近年になり都市への人口集中に伴い、各地で土地開発が急激に進められた。逗子市だけがこの例外に立つことはできず、宅地開発や道路建設などが進められた。開発や建設に必然的にかかわって起る問題が、公害であり、自然破壊である。

地球上の植生の中で特筆される“ヤブツバキクラス域”の北部に位置する逗子市域は、大昔は常緑広葉樹＝照葉樹によって覆われた地と推定されている。

時代が移り米作農業が導入され、耕作地の必要上、常緑広葉樹林は次第に破壊されて、農耕地となり、また居住地となっていった。人口の増加に伴い、破壊が進んだことは、今も昔も変りはないであろうが、量的にも質的にも雲泥の差はあった。現在我が国には人口 3 0 万人以上の都市が 3 5 (1970 年) がある。そのうち札幌を除く 3 4 都市がヤブツバキクラス域にある。日本の人口の大半がそこに集中しているとなれば、自然破壊の度合いも想像されよう。

逗子市には神武寺という自然の残された聖域や桜山大山、池子の米軍接收地など、自然度の高いところが残されている。そこには非常に多種の植物が生育している可能性がある。

我々は逗子市教育委員会の依頼により、逗子市全域の植物調査を行った。調査の時間が不足気味であったが全力を投入し、でき得る限りの手はつくした。

調査には横須賀植物会の会長・山田友久以下全員 5 0 名であたることにし、回数の差はあれ、足でかせいで歩いた。調査結果のまとめについては山田友久のほか西山清治・石渡 宏 浜中義治・山内好孝・山本久子・大森雄治・石渡治一の 8 名があたり、執筆も担当した。

この調査について鎌倉の間瀬美保子氏、長谷川義人氏からご援助をいただき、靱山泰一氏からは格別のご指導をいただいたことを厚く感謝します。

目 次

は じ め に	1
日 本 の フ ロ ラ	3
フ ォ ッ サ マ グ ナ 要 素 の 植 物	6
北 限 の 植 物	8
特 筆 さ れ る 植 物	11
神 武 寺 の 植 物	17
羊 歯 植 物	27
帰 化 植 物	38
単 子 葉 植 物	48
逗 子 の 野 山 の 花	57
逗 子 市 植 物 目 録	94
調 査 の 結 果	128
参 考 文 献	130

は　じ　め　に

植物を調査する方法として、（１）定められた区域内に生えている植物を集団としてとらえ、その集団を分析検討し、その代表植物によって特徴を表現する方法。（２）定められた区域内に生育する全植物のリストを作成する方法などがある。

（１）のように集団を相観的にとらえようとするときに“植生”という語を用いる。

逗子市の植生については１９７１年に宮脇 昭・藤原一絵・原田 洋・楠 直・奥田重俊氏らによって詳細に調査されている。

それによれば、かつて日本の暖帯地方全域、すなわち九州・四国・および本州の関東以西の海拔７００～８００ｍ以下と、東北地方までの海岸や海岸に近い川ぞいは、常緑広葉樹林で占められていた。この常緑広葉樹林帯は、植物社会学的には、どこの常緑広葉樹林にも必ず特徴的に結び付いて生育している植物である ヤブツバキ の名をとって“ヤブツバキクラス”と呼んでいる。

逗子市は、このヤブツバキクラス域の北部に位置すること、常緑広葉樹林は、はるかな遠い昔から日本人の生活の場となり、近代では人口の集中するところとなった。そのために常緑広葉樹林の破壊が続いた。それに代って代償植生が成立していることが報告されている。

その調査では４０４個の多数にわたる調査区を設定、その組成要員の植物も詳細に調査されている。地質・地形・気候などについても詳細な検討が加えられている。

今回の調査は（２）によるもので、逗子市域にはどういう植物が自生しているかということである。生育する全植物の同定分類をし、そのリストを作成することであり、植生に対して“フロラ”という。

（１）の逗子市の植生を参考にして調査を進めた。

調 査 に あ た っ て

標品の同定には「花」があることが望ましい。植物の種類によっては根の部分を必要とすることもある。実の部分を比較検討をしたいものもある。

木本の植物では冬季落葉していても、皮目や芽の形や葉の落ちた跡などによっても、ある程度の同定はできるものである。

草本では短期間に開花結実して、枯れてしまうものがある。秋までゆっくり成長していくもの、２年がかりで開花結実するものもある。１年草や２年草（越年草）である。

草本で冬季は地上部は枯れるが、地下茎の残る多年草もある。それらが互いに入り交って生活しているので、同じ場所でも訪れる時期がちがえば、植物の様子もまた大変にちがう。そのため同一個所を何回も訪ねなければならない。

全区域をくまなく１年以内に数回も巡回調査をすることは困難なことである。そこで“逗子市の植生”

を手がかりに、既知の事項と併せて重点調査区を定めた。

重点調査区は自然度の高いであろうところ、植物の種類の多いであろうと推定されるところである。

重点調査区

重点調査区として (1)海岸区 (2)岩殿寺・法性寺区 (3)神武寺区 (4)沼間区 (5)桜山大山区の5区を設定した。

1. 海岸区

海岸区は小坪5丁目から桜山9丁目にかけての海岸線と、新宿の披露山を含めた。

2. 岩殿寺・法性寺区

保護されて残ったであろう植物、社寺林に期待。

3. 神武寺区

社寺林として大変に立派であるし、植栽されたスギ林も多い。下草のシダ類も豊富である。

4. 沼間区

沼間3・5丁目の区域で、スギの植栽されたものも多く、下草も豊富である。シダ類にも期待。

5. 桜山大山

ここは神武寺に劣らない植物の宝庫で、谷筋の植物、林内の植物・下草も豊富である。

6. そのほか

市街地では別に帰化植物について注意することにした。山すそや荒地なども同様に気を配った。

植物は自生するものを対象とすべきであるが、過去に庭や山林に植栽されたものが逸出して、自生状態になったものも取りあげた。シュロ・ハゼノキ・アカマツなどはそれである。

スギ・ヒノキ・イチョウなどのように特に著しい植栽種については、とりあげることにして、(栽)と註記をした。

植物の分類・学名などについては日本植物誌(大井次三郎)によった。

日 本 の フ ロ ラ

日本のフロラの区分

現在日本にはシダ植物以上で1110属，3857種の植物が生育しているといわれる。(前川文夫・世界の植物) 同じような気候を示すアメリカ合衆国東北部では652属，2835種であり，ニュージャージーランドでは400属，1871種である。これを見ても日本の植物の種類がいかに多いかがわかる。

前川によれば，古第3紀の頃には，日本は北から南西に向った大きな半島であった。南から北上した植物，西から東進した植物，北方から南下した植物が，日本の地形・気候・地史に支えられ育まれて存続し，発展をとげてきた。しかし南北に細長い日本のどこも一様に，同じ植物があるのではなく，地方によってかなりの相違がある。それは南北に長い列島(マキネシアと呼ぶ)の中央部に，中新世のころにフォッサマグナが生じた。このフォッサマグナの活動が，その後の日本のフロラの形成に大きく影響を与えたのである。現在の日本のフロラ区分は，およそ次のように9区分されている。

1. えぞむつ地域

北海道の大部分と東北地方の岩手県・宮城県の範囲である。カラフト・千島へ連なるフロラで，トドマツ・エゾマツの生育する地域である。

2. 関東地域

宮城県から南関東地方の大部分を含む太平洋側で，フォッサマグナ地域の成立以前から入っていたと思われる西のそはやき要素の植物もある。カラマツ・タマアジサイなどはこの地域から進出したものと推定されている。

3. 日本海地域

北海道の南西一部と本州の日本海側の大部分を含む地域である。太平洋側産に対応する個有属がある。深雪地帯であり，枝の横にはう樹形や葉の細形などが目立つ。

4. フォッサマグナ地域

学者により多少の相違はあるが，静岡県御前崎あたりから東，房総半島の一部を含む範囲から，日本海側の新潟県糸魚川へ向って線引きした区域である。南は伊豆諸島から硫黄島までの範囲である。

火山活動の影響が種の形成を引き起したと思われる地域で，ガクアジサイの葉の多肉化，ハコネコメツツジ・イズカニコウモリ・フジイバラ・フジアザミをはじめ，ここから展開したと思われる植物

が多い。三浦半島で見られる オオバヤンチャブシ・ハコネウツギ・オオシマザクラ アシタバ・イソギク・ユキヨモギ・ワダン など数多くの植物が指摘される。

海岸に生える植物が多いので、今回の調査にあたっては海岸区を設定し、これらフォッサマグナ要素の植物について 1 重点をおいた。

5. 美濃三河地域

岐阜・愛知にまたがる地域で、面積的には狭小であるが、植物的には変化のあるところで、 シデコブシ・シラタマホシクサ・ハナノキ など大変に珍しいものがある。

6. そはやき地域

日本のフロラのうち最も豊富なところである。そはやきとは小泉源一氏の命名であって、九州の熊襲(クマソ)の(そ)、速吸瀬戸の(はや)、紀の国の(き)の 3 字をまとめた“そはやき”である。

この種の大部分は遠くヒマラヤ・中国大陸の植物と関連をもつものである。また生態条件の類似から、南方の台湾や東南アジアのシダ類やラン類と共通するものも多い。地域的に紀伊・四国・九州と阿哲地域を除く中国地方であるが、三河とその奥地が飛地的にこの区域に編入されている。

7. 阿哲地域

岡山・広島両県にまたがる狭い地域で、 キビヒトリシズカ・シロヤマブキ・チョウジガマズミ などのように、朝鮮・中国との関連種が多い。阿哲とは岡山県新見市とその周辺をさした旧郡名である。

8. 小笠原地域

ここは中新世に隆起した古い地盤の島で、種数は少ないが固有種が多い。木本植物 99 種のなかで固有種は 53 種もあるという。シロテツ属・ワダンノキ属などは固有属である。

9. 琉球地域

台湾やマレーシアへ連なる亜熱帯の地域である。固有種は少ない。

日本列島の成り立ちについては、従来からいろいろ提唱されてきたが、最近では、かぎの手にくの字型の西日本弧に、同じようにかぎの手の東日本弧が、ちょうど本州中部で突きあたっていているとする説が認められている。

南北 2 弧の接点を南から北へ富士火山脈が貫いているところ、そこがフォッサマグナの地域である。

逗子市を含め、三浦半島の植物について考えるときには、フォッサマグナを除外して考えることはできない。

日本のフロラがどうしてこんなに複雑になったかという問題がある。それは地球の長い歴史の中で、日本列島は大陸と陸続きであったり、離れたり、100万年から1万年ほど前の時代には何回かの氷河期があった。氷河期は寒冷と陸地面積の増大の時期。氷河がとけた暖かい時代は海水があふれ、陸地は低下した。その都度植物にはいろいろ変化のあったろうことが考えられる。また北から、南から、西からといろいろな経路を通して、日本へ入った植物も多かったろう。長い地球の歴史の中で気象の変化、地形の変化などが複雑に関係しあった結果できたフロラである。

日本のフロラ区分



- | | |
|-------------|----------|
| Y えぞむつ地域 | S そはやき地域 |
| K 関東地域 | A 阿哲地域 |
| J 日本海地域 | B 小笠原地域 |
| F フォッサマグナ地域 | R 琉球地域 |
| M 美濃三河地域 | |

(前川文夫 世界の植物 48による)

フォッサマグナ要素の植物

1. フォッサマグナ

日本列島の東北の弧と南西の弧との接点、そこは新潟県糸魚川町からはじまり、南へ松本市・諏訪湖・山梨県韭崎を経て、静岡市付近へ引いた線が、ナウマンにより一大断層線として確認された。ナウマンはそこを“フォッサマグナ”と呼んだ。現在では日本の東北弧と南西の弧とが突きあたるところという説が定着しているようである。かつては海没し、第3紀の中ごろの比較的短い間に海底の火山活動が行われ、その後に陸化した地域である。伊豆七島から天城山・愛鷹山・箱根・富士山などを含む地域である。

陸化に伴って周囲から侵入した植物が新しい火山裸地と、火山に由来するいろいろな新しい環境に適応し変化して、新しい種類に次第に分化していった植物が多いと考えられている。それがフォッサマグナ地域を特徴づける種類の大部分であって、現在は夏緑広葉樹林帯（落葉広葉樹林帯）を主たる生活域としている種類が多い。（神奈川県立博物館展示解説シリーズ1，1971）

2. フォッサマグナの植物

フォッサマグナ要素の植物は海岸近くに分布するものから、シイ・カン帯を過ぎブナ帯、更に高地のシラビソ・ハイマツ帯に生活域をもつものもある。生活域から分けると（1）海岸帯、（2）シイ・カン帯、（3）ブナ帯、（4）シラビソ・ハイマツ帯に分けられる。

○ 海 岸 帯

三浦半島・房総半島・伊豆半島・伊豆諸島の海岸で、特に第3紀層や熔岩で形成された海岸の断崖には、特有の種類がいくつも知られている。海岸の植物であるから、強い光線や潮風に耐えるように、葉は厚く光沢があって、大型なものが多い。これらの植物は近縁な植物が、フォッサマグナの周辺に知られているものが多い。海岸の植物を記すと次のようである。○印は三浦半島海岸で確認されるもの。

○ハチジョウススキ、シマタヌキラン、ハチジョウカンスゲ、オオシマカンスゲ、シマテンナンショウ、○ハマカンゾウ、サクユリ、○ワダン、シマキンレイカ、シチトウスミレ、シマホタルブクロ、ハチジョウイボタ、ハチジョウアキノキリンソウ、サクノキ、ハチジョウグワ、ハチジョウウシヨウマ、○ガクアジサイ、ハチジョウコゴメグサ、オオバエゴノキ、コハクサンボク、ハチジョウイタドリ、イズノシマダイモンジソウ などがある。ほとんどは伊豆諸島にのみ生活域をもつものである。

人により見解の相違はあるが ○オオバヤシャブシ、○アシタバ、○ユキヨモギ、○イソギク、○オオシマザクラ、○カジイチゴ、○ハチジョウキブシ、○イガアザミ（タイアザミ）なども海岸型のも

のとして認められることが多い。

○ シイ・カン帯

シイ・カン帯の植物で三浦半島に関係あるものをあげると ○カンアオイ, ○ムカゴネコノメ, ○トウゴクミツバツツジ, ○キヨスミイボタ, ○ハコネウツギ などがある。

○ ブナ 帯

かなり高地(700～800 m以上)であるから、三浦半島にはほとんど関係がないが ○シバヤナギは見ることができる。このブナ帯では アマガミアマチャ, ハコネコメツツジ, ムラサキツリガネツツジ, ハコネギク, フジアザミ, サガミジヨウロウホトトギス, スルガジヨウロウホトトギス, ウラハグサ, マメザクラ, サンシヨウバラ, アマガイツツジ, ホウオウシャジン など珍しい植物が多いところである。

逗子市の海岸は自然の状態では、フォッサマグナの海岸帯の植物が生育するところであるが、海岸線はほとんど埋立てられて、護岸工事が行われており、植物の生存する余地がない。わずかに小坪4丁目大崎の海岸崖地、新宿5丁目の国道134号線ぞいや披露山の斜面、桜山9丁目のごく一部の崖地で海岸帯の植物を認めることができる。

ハチジヨウススキ, ハマカンゾウ, ガクアジサイ, オオバヤシャブシ, アシタバ, ユキヨモギ, イソギク, カジイチゴ, イガアザミ, ハチジヨウキブシ, オオシマザクラ などがそれである。

北 限 の 植 物

1. 暖かい逗子市

それぞれの土地に各様の植生が成立することについては既に記したとおり、気候的要因や地質・地形的要因などが主であるが、そのほかに古い時代からの地球の歴史も加わって複雑なものである。しかしごく端的に見れば、気候的要因が最も強く働いている。

気候的要因は温度と湿度の二面がある。日本の気候は乾湿度要因からは、すべて湿润気候帯に属するが、南北に長い地形は温度要因からは複雑である。

温度要因は単純に、その土地の最低気温や年平均気温などでは割り切れない。植生の成立について、一種の積算温度的な試みがなされてきた。暖かさの指数・寒さの指数（吉良，1949）がそれである。

暖かさの指数の求め方は、毎月の平均気温から5℃を引く、平均気温5℃以下の月は0とし、この残りの数の総和を暖かさの指数という。

寒さの指数は、平均気温が5℃以下の月についてのみ、5℃から月平均気温の値を引き、その総和を求める。逗子市の場合は寒さの指数は論外である。

暖かさの指数85～180の範囲内には常緑広葉樹林（照葉樹林）が成立し、逗子地区もその通りであり、常緑広葉樹林の破壊されたあとに、代償植生が成立していることは“逗子市の植生”に説かれている。

同書によれば、逗子市の暖かさの指数は116であり、気候的には房総半島の南部や南東部ときわめて類似していると指摘されている。

寒地には寒地の植物が、暖地には暖地を好む植物が生育することは当然である。植物はそれぞれ個体を維持するとともに、種属の生活範囲を広めようとしている。気候温暖な逗子市には、暖地性の植物が北上し生育していることは想像に難くない。

2. 北限の植物

暖地性の植物が次第に北上し、それ以上は北進できなくなると、そこが北限地である。同様に北方の寒地性の植物が南下し、南下の限界線は南限である。

逗子市を含めて気候温暖な三浦半島までは生育している植物、関東の南部までは、関東北部までは、房総南部まではなど、従来調査されて限界のはっきりしている植物が数多くある。

房総南部、関東西部、関東南部、関東以西と記載（大井・日本植物誌）された植物がたくさんある。

神武寺や桜山大山などは植物の種類が多く、北限や北限に近い植物も多い。逗子市域と関連のあるそれらを抽出すると次のようである。

○ 関東以西と記載されている植物

カヤ(イチイ科), イヌガヤ(イヌガヤ科), ヤブミョウガ(ツクサ科), ヤマラッキョウ(ネギ科), ウバユリ・アマナ・ヤブラン(ユリ科), キンラン(ラン科), ウバメガシ・スダシイ(ブナ科), イタビカズラ・イヌビワ(クワ科), オオバウマノスズクサ(ウマノスズクサ科), ハママツナ(アカザ科), ムベ(アケビ科), シキミ(シキミ科), サネカズラ(モクレン科), クスノキ・ヤブニッケイ・カゴノキ(クスノキ科), タイトゴメ(ベンケイソウ科), タコノアシ(タコノアシ科), イワボタン・ヒメウツギ(ユキノシタ科), リンボク・ジャケツイバラ(バラ科), ハゼノキ(ウルシ科), クログアネモチ(モチノキ科), ハチジョウキボシ(キブシ科), ツルグミ・マルバグミ(グミ科), ハマウド・ハナウド(セリ科), ヤブデマリ・コバノガマズミ(スイカズラ科)。

○ 関東南部以西と記載されている植物

イヌマキ(マキ科), メダケ(イネ科), ナベワリ(ビャクブ科), ハマカンゾウ(ユリ科), ハナミョウガ(ショウガ科), マテバシイ(ブナ科), ヒメイタビ(クワ科), カクレミノ(ウコギ科), イズセリョウ・マンリョウ(ヤブコウジ科), イガアザミ=タイアザミ(キク科), フウトウカズラ(コシユウ科), ヤマモモ(ヤマモモ科), ジュズネノキ(アカネ科)。

○ 安房以西・伊豆以西など, より南のものとして記載された植物

オモト・キヨスミギボウシ(ユリ科), ムカゴネコノメソウ(ユキノシタ科), フユイチゴ(バラ科), イワタイゲキ(トウダイグサ科), ホルトノキ(ホルトノキ科), ハマボウ(アオイ科), ウラジロマタタビ(マタタビ科), カラタチバナ(ヤブコウジ科)。

○ 生育地の限定されて記載されている植物

ヒロハノアマナ(ユリ科) 武蔵・伊勢, カンアオイ(ウマノスズクサ科) 関東・中部, ガクアジサイ(ユキノシタ科) 相模・伊豆・伊豆七島, アシタバ(セリ科) 関東・伊豆, キヨスミツバツツジ(ツツジ科) 関東南部・東海道, オカイボタ(モクセイ科) 関東南部・伊豆, マネキグサ(シソ科) 相模川以西・東海道・九州, ワダン(キク科) 関東南部・東海道, イソギク(キク科) 上総・相模・伊豆・駿河, ユキヨモギ(キク科) 相模・伊豆七島, ヒトモトススキ(イネ科) 相模・能登以西, オオバヤシャブシ(ハンノキ科) 関東以西・紀伊, アツバスマレ(スマレ科) 本州南岸・伊豆七島・小笠原, ヤツデ(ウコギ科) 磐城以南, ハナネコノメソウ(ユキノシタ科) 磐城以西, ハマナタマメ(マメ科) 東海道以西, ヒメユズリハ(トウダイグサ科) 本州中南部。

ドクウツギ(ドクウツギ科) 近畿以東, ヤマユリ(ユリ科) 中部以北, アズマネザサ(イネ科) 関東以北・東南北部。

以上の中で三浦半島が北限か, 北限に近いであると思われる植物は次のとおりである。これはまた神

武寺あたりが北限か、北限に近いであろうと考えてもよいようである。

ハマカンゾウ、イズセンリョウ、マンリョウ、フウトウカズラ、キヨスミギボウシ、ムカゴネコノメソウ、ホルトノキ、ジュズネノキ、カラタチバナ、キヨスミミツバツツジ、そのほかシダ類のホウビシダ、アマクサシダ、クリハラン、ヒトツバ など数多くある。

3. シダ 係 数

シダ植物は高温多湿を好む植物である。シダ植物の種類の多いところは九州や四国、北へ上ってくると四国、紀伊半島、伊豆半島、三浦半島などで、房総半島を過ぎると、個体数はあっても種数は少なくなってしまう。

シダ類を資料として、主にフロラの高温多湿性を比較する係数の定めがある。P t p h - Q と略記する。区域に自生する顕花植物の種数 = A その区域に自生するシダ類の種数 = B として、次の式によって係数を求める。 $(B \times 25) / A$

世界全体の平均的基準で B / A は $1 / 25$ として成立させた公式である。

本州では2.1 九州では3.1 屋久島では5.3 大体南へ行くほど高く、海洋に近い土地、島などでは高率を示す。

神武寺の係数は顕花植物の種類総数 $A = 225$ 、シダ類の種類総数 $B = 64$ $(64 \times 25) \div 225 = 7.1$ で神武寺域内が高温多湿であり、シダ類の生育に適しているのがわかる。

逗子市全域について見ても顕花植物の種類総数 $A = 687$ シダ類の種類総数 $B = 110$ シダ係数 = 4.0 となって、かなり高温多湿を示すことになる。ただシダ類の中には、単に1回だけ報告があったというものも入っている。そこで割引いて考えるとしても暖かいことをうかがい知ることができる。

特 筆 さ れ る 植 物

1. 木 本

○ ナギ（マキ科） 法性寺境内

奈良の春日神社の裏山の ナギ の純林は、国の天然記念物に指定されている。暖地の植物で、中国地方西部から四国・九州にかけて自生する植物である。庭木として植栽される。

葉は皮針形～楕円状皮針形で長さ6 cm，幅2 cmほどで，葉脈は縦に通り主脈はない。葉質は厚く縦に裂ける。雌雄別株であるが，法性寺の ナギは雌木で，よく実がなる。落下して発芽しているものも数多くある。これを育てていけば苗を得ることができる。

本州西部，四国，九州から沖縄にかけての植物であるが，山口県吉敷郡が自生の北限地であったが乱伐の結果，残りわずかに1株ということである。

寿命の長い木で，奈良春日神社裏山には周囲0.3～3 mのものが13,600本といわれ，古いものは樹齢が1000年と推定されている。

法性寺の ナギ も関東では珍しい古木で，目通り周2.1 mほどある。

○ カ ヤ

ホンガヤ とか カヤノキ などともいわれる。昔蚊やりに用いたのでカヤリから カヤ になったとのこと。古名カヘが転じて カヤ になったという説もあり，いろいろである。碁盤にして最高のものといわれる。

常緑の喬木で雌雄異株である。樹皮は灰褐色で老成して縦裂してはげる。枝は主幹に車軸状につき，やや水平である。葉は長さ1.8～2.5 cm，幅0.2～0.3 cm，先端はとがり硬い。 カヤ 特有の香気がある。

本州山形県鳥海山・宮城県御岳が自生の北限，九州屋久島は自生の南限である。朝鮮の済州島にも自生があるという。

群馬県勢多郡にある カヤ は高さ25 m，目通り周7.6 m，静岡県浜名郡のものは高さ27 m，目通り周が6.7 m，そのほか各地に巨木があり，国の天然記念物に指定されているものも多い。

沼間2丁目馬場橋奥にある カヤ は独立した1株で，目通り周2.2 mで丈高く伸びあがっている。付近にケケヤキ の大木が10本ほどあるが，沼間2丁目桐ヶ谷さん所有のものであろうか。

○ ケ ヤ キ

ケヤキ の花はあまりよく知られていない。雌雄同株で雌花は新しい枝先に，雄花は新枝の基部につ

く。

ケヤキ は名の知られた木で、新葉が出そろった時も美しいが、冬の落葉期は一層 ケヤキ らしい風格がある。遠くから見て顕著な木で顕也木から ケヤキ の名が起ったともいわれている。

関東平野のシンボルでもあるが、本州・四国・九州にあり、北海道には自生はないという。巨木・大木が各地にあり、静岡県安倍郡賤機村で昭和5年に伐木したものの例では、目通り周3.15 mで樹齢75年であったという。各地に天然記念物に指定されている ケヤキ が多い。

沼間2丁目の桐ヶ谷さん方の庭先には、目通り周2.5 m前後の大木が10本ほどある。これだけのケヤキ の大木の集まったところも少なくなってしまった。

○ エノキ

エノミノキ、ヨノミ、ヨノミノキ などいろいろの名がある。万葉集では単に(エ)という。枝の多い木から エノキ と呼ばれるようになったという。

ケヤキ、イチョウ などと並んで巨木が多く、天然記念物に指定されているものも多い。

樹皮は灰黒色で老木ではイボ状になり粗い。葉は卵形～卵状長楕円形でざらつく。昔は木・竹の角を研摩するときに、サンドペーパーのように使用したという。

池子2丁目地先、道路ぞいの稲荷社そばの エノキ は古木ではないが、巨岩を抱いた根上りで、姿が珍しいものである。

○ 五霊社の社そう

沼間3丁目に巨木に囲まれて五霊社がある。社寺の周囲や裏山などにある林は手をつけられずに、後世まで残るものが多い。そのため社寺林を見ればその土地の昔の植生をうかがい知ることができる。

五霊社の林は社そうというには余りにも面積が狭少であるが、イチョウ・ケヤキ・ツバキ などの大木がある。

○ カエデの林

久木7丁目、米軍接収地の尾根筋近くに カエデ の群生がある。近寄れないので調査不十分であるが、かなりの面積に巨木を交えた群落がある。

カエデ は桜山大山の谷すじにも1～2本ずつはあるが、ここほどまとまった本数のあるところは少ないであろう。

後日接収地の解除になった際には是非とも保護を加え、後世まで残したいものである。

○ 神武寺の巨木

神武寺の ズクノキ については説明の高札がある。そのほかにも注目すべきものが多い。

○ モミ

モミの樹皮は一見 クロマツ に似て粗く割れる。日本原産の樹木で、岩手県衣川以南四国・九州にまで自生する。この属の中では最も南にまで自生する。

雌雄同株で、ツガ と間違えられたり、混同されることがある。ツガ は葉が小ぶりであるし、球果は長さ 2.5 cm ほどで枝先に下向につく。モミ は葉が大きく密集し、球果も大きく長さ 10 cm ほどにもなり、上向きにつく。

神武寺のモミは目通り周 4.25 m もあり巨木というにふさわしい。樹勢はやや衰え気味である。

○ アカガシ

老木になると樹皮が円形にはがれて目立つ。葉が大きいので オオバガシ と呼ばれることもある。葉にきょ歯のあるものないものいろいろあり、きょ歯のあるものを ナラアカ と呼び、きょ歯のないものを アカガシ・ツボガシ・マテバガシ・クマノアカガシ などの名がある。

芽出しのころ幼枝や若葉に褐色の長軟毛あり、直ちに落ちて無毛になる特色がある。

神武寺には最大と思われる目通り周囲 3.3 m のもののほか数株の 老アカガシ がある。

○ イヌマキ

葉は幅 1 cm ほどで長さ 10 ~ 15 cm ほどの細長い形をしている。関東南部以西に自生する樹木である。神武寺のものは植栽されたものであろう。雌雄異株で、ダルマ のような実がなり、上が実で下は花たくであり、その部ははじめ紅色、熟して紫紅色となるのでよくわかる。神武寺の最大は目通り周 1.75 m ある。巨木に類するものであろう。

○ カヤ

前に沼間 2 丁目の カヤ について記したが、神武寺の カヤ も同じ太さである。

ともに時期を失し花も果も見えていないので雌雄は判別していない。

○ トウゴクミツバツツジ

神武寺の本堂へ行くのには掘り割った通路を進む。その通路の両肩に数株の トウゴクミツバツツジ がある。春にまだ葉の開かないうちに淡紅色の花を株いっぱいにつけ、たいへん美しいツツジである。

寺の裏手の山中にもあるが、昔は各所にあったものと思う。花が美しいので掘り取られてしまったのかもしれない。それにしても民家の庭にも大株が見当たらないのも不思議である。

○ ミツデカエデ

落葉高木で高さ 12 ~ 15 m、径 0.7 m にもなる。雌雄異株であるが、神武寺のものは雌雄を確認して

いない。葉が3出複葉でありほかのカエデ類とはすぐ判別がつく。逆にカエデの仲間であることを疑うような葉である。葉柄が長く、小葉は卵状長楕円形で上半部にきょ歯があり長さ5～8cm、幅2～3.5cmほどの小葉3枚（5枚もある）からなる。

“北海道・本州 四国・九州に産す”と図鑑にはあるが、三浦半島では野生のものを見たことがない。神武寺のものは幹の目通り60cmほどで、若い木であるが、いつ植栽されたかわからない。（以上神武寺）

○ クスノキ

クスノキは暖地の常緑喬木で、各所に植えられて老木が多く、自生の巨木も多いので天然記念物に指定されているものが数多い。逗子市内ではクスノキの大木を見かけない。

日本の最大のクスノキは鹿児島県姶良郡蒲生村八幡宮境内の“蒲生の大クス”で、地上1.5mでの周囲が15m、1.8mでの周は20mあるという巨木である。

桜山7丁目桜山隧道上の林内に10株ほどのクスノキが植栽されている。遠望では大木がしげっているように見えるのがそれであり、若木であるが、数が多いので記しておく。

特筆される植物 1



池子2丁目 石つきエノキ
(稲荷社のそば)



フウトウカズラ
日本に産するただ一つの
コショウ科の植物。
これも北限か。

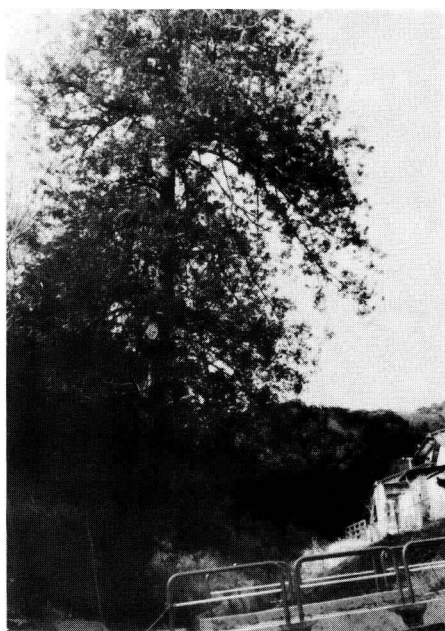


ヒメイタビ (クワ科)
植物図鑑には房総半島以西
とあり、神武寺あたり北限
に近い暖地の植物。

特筆される植物 2



沼間2丁目 ケヤキ
(ヤドリギが点在する)



カヤ(カヤノキ)の大木
沼間2丁目(桐ヶ谷さん裏手)
神武寺に同じ大きさの一株あり。



法性寺のナギ
お寺では樹齢700年といっ
ています。とにかく古い木です。

神 武 寺 の 植 物

三浦半島は、住宅地化や新しい道路の建設等によって、多くの森林が伐り倒され、山は削られ、湿地や田は埋められるなどして多くの植物が姿を消してしまった。そんな中で、神武寺の寺林には、 ヤブ コウジ — スダジイ群集 の見事な樹林や、小面積であるが、 ホソバカナワラビ — スダジイ群集 の林がある。また、 エノキ — ミズキ の群落や、 スギ、ヒノキ などが植林されていて、三浦半島の植物の宝庫といってもいい程、多くの植物を見ることができる。従って、神武寺は、古くから植物を学ぶ者に知られ、その名を知らぬ者はない程有名である。神武寺を初めて訪ねたのは、久内清孝、佐伯立四郎の両氏であり、明治44年(1911)8月11日のことである。それから、牧野富太郎先生に紹介され、先生は、大正2年(1913)4月6日に訪れ、ハウビンダ、フモトカグマ、ヤマヤブソテツ を発見されている。以来今日まで、植物を学ぶ者は、一回は必ず神武寺を訪れているのである。

神武寺の植物を観察するためのコースは、大きくわけて、国鉄の東逗子駅側からと、京浜急行の神武寺駅側からと、鷹取山から尾根づたいの三つがある。各コースとも、路傍、岩、林内、谷間、川沿い、草地に四季おりおりの花が見られ、草や木の実をも楽しめる。

次に神武寺に多くみられるもの、以前はあったが現在は見られなくなったもの、そして、今希少になってしまったものを四季にわけて記すこととする。

1. 神武寺の春

神武寺の春の訪れをいち早く知らせるのは、 オオイヌノフグリ と ホトケノザ そして フキのとう である。以前は、 イヌノフグリ も見られたが現在は オオイヌノフグリ が多い。花は、コバルト色で、朝開き日が傾くとしぼみだす。 ホトケノザ は、紅紫色の唇形花を数個輪生につける。春の七草の ホトケノザ は、キク科の タビラコ のことであって、しそ科の ホトケノザ ではない。フキのとう は、早いものは、1月頃頭をもたげ出すが、ぐんぐんと伸びてくるのは、春になってからである。雌花は白色、雄花は白黄色で食用または薬用になる。

神武寺周辺で、春に開花し割合に多く見られるものは、 ハハコグサ、タチツボスミレ、ハルノノゲシ、キランソウ、ジシバリ、タツナミソウ、ハルジオン で、畑地や神武寺の参道で多く見られ、タチツボスミレ、キランソウ は路傍や土手の日当りのよいところにある。 コウゾ は、日本紙の原料としてよく知られている。 ヤマグラ の葉と似ているので、小学生は、蚕に食べさせさせるため コウゾ の葉を採取してくることがある。 ヤマザクラ は、神武寺のどの斜面にもたくさんあり、春の山を飾っている。

2. 神武寺の夏

初夏の神武寺の山は、マルバウツギ、ウツギ が純白の花を開き、山はだでひときわ真白に目立って花を咲かせているのは ヤブデマリ である。白色の花にまじって、晩春から初夏にかけて ヤマブキ が黄色い花をつけている。ヤマツツジ もあちらこちらにあり、大きな株になっていて赤色の花を咲かせている。以前よりその数はだいぶ減ってしまった。神武寺には トウゴクミツバツツジ が自生している。トウゴクミツバツツジ は、富士、箱根要素の植物で、大山、丹沢の各地には多いものである。しかし、三浦半島では、神武寺にしか自生していないたいへん貴重な植物である。山林の中に入ると、シャガ、ジャノヒゲ、エビネ、サイハイラン、ヤブラン、ミヤマウズラ があり、その中で、シャガ は大群落を作って、白紫色の花を咲かせている。ニリンソウ も山すその林の下や林のふちで純白の花をつけ、シャガ に劣らぬ群落を作っているのを見かける。また、溪流の淵には、三浦半島でも少なくなった セキショウ がある。鷹取山から神武寺へ通じる尾根には、ハコネウツギ がある。ハコネウツギ は、一つの株に白色、紅紫色、淡紅色の花を同時につけている。尾根の日当りの良い所には、オカトラノオ があり、つる性のものでは、スイカズラやテイカカズラ が、良い香りのする花をつけ他の木にからみついたり、岩からたれさがったりしている。

神武寺の参道の道ばたや土手、草地には、ゲンノショウコ、ミヤコグサ、マツヨイグサ、ノカンゾウ、ホタルブクロ、ナツノタムラソウ 等が花を開いている。花の色、形、大きさは、植物それぞれが特徴をもち、あるものは、人の背よりも高く伸び、あるものは、地面をはうようにしている。岩や岩壁には、ケイワタバコ、ミツデウラボシ が着生し、特に、ケイワタバコ の花の最盛期には、岩や、岩壁を埋めてしまう。神武寺には、ヤマユリ もあり、花は1つもっているものや、5～6個の花をもっているものもある。モジズリ は、芝生の中でよく見られるものであるが、山つづきの鷹取山では、山へ登る道の斜面の草地にたくさん生えている。

3. 神武寺の秋

秋は キク の季節である。神武寺には、ノコンギク、ヨメナ、シラヤマギク、ヤマシロギク、リュウノウギク などがある。一般には野菊と言われている。野菊とは山野に自生しているキクの仲間という意味であり、ノギクという名のついた特定の植物をさしているのではない。すなわち、キク属、シオン属、ヨメナ属などにわかれていて、おもに秋に開花する種類の総称である。ノジギク、アワコガネギク、リュウノウギク、アブラギク、ヨメナ、ヤマシロギク(シロヨメナ)、ユウガギク、ノコンギク などがおもなものである。

ヨメナとノコンギク の舌状花は紫色をしており、ヤマシロギクとシラヤマギク の舌状花は白色をしていてよく似ている。リュウノウギク は、山野の崖地を特に好んでおり、白色の花を開く。そのほか、きく科の植物では ヤクシソウやコウゾリナ が黄色の花を咲かせている。

神武寺の参道や、林の日陰のところには、ホトトギスの仲間がある。神武寺で見ることのできるホトトギスの仲間は、ホトトギス、ヤマホトトギス、ヤマジノホトトギスである。ユリの花を小さくしたような形で、内側に濃い紫色の斑点がたくさん付いているので、全体が美しい紫色に見える。

ススキが一面に生えているところもあり、そのススキの根元には、ナンバンギセルが淡紅色、ほぼ唇形で横向きに開いている。ナンバンギセルは、万葉集に出てくることでも知られている。

神武寺の湿地のところには、ツリフネソウが大群落をつくっている。紅紫色の花で一面を覆ってしまう程である。ツリフネソウの花の形は、金魚が口を開いたような形である。林内で斜面になっている所には、イワギボウシがある。群落もあり、他のところでは点々と生えているのを見ることができる。大きな淡紅紫色の花を花茎にいくつもつけて咲いているのはみごとである。また、秋の七草の一つであるクズが、木にからまったり、荒地をほうように互いにからまりあって、蝶形をした紅紫色の花を密につけているのが見られる。

4. 神武寺の冬

神武寺の山を彩っていたハゼノキ、イロハカエデ、クヌギ、ケヤキ、ヤマグワなどの落葉樹や、クズ、ナガイモ、カラスウリなどのつる性の植物は、霜が降りる頃となればすっかり葉を落してしまう。そのような時、スギ林や、スダジイの林では、ヤブラン、キチジョウソウ、ジャノヒゲ、ヒメヤブラン、カラタチバナ、マンリョウなどが、宝石のような実を付けている。ヤブラン、ヒメヤブランの実は、球形で黒色をしており、ジャノヒゲの実は碧色をしている。キチジョウソウは、群落をつくり、真紅の実を3個位ずつ1本の花茎につけている。また、カラタチバナやマンリョウも球形の赤色の実を小枝の先にたくさんつけそれぞれ林床を飾っている。赤色の実をつけるものには、お正月のお飾りに使われるヤブコウジがある。ヤブコウジは、林内のややかわいた所は勿論、尾根の斜面の半日陰の所に群生している。最近、ヤブコウジを十両、カラタチバナを百両と言って、センリョウ（千両）やマンリョウ（万両）といっしょに栽培されている。樹陰にはまたつる性のフユイチゴがある。フユイチゴの実は冬に赤く熟して食べられる。冬の林床植物として目立つものにカンアオイがある。花は、晩秋から初冬にかけて開く。香気が強烈である。カンアオイの葉は、シクラメンの葉に似ていて、葉の模様は個体によっていろいろある。

低木で実をつけるものには、アオキ、ヤツデがある。神武寺の山にはアオキが群生している。雌木には、楕円形の赤い核果がつき、一般にはダルマノ実と言われている。アオキのことをダルマノキという所もある。ヤツデは、秋に花を咲かせ、球形の果実をもつ。そして翌年黒く熟す。ヤツデは、日かげでも、日なたでも育つ木である。

5. 神武寺のシダ

三浦半島は、比較的気候条件は温和で、全般的に言って暖地性植物地帯である。神武寺で見られる

シダにしても暖地性のシダが多い。神武寺のスギ林には多くのシダが繁茂している。神武寺にあるシダの種類は、目録にもあるように60余種類である。

イタチシダやツルデシダのようにやや乾いた日かげを好むシダ、リョウメンシダやクリハラン、イワガネゼンマイのように陰湿地を好むシダ、コバノカナワラビ、ホソバノカナワラビのようにシイの林の下を好むシダなど、多くのシダが、谷間、平地、岩、樹幹上などにそれぞれ好む場所で生育している。

① 豊富にあるシダ

- ・温帯から暖帯にかけて分布するシダ…… リョウメンシダ、イワガネゼンマイ、イヌワラビ等
- ・暖帯に分布するシダ …………… イタチシダ、ホソバカナワラビ、イノデ、ノコギリシダ、イノモトソウ、ベニシダ、コモチシダ、ゲジゲジシダ等

② 稀少なシダ

- ・暖帯に分布するシダ …………… ウラジロ、コシダ、ヒトツバ、カタヒバ、フモトカグマ、コバノカナワラビ、アオホラゴケ
- ・熱帯から温帯に分布するシダ …………… ホウビシダ

神武寺及び鷹取山の植物目録

○ しだ植物門

- | | | | |
|----|-----------|----|------------|
| 1 | フユノハナワラビ | 15 | フモトシダ |
| 2 | ナツノハナワラビ | 16 | フモトカグマ |
| 3 | ゼンマイ | 17 | タチシノブ |
| 4 | カニクサ | 18 | ワラビ |
| 5 | ウラジロ | 19 | イノモトソウ |
| 6 | コシダ | 20 | ホランノブ |
| 7 | ハイホラゴケ | 21 | オオバノイノモトソウ |
| 8 | ウチワゴケ | 22 | イヌワラビ |
| 9 | ホウライシダ | 23 | ヤブソテツ |
| 10 | ハコネシダ | 24 | シケシダ |
| 11 | イワガネソウ | 25 | ヘランシダ |
| 12 | イワガネゼンマイ | 26 | ノコギリシダ |
| 13 | ウラゲイワガネ | 27 | オオイタチシダ |
| 14 | クジャクフモトシダ | 28 | オニヤブソテツ |

- | | |
|-------------|--------------|
| 29 トウゴクシダ | 47 コバノカナワラビ |
| 30 ベニシダ | 48 ヤマヤブソテツ |
| 31 オオベニシダ | 49 フギレオリズルシダ |
| 32 クマワラビ | 50 ジンムジシダ |
| 33 イタチシダ | 51 トラノオシダ |
| 34 ミゾシダ | 52 ホウビシダ |
| 35 ゲジゲジシダ | 53 ミツデウラボシ |
| 36 ツルデンダ 文 | 54 マメヅタ |
| 37 オリズルシダ | 55 ノキシノブ |
| 38 イノデ | 56 クリハラン |
| 39 アスカイノデ | 57 ヒトヅバ |
| 40 アイアスカイノデ | 58 トウゲシバ |
| 41 ヒメカナワラビ | 59 クラマゴケ |
| 42 イヌガンソク | 60 コンテリクラマゴケ |
| 43 オオカナワラビ | 61 コモチシダ |
| 44 ホソバカナワラビ | 62 ミドリヒメワラビ |
| 45 リョウメンシダ | 63 ヒメワラビ |
| 46 オクマワラビ | 64 カタヒバ |

・ 単子葉植物綱

- | | |
|-------------|------------|
| 1 セキショウ | 15 ウバユリ |
| 2 ウラシマソウ | 16 ツルボ |
| 3 マムシグサ | 17 アマドコロ |
| 4 ヤブミョウガ | 18 ナルコユリ |
| 5 ツユクサ | 19 ホウチャクソウ |
| 6 ヤマホトトギス | 20 キチジョウソウ |
| 7 ヤマジノホトトギス | 21 オモト |
| 8 ホトトギス | 22 ヤブラン |
| 9 ギボウシ | 23 ヒメヤブラン |
| 10 イワギボウシ | 24 ジャノヒゲ |
| 11 ノカンゾウ | 25 サルトリイバナ |
| 12 ノビル | 26 ヒガンバナ |
| 13 ヤマラッキョウ | 27 ヤマノイモ |
| 14 ヤマユリ | 28 ナガイモ |

29	トコロ	42	オヒシバ
30	シャガ	43	チカラシバ
31	ニワゼキショウ	44	エノコログサ
32	ミョウガ	45	メヒシバ
33	モジズリ	46	チジミザサ
34	ミヤマウズラ	47	オカルガヤ
35	エビネ	48	メガルカヤ
36	サイハイラン	49	ススキ
37	フウラン 文	50	アブラススキ
38	アズマネザサ	51	ジュズダマ
39	コバンソウ	52	カヤツリグサ
40	ヒメコバンソウ	53	シュロ
41	カラスムギ		

被子植物門

・双子葉植物綱

・離弁花亜綱

1	ドクダミ	18	ヤブマオ
2	アカメヤナギ	19	アカソ
3	クマシデ	20	ラセイタソウ
4	クリ	21	カラムシ
5	コナラ	22	カンアオイ
6	クヌギ	23	ヒメスイバ
7	マテバシイ	24	オオイヌタデ
8	イタジイ(スダジイ)	25	ヤブタデ
9	ケヤキ	26	ミゾソバ
10	エノキ	27	ナガバノウナギズル
11	クワ(ヤマグワ)	28	ママコノシリヌグイ
12	コウゾ	29	ミズヒキ
13	イヌビワ	30	イタドリ
14	カナムグラ	31	イヌタデ
15	イラクサ	32	アカザ
16	イタビカズラ	33	コアカザ
17	ミズナ	34	アリタソウ

35	イノコズチ	70	ネコノメソウ
36	アオユビ	71	ウツギ
37	アメリカヤマゴボウ	72	マルバウツギ
38	ザクロソウ	73	バイカウツギ
39	スベリヒユ	74	タマアジサイ
40	ハコベ	75	ヤマアジサイ
41	ウシハコベ	76	ヒメウツギ
42	ノミノフスマ	77	ガクウツギ
43	ミミナグサ	78	サワアジサイ
44	ツメクサ	79	トベラ
45	ノミノツヅリ	80	ココメウツギ
46	サネカズラ	81	シモツケ
47	ヒメウズ	82	ウシコロシ
48	ヤマトリカブト	83	ヤマブキ
49	サラシナシヨウマ	84	モミジイチゴ
50	アキカラマツ	85	ニガイチゴ
51	ニリンソウ	86	ナワシロイチゴ
52	スハマソウ	87	ヘビイチゴ
53	シロバナハンシヨウズル	88	キンミズヒキ
54	センニンソウ	89	テリハノイバラ
55	アケビ	90	ソメイヨシノ
56	ヤブニッケイ	91	ヤマザクラ
57	タブノキ	92	リンボク
58	シロダモ	93	オオウラジロノキ
59	クロモジ	94	マメザクラ
60	クサノオウ	95	ネムノキ
61	タケニグサ	96	ジャケツイバラ
62	ムラサキケマン	97	シロツメクサ
63	マメグンバイナズナ	98	ムラサキツメクサ
64	ナズナ	99	ウマゴヤシ
65	ヤマハタザオ	100	ミヤコグサ
66	タネツケバナ	101	コマツナギ
67	コモチマンネングサ	102	ヤマフジ
68	ユキノシタ	103	ヌスビトハギ
69	アカシヨウマ	104	キハギ

105	メドハギ	139	ヤブガラシ
106	カラスノエンドウ	140	ノブドウ
107	ナンテンハギ	141	モガシ(ホルトノキ)
108	ツルマメ	142	ムクゲ
109	クズ	143	ツバキ(ヤブツバキ)
110	ミソナオシ	144	ヒサカキ
111	ノササゲ	145	オトギリソウ
112	ヒメハギ	146	ニョイスミレ
113	カタバミ	147	タチツボスミレ
114	ムラサキカタバミ	148	スミレ
115	ゲンノシヨウコ	149	キブシ
116	サンシヨウ	150	オニシバリ
117	イヌザンシヨウ	151	ナツグミ
118	カラスザンシヨウ	152	ナワシログミ
119	ヒメハギ	153	サルスベリ
120	エノキグサ	154	ミズタマソウ
121	トウダイグサ	155	マツヨイグサ
122	ナツトウダイ	156	オオマツヨイグサ
123	ニシキソウ	157	コマツヨイグサ
124	オオニシキソウ	158	ヤツデ
125	アカメガシワ	159	キズタ(フユズタ)
126	ハゼノキ	160	ウコギ
127	モチノキ	161	カクレミノ
128	タラヨウ	162	ウド
129	マユミ	163	チドメグサ
130	マサキ	164	ウマノミツバ(オニミツバ)
131	ミツバウツギ	165	ヤブジラミ
132	タカオモミジ	166	セリ
133	イタヤカエデ	167	アシタバ
134	ツリフネソウ	168	ノダケ
135	クマヤナギ	169	ミツバ
136	ケンポナシ	170	ミズキ
137	エビズル	171	アオキ
138	ツタ(ナツツタ)	172	ハナイカダ

・合弁花亜綱

- | | | | |
|----|----------|----|----------|
| 1 | ギンリョウソウ | 35 | タニジャコウソウ |
| 2 | ミツバツツジ | 36 | ミヤマトウバナ |
| 3 | ヤマツツジ | 37 | ク　　コ |
| 4 | オオムラサキ | 38 | ハダカホウズキ |
| 5 | イズセンリョウ | 39 | イヌホウズキ |
| 6 | ヤブコウジ | 40 | ヒヨドリジョウゴ |
| 7 | マンリョウ | 41 | ワルナスビ |
| 8 | カラタチバナ | 42 | サキゴケ |
| 9 | オカトラノオ | 43 | イヌノフグリ |
| 10 | コナスビ | 44 | オオイヌノフグリ |
| 11 | エゴノキ | 45 | ヒメトラノオ |
| 12 | マルバアオダモ | 46 | ナンバンギセル |
| 13 | イボタノキ | 47 | イワタバコ |
| 14 | ミヤマイボタ | 48 | キツネノマゴ |
| 15 | フジウツギ | 49 | オオバコ |
| 16 | ツルリンドウ | 50 | ヘラオオバコ |
| 17 | テイカカズラ | 51 | ヘクソカズラ |
| 18 | ネナシカズラ | 52 | ヤエムグラ |
| 19 | ホタルカズラ | 53 | ヨツバムグラ |
| 20 | ヒルガオ | 54 | アカネ |
| 21 | コヒルガオ | 55 | ニワトコ |
| 22 | キュウリグサ | 56 | ガマズミ |
| 23 | ムラサキシキブ | 57 | コバノガマズミ |
| 24 | クサギ | 58 | ヤブデマリ |
| 25 | キラソウ | 59 | ツクパネウツギ |
| 26 | ツルカノコソウ | 60 | スイカズラ |
| 27 | タツナミソウ | 61 | ハコネウツギ |
| 28 | カキドオシ | 62 | オトコエシ |
| 29 | ヒメオドリコソウ | 63 | ツルカノコソウ |
| 30 | ホトケノザ | 64 | カラスウリ |
| 31 | ナツノタムラソウ | 65 | アマチャズル |
| 32 | トウバナ | 66 | ホタルブクロ |
| 33 | ヤマジソ | 67 | ツリガネニンジン |
| 34 | ナギナタコウジュ | 68 | ヒヨドリバナ |

69	アキノキリンソウ	86	センダングサ
70	オオアワダチソウ	87	リュウノウギク
71	ヨメナ	88	ヨモギ
72	ハウキギク	89	ノボロギク
73	シラヤマギク	90	オケラ
74	ヤマシロギク	91	ノハラアザミ
75	ノコンギク	92	カシワバハグマ
76	ハルジオン	93	コウヤボウキ
77	ヒメジオン	94	コウゾリナ
78	ヤマハハコ	95	カンサイタンポポ
79	ホオコグサ	96	ジシバリ
80	ヤマタバコ	97	アキノノゲシ
81	ガンクビソウ	98	ヤクシソウ
82	ブタクサ	99	シキヨモギ
83	メナモミ	100	トネアザミ
84	オナモミ	101	カミツレモドキ
85	コメナモミ	102	ヒメガンクビソウ

羊 歯 植 物

1. 概 況

逗子の市街地より東に神武寺、鷹取山を望み、南に沼間、二子山へとつらなり、北側に久木方面の自然を、そして西に逗子湾を見る非常に自然の豊かなところに位置づけられている。それもそのはず、明治のはじめ頃より植物を愛好する多くの人々の観察会にまた採取会の場所になっていた神武寺、二子山地は、日本の植物学上にも大きな貢献をしてきたところといっても過言ではない。いま、それ等の事実は文献の上にもはっきりと記載されている事からも明瞭である。然しながら100年有余を経過した今日、神武寺、二子山地も近代化の波が、森林の乱伐、土地の崩壊等を産み、貴品、珍品とも思われる数多くの種類の絶滅を見るのである。特に神武寺、二子山地の周辺の開発は激しく進み、風通し、湿度、乾燥、温度、日光等の総合された要因が植物にあたえる影響は草木に対しては、致命的なものである。と同時に貧弱になった植物相は逆に環境にはたらきかけて周囲の環境を変えながら生育する、といわれるが、植物の種類は少しずつ変わっていくのであろうか。

人間と自然界との結びつき、とりわけ植物との関係は深い事は事実である。だから人間と植生との関係を正しく理解し、共に生きられるように努力したいものである。

2. 羊 歯 植 物

三浦半島に生育している羊歯植物は、温帯性、暖帯性のものといって差支えない。羊歯に限らず一般には、植物は高温多湿の地によく繁茂するといわれている。だから、寒い地方にはそれなりの羊歯が繁茂する。だが、種類は多くはないが、ある種の羊歯の群落とか、群生をなしているのを見ることがある。

日本の羊歯の種類は、人により多少の違いはあるが、700種、また約1000種類以上あるといわれている。ここ神武寺、二子山地、主として神武寺は実に100種類以上の報告がなされている。これは日本全国の約一割以上にあたるのである。こんなにせまい区域にこれだけのものがあつたという事実は見事なものである。しかしながら、現在では、こんなに多くのものを見ることができなくなってきた。目録の上ではっきりしているが、文献の上でのみ知るものも数多くなっている。

3. 羊 歯 の 一 部

ハウビンダ(チャセンシダ科) この属のシダは熱帯地方に産するものが多いとされ、オオタニワタリ、シマオオタニワタリをはじめ ヌリトラノオ、チャセンシダ、イヌチャセンシダ、トキワシダ、ヒノキシダ、クルマシダ、コウザキシダ 等あって、その数は約700種、全世界に分布し、日本には27種が知られているという。ハウビンダの北限は千葉県とされている。生育は南に行く程、大形のように思える。

最近(1981年12月)三宅島の ホウピシダ を見ることができたが、伊豆半島のものや三重県尾鷲のものと比較にならない程大形で長さ65cm~70cmをこえるものもある。どうしたことが、神武寺のものは、夏にはごく小さく、冬(12~1月)頃になると大きく育つようである。何れにしても このシダが三浦半島にあることは伊豆半島・千葉県にあることから、あたりまえとは申せ貴重である。

ホソバカナワラビ(オシダ科) 常緑性のシダで、ホソバカナワラビ、コバノカナワラビの2種は、暖帯林の林床植生を代表する重要な種類とされている。その自生地は主にスダシイ林に多く、コバノカナワラビ、ハカタシダ、オオカナワラビ、シノブカグマ、オニカナワラビ 等、この属にあるものは、リュウメシダを除けば、割合に乾燥した山中林下に自生することが多く、谷間の湿地帯などの場所には生育していない。尾根筋の両側にしばしば群落を作る。このシダも関東以西の暖地に自生するといわれている。神武寺のように、各所にその群落を見ることができるのは、群落自生地としての北限とされている。Type localityは、太平洋諸島であろうといわれている。コバノカナワラビ とは、頂羽片の発達により区別できる。また、ハカタシダ とは、葉柄の短いこと、羽片の数の多いことなどで区別することができる。

リュウメシダ(オシダ科) 常緑性のシダ。日本の各地に自生するとされている。場所により少ない地方もあり、点々としか、自生していないところもあり、三浦半島の自生は見事に群落を作っているといっていだらう。神武寺の南側の谷、東側の谷、また逗子・桜山方面の谷にも湿ったところ、杉林の下など大変立派である。このシダが他のシダと変わっているところは、胞子に葉緑素を有していることであるとされ、他には見られない特徴とされている。このシダは湿地を好むとされているが 伊豆半島・三宅島・八丈島などでは、数こそ少ないようであるが、かなり乾燥地にも生育しているのを見た。葉の裏と表が、はっきりしないシダである。

キョスミヒメワラビ(オシダ科) 常緑性のシダで、1886年に、故・松村先生が千葉県の清澄山で採取されている(Y. C. M)。常緑性とはいえ、千葉清澄では冬には枯れる寸前のものを観察した。

三浦半島での記録は、50数年前、長柄で、また神武寺でも発見されている。伊豆の天城山の中腹や南伊豆の青野にも、1mをこす大形のものがあり、三浦半島にもあって不思議とは思われないが、近年このシダを見たことがない。環境の変化によりなくなったものと思われる。牧野図鑑によれば、清澄姫蕨で、千葉県清澄山で発見されたからだとされ、白髪羊歯とは白い鱗片が多いので白髪にたとえているとされている。

ヘビノネゴザ(オシダ科) 夏緑性のシダで、割合に陽当りのよい、東面、南面に生育しているようだ。三浦半島でも少しづつとはいえ何か所かに自生している位で、勿論、群生はしていない。このシダ

の Type locality は横須賀である。従って学名は *Athyrium yokoscense* (Fr. et sav.) christ となっている。

オオキジノオ (キジノオシダ科) 常緑性の羊歯で千葉県以西の暖地の林下に自生するもので、三浦半島で発見されたのは比較的新しく、昭和 35 年 8 月 20 日で、逗子市の桜山である。三浦では数の少ないものである。古くは横浜に記録があるが、今では見られないようだ。桜山の オオキジノオ は、何かの苗木等に種子が付いて来たものであろうと思う。

4. 目 録

栽 は栽植品

●印は文献上の植物

ト ウ ゲ シ バ	(1) ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae Lycopodium serratum Thunb.
タチク ラ マ ゴ ケ	(2) イ ワ ヒ バ 科 Selaginellaceae Selaginella nipponica Fr. et Sav.
ク ラ マ ゴ ケ	S. remotifolia Spring
カ タ ヒ バ	S. involvens (Sw.) Spring
栽. コンテリク ラ マ ゴ ケ	S. uncinata Spring
ス ギ ナ	(3) ト ク サ 科 Equisetaceae Equisetum arvense Linn.
フユノハナワラビ	(4) ハ ナ ワ ラ ビ 科 Botrychiaceae Sceptridium ternatum (Thunb.) Lyon
オオハナワラビ	S. japonicum (Prantl) Lyon
ナツノハナワラビ	Japanobotrychium virginianum (Linn.) Nishida
●ナガボノナツノハナワラビ	J. strictum (Und.) Nishida
●コヒロハハナヤスリ	(5) ハ ナ ヤ ス リ 科 Ophioglossaceae Ophioglossum petiolatum Hooker

- (6) ゼンマイ科 Osmundaceae
 ゼンマイ **Osmunda japonica** Thunb.
- (7) フサシダ科 Schizaeaceae
 カニクサ **Lygodium japonicum** (Thunb.) Sw.
- (8) ウラジロ科 Gleicheniaceae
 コシダ **Dicranopteris dichotoma** (Thunb.) Bernh.
 ウラジロ **Gleichenia japonica** Spr.
- (9) コケシノブ科 Hymenophyllaceae
 ●コケシノブ **Mecodium wrightii** (v. d. B.) Copel.
 アオホラゴケ **Crepidomanes makinoi** (C. Chr.) Copel. var. **tosae** (Christ) K. Iwata
 ウチワゴケ **Gonocormus minutus** (Bl.) v. d. B.
 ハイホラゴケ **Vandenboschia radicans** (Sw.) Copel.
- (10) イノモトソウ科 Pteridaceae
 イヌシダ **Dennstaedtia hirsuta** (Sw.) Mett.
 オウレンシダ **D. wilfordii** (Moore) Koidz.
 フモトシダ **Microlepia marginata** (Panzer) C. Chr.
 ●クジャクフモトシダ **M. marginata** (Panzer) C. Chr. var. **bipinnata** Makino
 ケブカフモトシダ **M. marginata** (Panzer) C. Chr. var. **yakusimensis** H. Ito
 フモトカグマ **M. pseudo-strigosa** Makino
 ホラシノブ **Sphenomeris chusana** (L.) Copel.
 イワヒメワラビ **Hypolepis punctata** (Thunb.) Mett.
 ワラビ **Pteridium aquilinum** (Linn.) Kuhn var. **latiusculum** (Desr.) Und.
 オオバノイノモトソウ **Pteris cretica** Linn.
 マツザカシダ **var. albo-lineata** Hook.
 イノモトソウ **P. multifida** Poir.
 ●アマクサシダ **P. dispar** Kunze

- オオバノハチジョウシダ **P. inaequalis** Bak. var. **aequata** (Miq) Tagawa
 イワガネゼンマイ **Coniogramme intermedia** Hieron.
- イワガネソウ **C. japonica** (Thunb.) Diels
 ● イヌイワガネソウ **var. fauriei** Hieron Tagawa
 リョウメンシダ **Polystichopsis standishii** (Moore) Tagawa
- ナライシダ **P. miqueliana** (Maxim.) Tagawa
 イワヘゴ **Dryopteris atrata** (Wall.) ching
 オクマワラビ **D. uniformis** (Makino) Makino
 クマワラビ **D. lacera** (Thunb.) O. Ktze.
 アイノコクマワラビ **D. lacera** (Thunb.) O. Ktze. forma **intermedia** H. Ito
 ナガバノイタチシダ **D. sparsa** (Ham.) O. Ktze.
 ● ミサキカグマ **D. chinensis** (Bak.) Koidz.
 オオイタチシダ **D. pacifica** (Nakai) Tagawa
 ● ヒメイタチシダ **D. sacrosancta** Koidz.
 トウゴクシダ **D. nipponensis** Koidz.
 ベニシダ **D. erythrosora** (Eat.) Ktze.
 ● ハチジョウベニシダ **D. erythrosora** (Eat.) Ktze. var. **candipinna** (Nakai) H. Ito
- キヨスミヒメワラビ **Ctenitis maximowicziana** (Miq.) Ching
 ゲジゲジシダ **Phegopteris decursive-pinnata** (Van Hall) Fée
 ハシゴシダ **Lastrea glanduligera** (Kunze) Moore
- ハリガネワラビ **L. japonica** (Bak.) Copel.
 ● ヤワラシダ **L.** (Fr. et Sav.) Copel.
 ヒメワラビ **L. oligophlebia** (Bak) Copel. var. **elegans** (Koidz.) Tagawa
 ミドリヒメワラビ **L. viridifrons** (Tagawa) Tagawa
 ミゾシダ **Leptogramma mollissima** (Fish.) ching
 ● アラゲミゾシダ **L. mollissima** Ching var. **pilosissima** (H. Ito)
- ホシダ Kurata
 ● ヘビノネゴザ **Cyclosorus acuminatus** (Houtt.) Nakai
 ● ヤマイヌワラビ **Athyrium yokoscense** (Fr. et Sav.) Christ
 ● カラクサイヌワラビ **A. vidalii** (Fr. et Sav.) Nakai
 ● ヒロハイヌワラビ **A. clivicola** Tagawa
 A. wardii (Hook.) Makino

イヌワラビ
ニシキシダ
●タニイヌワラビ
●キヨタキシダ
タチシノブ
ホウライシダ
ハコネシダ
クジャクシダ

Athyrium niponicum (Mett.) Hance

f. metallicum (Makino) Honda

A. otophorum (Miq.) Koidz

A. squamigerum (Mett.) Ohwi

Onychium japonicum (Thunb.) Kunze

Adiantum capillus veneris Linn.

A. monochlamys Eaton

A. pedatum Linn.

(11) シノブ科 Davalliaceae

●シノブ

Davallia mariesii Moore

(12) キジノオシダ科 Plagiogyriaceae

オオキジノオ

Plagiogyris euphlebia (Kunze) Mett

(13) オシダ科 Aspidiaceae

イヌガンソク

Matteuccia orientalis (Hook) Trev.

●イワデシダ

Woodsia polystichoides Eaton

オリヅルシダ

Polystichum lepidocaulon (Hook.) J. Sm.

ジュウモンジシダ

P. tripterum (Kunze) Pr.

ヒメカナワラビ

P. tsus-simense (Hook.) J. Sm.

イノデ

P. polyblepharum (Röm.) Pr.

アイアスカイノデ

P. polyblepharum (Röm) Pr. var **intermedium** (Tag.)

Kurata

アスカイノデ

P. polyblepharum (Röm.) Pr. var. **tibrillos-paleaceum**

(Kodama) Tag.

ミウライノデ

P. × miuranum

オニヤブソテツ

Cyrtomium falcatum (L. f.) Pr.

ヤブソテツ

C. fortunei J. Sm.

ヤマヤブソテツ

C. fortunei J. Sm. var. **clivicolum** (Makino) Tagawa

メヤブソテツ

C. hookerianum (Pr.) C. Chr.

コバノカナワラビ

Polystichopsis pseudo-aristata (Tag.) Tagawa

ホソバカナワラビ

P. aristata (Forst.) Holtt

ハ カ タ シ ダ
オ ニ カ ナ ワ ラ ビ

オ オ カ ナ ワ ラ ビ
シ ケ シ ダ
セ イ タ カ シ ケ シ ダ
ホ ソ バ シ ケ シ ダ
ナ チ シ ケ シ ダ
シ ケ チ シ ダ
ヘ ラ シ ダ
ノ コ ギ リ シ ダ
● ヒ カ ゲ ワ ラ ビ

● オ サ シ ダ
コ モ チ シ ダ

● チャ セ ン シ ダ
ト ラ ノ オ シ ダ
コ バ ノ ヒ ノ キ シ ダ
ホ ウ ビ シ ダ
● ク モ ノ ス シ ダ

ノ キ シ ノ ブ
マ メ ヅ タ
ク リ ハ ラ ン
ヒ ト ツ バ
ミ ツ デ ウ ラ ボ シ

Polystichopsis simplicior (Makino) Tagawa

P. simplicior (Makino) Tagawa var. **major** (Tagawa)
Tagawa

P. amabilis (Bl.) Tagawa

Athyrium japonicum (Thunb.) Copel.

A. dimorphophyllum (Koidz.) Tagawa

A. conilii (Fr. et Sav.) Tagawa

Lunathyrium fimbriichlamys (Nakai) Kurata, Comb. nov.

Cornopteris decurrenti-alata (Hook.) Nakai

Diplazium subsinuatum (Wall.) Tagawa

D. wichurae (Mett.) Diels

D. chinense (Bak.) C. Chr.

(14) シ シ ガ シ ラ 科 Blechnaceae

Struthiopteris amabilis (Makino) Ching

Woodwardia orientalis Sw.

(15) チャ セ ン シ ダ 科 Aspleniaceae

Asplenium trichomanes Linn.

A. incisum Thunb.

A. salerii Hook.

A. unilaterale Lam.

Camptosorus sibiricus Rupr.

(16) ウ ラ ボ シ 科 Polypodiaceae

Lepisorus thunbergianus (Kaulf.) Ching

Lemmaphyllum microphyllum Pr.

Neocheiropteris ensata (Thunb.) Ching

Pyrrosia lingua (Thunb.) Farwell

Crypsinus hastatus (Thunb.) Copel.

16科 50属 111種(変種、品種も含む)

神 武 寺 産 羊 歯



1. フモトシダ



2. フモトカグマ



3. マツザカシダ



4. イワガネソウ



5. オリヅルシダ



6. オニヤブソテツ



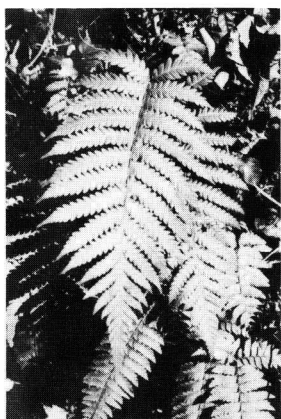
7. ヤブソテツ



8. ヤマヤブソテツ



9. ホソバカナワラビ



10. ミゾシダ



11. ホシダ



12. ノコギリシダ



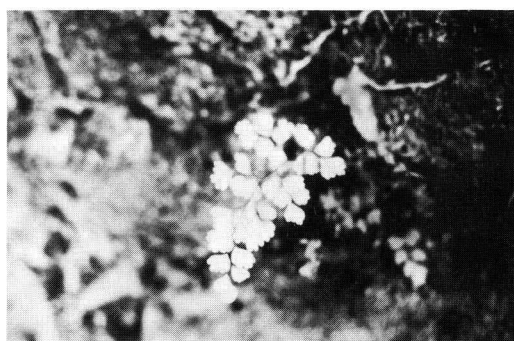
13. ホウビシダ



14. ホウビシダ (全草)



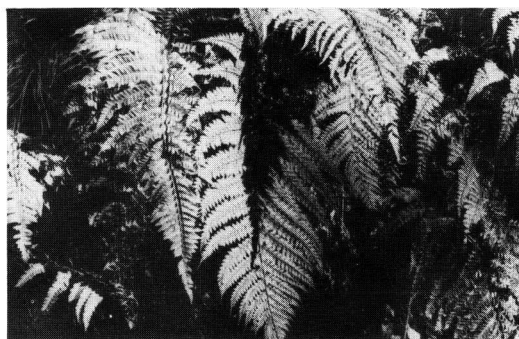
15. ハイホラゴケ



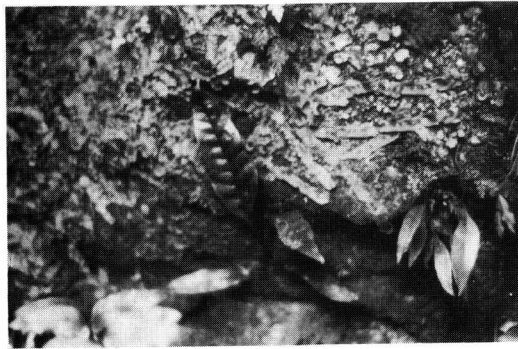
16. ホウライシダ



17. ジュウモンジシダ



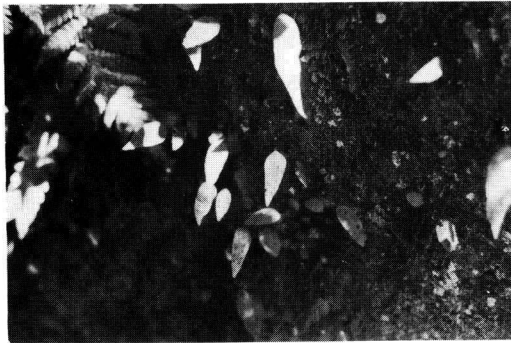
18. リョウメンシダ



19. クリハラン



20. ヒトツバ



21. ミツデウラボシ

帰 化 植 物

スクラップブックを開いて見ると、こんな新聞記事があった。44年11月9日付に、『黄色い悪草 セイタカアワダチソウ 終戦時に進駐し大繁殖、花粉で鼻炎の心配も』45年9月6日付に、『新たな公害ブタクサ 花粉で鼻炎、ぜんそくに』50年10月15日付に、“小児ぜんそくの原因として、その筆頭に セイタカアワダチソウ があげられていたが、これにかわって、ブタクサ が抜群だと言われるようになったとしている。さらに クワモドキ の新顔も追加された。” 52年11月2日付で、『土止めの草で花粉症 オオウシノケグサ』が知らされた。この セイタカアワダチソウ・ブタクサ・クワモドキ は、いずれも北米原産で、明治末期から第二次大戦後にかけて渡来してきたもので、この種を帰化植物と呼んでいる。

帰化植物とは、文字通りに外国から侵入してきて、野性化に成功した植物の数々をいう。食用や観賞用、薬用などの目的で導入された栽培植物はこれに含めないが、栽培地からエスケープして野生状にあるものは、普通帰化植物の中に含めている。したがって、帰化植物と呼ばれる仲間は、生活力が強く雑草的な性格をもったものが多い。旺盛な繁殖力で、全国的に分布をするもの。狭い地域ではあるが、確実に定着をしているもの。数は少ないが広範囲にわたって見られるものもあるかと思えば、線香花火的に姿を消してしまうものも数少なくない。ともあれ帰化植物は、人里に近い海滨や田畑、河川敷、山林伐採地などに定住をしていることから、人々とのかかわりあいの必要性が判然としてくる。

ところで帰化植物の数だが、人によって若干の違いがあるものの、明治時代に約100種、大正時代に約150種、第二次大戦末期に約400種、現在は約800種というのが一般的である。

1. 帰化植物の侵入地

〔1〕港

戦後、外国貿易が盛んになって、輸入品、ことに食料品や飼料に伴って渡来し、帰化したと考えられるものが多い。わけでもアメリカ方面からの種類が多くなっている。港湾のうち、埠頭、税関、倉庫の周辺、引込線などで多く見られる。ところが最近どこの埠頭でも除草剤を散布するようになって、上陸第一歩で厳しい試練を受けている。

また貿易の拡大で、近年大規模な埋立てがおこなわれていて、塩抜きが十分でない所では、ウラボアカザやホコガタアカザ などが見られ、塩分が抜けるにつれて、ホウキギクやヒロハホウキギクなどが大群落を作ったりする。しかし、こうした場所も管理の面で舗装がおこなわれ、ここでも帰化のチャンスを失うことになる

〔２〕空 港

積荷に種子などが付着して運ばれると考えられるが、港湾以上に舗装のいき届いた空港で、どれくらい帰化のチャンスがあるものなのか判然としない。

〔３〕精米・製粉工場、醤油・豆腐工場

食糧や飼料としての小麦や大豆などに、いろんな種子が混入していて、種子の選別で捨てられたものが、帰化をしたと考えられるものがある。河川敷に繁殖している アレチウリ は、大豆に混入していたという。 オオブタクサやオオオナモミ もそうで、 アメリカアサガオ など、なにかに混入していたものであろう。横須賀市の長浦港には飼料倉庫があり、かなりな数の帰化種が採集されているが、線香花火的に姿を消すものも少なくない。

〔４〕毛織物工場

原料の羊毛に種子が付着していて、これが帰化の原因となる。鈴鹿市は帰化植物の宝庫であるが、ここには、いくつかの紡績工場があって、休耕田などで珍しい帰化種を採ることができる。それは、羊毛を洗った屑をもらい受けて、肥料として畑にまくことによる。 ウマゴヤシ・カギミギシギシなどは、羊毛といっしょに運ばれたものと思われる。

〔５〕牧場・養鶏場・養豚場

帰化植物のうち、飼料としての牧草の占める割合は高い。とりわけ風で拡散分布をするイネ科植物は、キク科・アブラナ科・マメ科などについて種類数は多い。 カモガヤ・オオアワガエリ・ナガハグサやアカツメクサなどの牧草に混てきたと思われるものに、 ヒメスイバ・ブタナ・ワルナスビ などがある。北海道の牧場で食べ残しの アラゲハンゴンソウ が、ヒマワリそっくりの花をつけていたのが忘れられない。 アラゲハンゴンソウ は、神奈川県愛川町のゴルフ場の周辺にもやってきた。

〔６〕高速道路・宅地造成地

高速道路や土地を切り崩した宅地造成地ののり面に、 シナダレスズメガヤ・オニウシノケグサ などの種子を吹きつけて緑化をし、土止めをしている。こうしたものが逸出して野生化している。また、ブタナ・シマスズメノヒエなども混入してきたものであろう。

〔７〕植物園・農事試験場・園芸植物商

園芸植物や食用植物、研究室の研究材料などが逸出帰化する場合がある。観賞魚の水草が河川に流されたり、琵琶湖のアユが東京の多摩川に運ばれたとき、一緒に コカナダモ が運ばれてふえているという。 オシロイバナ・オオキンケイギク・ハナカタバミなども逸出帰化の例である。

2. 逗子市の帰化植物

市内の植物目録に、約100種の帰化植物を加えた。これは、昭和56年6月から11月にかけて、全市内域について調査した結果をまとめたものである。この期間以外にも調査をしていれば、若干種の追加が可能となろう。これを近接の横須賀市と比較してみると、帰化植物の数はかなり少ない。横須賀市は一面を海に囲まれ、長浦港などがあって開放的な地形であるのに対して、山や丘陵に囲まれた閉鎖的な地形が、逗子市の帰化植物を少なくしているであろう。

ところで、自然破壊のパロメーターとしての要素の一つに、帰化植物の侵入があげられている。すなわち、帰化植物が多く見られるほど、市街地の自然破壊が進んでいるというのである。ならば、その市街地に帰化植物が少ないということは、まだまだ自然が多く残されているということになろう。逗子市の自然度が高いということになる。

〔1〕自然帰化植物

誰にも気づかれないうちに渡来した植物をいう。だから、侵入の時期や渡来地がはっきりしない。このグループは、厳密な意味の帰化植物といえる。ブタクサ・アメリカセンダングサ・ヒメジョオン・ヒメムカシヨモギ・コマツヨイグサ・アレチマツヨイグサ・マメグンバイナズナ・ノボロギク・オニノゲシ・オオイヌノフグリ・タチイヌノフグリ・オランダミミナグサ・ヒメスイバ・ムギクサ・アレチノギク・オオアレチノギク・ハキダメギク・セイバンモロコシ など数多い。

逗子市の植物社会を生態学的にまとめた『逗子市の植生』がある。（宮脇 昭，昭和46年3月）この中で、帰化植物を扱った部分がある。

・アキノエノコログサ — コセンダングサ群集およびアメリカセンダングサ群落

池子4丁目、桜山9丁目で調査されている。工場用地、みぞのふちなどの不安定な立地でやや湿生な富養地にはセンダングサ属やタデ属が優占する群落が存在する。高さ80~100cmの密生した群落を形成しており、出現種類は10種内外で、群落の最盛期は9~10月である。今回は塵芥処理場近くの路傍および市街地で一カ所記録された。この群落は、養分や水分が集約されるしばしば路傍で、ソデ群落として帯状に発達している。逗子市内にはアキノエノコログサ — コセンダングサ群集域は、この地の他にまだ広く存在すると思われる。アメリカセンダングサ群落は、アキノエノコログサ — コセンダングサ群集よりもより多湿地に偏して存在する。工場排水や農業用水路などの水辺にしばしば観察される。

・コニシキソウ — オオニシキソウ群落

高さ15~30cmのたけの低い分枝の多い短期一年生草本植物よりなる雑草群落である。畑地雑草や、

ふみ跡群落の構成種も存在している。ふみあとなどの立地の土壌は堅くつきかためられた状態にあり、細礫を多く含む。したがって植生発達はよくない。コニシキソウ — オオニシキソウ群落は、池子米軍接收地内の旧鉄道用線路跡地で記録された。

タンポポに似た ブタナ(タンポポモドキ) は、フランスの俗名ブタのサラダを訳したものという。芝生に混生したり、宅造地の土止めの植生の一員として点在するのを見受ける。久木8丁目の舗装道路のわきで見つけた。

オオブタクサ も花粉病を起こすといわれる。葉がクワに似ているので、クワモドキ の別名がある。河川敷で2mをこえるものが林を作っているのに出会う。オオブタクサ は、昭和27年静岡県ではじめて記録されたが、その後十数年間で日本全国に広まったという。小坪7丁目の宅造地で見つけた。

キュウリの葉に似たつる生植物を河川敷でよく見る。これは アレチウリ といって、大豆などに混じって渡来したといわれる。種子は水流でも運ばれるので、河川敷で猛威をふるっている。所かまわず茎葉で植物をおおいつくして枯らしてしまう。田越川(桜山3丁目)で見つけた。

養分に富んだごみ捨て場に生える ハキダメギク。 鉄道に沿って繁殖したという ヒメムカシヨモギ。果実を犬のそれに見たてた オオイヌノフグリ・タチヌノフグリ。花穂がモロコシに似た セイバンモロコシ など、自然帰化植物の数は多い。

〔2〕逸出帰化植物

いろんな目的で輸入をされ、栽培されていたものが、何かのはずみで野生状態になったグループをいう。こうした植物の渡来年代は比較的是っきりしていて、人為的帰化植物とも呼ばれる。

(1) 牧草・飼料用

ウマゴヤシ・ムラサキツメクサ・シロツメクサ・カラスムギ・コヌカグサ・カモガヤなどある。

ヒゲナガスズメノチャヒキ はヨーロッパ原産で、明治45年に横浜で見つかり、第二次大戦後、急に全国的に広がっている。イネ科のどの植物よりも長いノギ(3~5cm)がある。これが帰化したアメリカでは、果実が家畜ののどや鼻にささるので、害草として嫌われているという。桜山6-6-10で見つけた。

シマスズメノヒエ(ダリス・グラス) は南米の原産で、第二次大戦後急に広がりはじめ、特に関東地方以南の太平洋側の地域で、普通な雑草となっている。この仲間に タチスズメノヒエ というのがある。前者の花序の枝は開出、またはやや下垂するが、タチスズメノヒエ の花序の枝はほぼ直立するか、斜上をするので区別が容易である。やはり南米原産で、昭和33年北九州市の海岸埋立地で発見されている。神奈川県では今まで見つかっていなかったが、昭和56年8月14日、神武寺駅付近と、池子1丁目の横須賀線の踏切り付近で見つけた。池子の軍用地に近いことに意味があるようだ。

(2) 薬 用

(3) 食 用

オランダガラシは ヨーロッパ原産で、明治3~4年に移入され、初めは在留外人の食用にと栽培された。それが、全国各地の河川に広がったという。おひたしもよし、みそしるにつまんで入れてもおいしい。ところで昨今は河川の汚れでいただけそうにない。クレーソンといって店頭で見られるものは、栽培されたものである。

セイヨウタンポポ は、日本タンポポ のかたきのように言われた一時期があった。総苞片がそりかえるので、タンポポと区別はやすく、セイヨウタンポポ が誰にも知られるようになると、かたきでもなんでもなくなった。むしろ緑の少ない市街地の、欠かせないアクセサリ的な存在になってきた模様でもある。ところで セイヨウタンポポ は、明治の中ごろ、札幌農学校(いまの北海道大学)の外人教師が、野菜として植えたのが始まりだといわれる。

(4) 観 賞 用

逸出帰化植物にはなんといっても観賞用植物が多い。 セイタカアワダチソウ・オオアワダチソウ・オオマツヨイグサ・ニワゼキショウ・ムラサキカタバミ・オシロイバナ・ホテイアオイ・マンテマ・キンヨウブ・コバンソウ・オオケタデ などである。

さきの『逗子市の植生』で、 セイタカアワダチソウ の調査がある。

セイタカアワダチソウ — ススキ群落

池子米軍接収地内に、逗子市ではじめて、北米原産の セイタカアワダチソウ の群落が観察された。セイタカアワダチソウ — ススキ群落は谷状地の肥沃な土壌を有する湿生地に生育している。かつてはスギの植林地であり、現在は伐採されてスギの生育していないところに見られた。

セイタカアワダチソウ — ススキ群落は、ススキが植被率50%以上を占めており、セイタカアワダチソウ・ヨモギ をともなっている。さらに ドクダミ・スギナ・オオイヌタデ・キツネノボタン・ヤブマオ・アシボソ・コブナグサ・エナシヒコグサやヒメクグ のような湿生植物と共存している。

セイタカアワダチソウ の旺盛な繁殖力は、日本の風物のススキを根絶するのではないかとさえいわれ、日本中が セイタカアワダチソウ で埋めつくされるのは時間の問題とまで考えられた。というのは、その地下部から、ほかの植物の発育を妨げる物質が分泌されていることがわかったからである。(これにDMEと名づけられた。)ところが予想に反して、それほど繁殖が進まず、どうかすると下向線をたどっているようであった。それは、DMEで一種の自家中毒症をおこしていたのである。

ツタバウンラン は、ロックガーデン用に植えられる。園芸植物として大正初年に移入された。これの野生化の報告があちこちにあるが、新宿3丁目でこれを採集した。

〔３〕仮住（生）帰化植物

上陸に成功はしたが、諸条件に適応することができず、半年か長くて３年ぐらいのうちに消失してしまふ、いわゆる線香花火的な存在の植物がある。第二次大戦後の帰化植物に、こうした例が多い。横須賀市長浦港で採り、その後お目にかかれないものが何種もある。

〔４〕予備帰化植物

上陸後、一部の土地で帰化状態にはなっているものの、広く分布できないで足ふみ状態にあるグループがある。　ブタクサ・ハナガサギク・キキョウソウ・マメアサガオ・アメリカオニアザミ・カキネガラシ・キレハイヌガラシ　などである。

アレチハナガサ　は南米の産で、昭和３２年ごろ福岡県、北九州市、県内久里浜などで採られている。今は点々と見られるが、この仲間にヤナギハナガサがある。こちらはもっと数少ないもので、珍しいものと言えよう。池子２丁目と、沼間３丁目で採集することができた。両者は全く似ているので判別が容易でない。花冠筒とがくの長さの割合が識別の決め手となる。

セ イ ヨ ウ タ ン ポ ポ
 ブ タ ナ
 オ ニ ノ ゲ シ
 セ イ ヨ ウ ノ コ ギ リ ソ ウ
 ホ ウ キ ギ ク
 ヒ ロ ハ ホ ウ キ ギ ク
 ア レ チ ノ ギ ク
 オ オ ア レ チ ノ ギ ク
 ヒ メ ム カ シ ヨ モ ギ
 ケ ナ シ ヒ メ ム カ シ ヨ モ ギ
 ヒ メ ジ ヨ オ ン
 ハ ル ジ ヨ オ ン
 コ セ ン ダ ン グ サ
 シ ロ ノ セ ン ダ ン グ サ
 ア メ リ カ セ ン ダ ン グ サ
 セ イ タ カ ア ワ ダ チ ソ ウ
 オ オ ア ワ ダ チ ソ ウ
 キ ク イ モ
 ハ キ ダ メ ギ ク
 ベ ニ バ ナ ボ ロ ギ ク
 ダ ン ド ボ ロ ギ ク
 ノ ボ ロ ギ ク
 タ チ チ チ コ グ サ
 チ チ コ グ サ モ ド キ
 ブ タ ク サ
 オ オ ブ タ ク サ
 オ オ オ ナ モ ミ

ア レ チ ウ リ

ヘ ラ オ オ バ コ

ツ タ バ ウ ン ラ ン

Taraxacum officinale Weber.

Hypochoeris radicata Linn.

Sonchus asper (Linn.) Hill.

Achillea millefolium Linn.

Aster subulatus Michx.

A. sp.

Erigeron bonariensis Linn.

E. sumatrensis Retz.

E. canadensis Linn.

E. pusillus Nutt.

E. annuus (Linn.) Pers.

E. philadelphicus Linn.

Bidens pilosa Linn.

B. pilosa Linn. var. **minor** (Blume.) Sherff.

B. frondosa Linn.

Solidago altissima Linn.

S. gigantea Ait. var. **leiophy** Linn.

Helianthus tuberosus Linn. **lla** Fern.

Galinsoga ciliata (Raf.) Blake.

Crassocephalum crepidioides (Benth.)

Erechtites hieracifolia (Linn.) Raf.

Senecio vulgaris Linn.

Gnaphalium purpureum Linn.

G. purpureum Linn. var. **spathulatum** (Lam.) Baker

Ambrosia artemisiaefolia Linn. var. **elatio** (Linn.) Desc.

A. trifida Linn.

Xanthium canadense Mill.

Sicyos angulatus Linn.

Plantago lanceolata Linn.

Cymbararia muralis Gaertn. May. et Scherb.

ビロードモウズイカ
オオイヌノフグリ
タチイヌノフグリ

Verbascum thapsus Linn.
Veronica persica Poir.
V. arvensis Linn.

ワルナスビ

Solanum carolinense Linn.

ヒメオドリコソウ

Lamium purpureum Linn.

ヤナギハナガサ
アレチハナガサ

Verbena bonariensis Linn.
V. brasiliensis Vell.

ヒレハリソウ

Symphytum officinale Linn.

マツバゼリ

Apium leptophyllum (Pers.) F. Muell.

マツヨイグサ
オオマツヨイグサ
メマツヨイグサ
コマツヨイグサ
ヒルザッキスキミソウ

Oenothera stricta Ledeb. ex Link.
O. erythrosepala Borbas.
O. biennia Agg.
O. laciniata Hill.
O. speciosa Nutt.

ゼニバアオイ

Malva neglecta Wallr.

オオニシキソウ
コニシキソウ

Euphorbia maculata Linn.
E. supina Rafin

ムラサキカタバミ

Oxalis corymbosa DC.

シロツメクサ
ムラサキツメクサ
シナガワハギ
コメツブウマゴヤシ

Trifolium repens Linn.
T. pratense Linn.
Melilotus suaveolens Ledeb.
Medicago lupulina Linn.

メキシコマンネングサ	Sedum mexicanum Britt.
ツルマンネングサ	S. sarmentosum Bunge.
シヨカツサイ	Orychophragmus violaceus O. E. Schulz.
セイヨウカラシナ	Brassica juncea (Linn.) Czern.
オランダガラシ	Nasturtium officinale R. Br.
マメグンバイナズナ	Lepidium virginicum Linn.
カラクサナズナ	Coronopus didymus (Linn.) Smith
オランダミミナグサ	Cerastium glomeratum Thuill
ヒメマツバボタン	Portulaca pilosa Linn.
クルマバザクロソウ	Mollugo verticillata Linn.
ヨウシュヤマゴボウ	Phytolacca americana Linn.
ホソアオゲイトウ	Amaranthus patulus Bertolmi
ホナガイヌビユ	A. viridis Linn.
ハイビユ	A. deflexus Linn.
ホコガタアカザ	Atriplex hastata Linn.
コアカザ	Chenopodium ficifolium Smith.
ウラジロアカザ	C. glaucum Linn.
ケアリタソウ	C. ambrosioides Linn.
オオケタデ	Polygonum orientale Linn.
ヒメスイバ	Rumex acetosella Linn.
ナガバギシギシ	R. crispus Linn.
エゾノギシギシ	R. obtusifolius Linn.
アレチギシギシ	R. conglomeratus Murr.
キシウブ	Iris pseudoacorus Linn.

ニ ワ ゼ キ シ ョ ウ
ヒ メ ヒ オ オ ギ ズ イ セ ン

Sisyrinchium atlanticum Bickn.
Tritonia crocosmaeflora Lcmoine

ノ ハ カ タ カ ラ ク サ

Tradescantia flumiensis Vell

セ イ バ ン モ ロ コ シ
ヒ メ モ ロ コ シ
ヒ メ コ バ ン ソ ウ
イ ヌ ム ギ
シ マ ス ズ メ ノ ヒ エ
タ チ ス ズ メ ノ ヒ エ

Sorghum helepense Pers.
S. Forma **muticum** Hubb.
Briza minor Linn.
Bromus catharticus Vahl.
Paspalum dilatatum Poir.
P. **urvillei** Steud.

シ ナ ダ レ ス ズ メ ガ ヤ
オ オ ク サ キ ビ
ハ ナ ク サ キ ビ
コ ヌ カ グ サ
カ モ ガ ヤ
ジ ュ ズ ダ マ
ネ ズ ミ ム ギ
ホ ソ ム ギ
ヒ ロ ハ ウ シ ノ ケ グ サ
ナ ガ ハ グ サ
ム ギ ク サ
ヒ ゲ ナ ガ ス ズ メ ノ チ ャ ヒ キ

Eragrostis curvula (Schrad.) Nees.
Panicum dichotomiflorum Michx.
P. **capillare** Linn.
Agrostis alba Linn.
Dactylis glomerata Linn.
Coix lachryma-jobi Linn.
Lolium multiflorum Lam.
L. **perenne** Linn.
Festuca elatior Linn.
Poa pratensis Linn.
Hordeum murinum Linn.
 Bromus rigidus Roth.

単 子 葉 植 物

逗子市におけるイネ科・カヤツリグサ科・イグサ科植物について

1. 生育の環境

逗子市は三浦半島の基部に位置し、日本の常緑広葉樹林帯北部の一部を形成している。年間平均気温 $14^{\circ}\sim 15^{\circ}\text{C}$ 、年間雨量 1700 ミリ前後で、最高最低の温度差が少なく、温暖で多湿な気候が暖地性の広葉樹林を育てて来たといえる。以下にのべるイネ科・カヤツリグサ科・イグサ科（以下イネ科等と呼ぶ）の植物も又これと同じ条件に支配されて生育と存在を続けて来たということを先ず念頭におくべきである。

逗子市は西側が太平洋に面し逗子湾を抱いているが、その海岸線は短かくかつ単調で、逗子海水浴場から小坪の風衝地等にかけては変化に乏しく、又交通道路等によって遮断されている。砂浜にはほとんど見るべき植物も見当らず、岩場に着生している海岸性の植物も、半島南岸の鰐崎等が三浦半島の特色をなす海岸性植物の豊富なのに比べれば、その種類も数も貧弱である。北西部には豊富な植物を持つ 1000 米級の丹沢山塊があるが、二子山の 200 米の低山を最高とする逗子市では、交通が遮断され間に低地を介在している為、地域的に近接しているという条件より他には、大きな影響があると思えない。

又逗子市は住宅・商業地であり、水田や畠地等の耕作地は少ない。河川としては田越川のような小さな川があるだけで、湖や沼といった水湿地も見当らない。地層から見れば、河川流域としての沖積地は少なく、多くは砂礫、火砕岩、シルト岩等の岩層を基盤とする地層で、これに適合した シラカシ・タブシイ 等の広葉樹林が生育し、またスギ林等も見られる。海にそった斜面や、これらの樹林帯や日の当る尾根などで一度人間によって破壊された個所には 2 m に余る アズマネザサ が他を寄せつけない群落を作っている。また人の放置した空地や草原・川辺等には ススキ がよく繁茂し、また イヌムギ等の帰化植物が数多く入りこんでいる。米軍接収地の池子や神武寺周辺にはまだ自然林が残っており、また二次的森林も見られる。イネ科等の植物はこれら森林の下草ともなり、林道やハイキングコース等の路傍には、これ等植物が極めてよく生育している。

しかし最近の都市化の自然に対する影響は極めて大きく、山も交通網で寸断され、人家が山腹深く侵入して、残された自然も次第に昔の面影を失いつつある。二子山や神武寺周辺はまだわずかに昔の自然を止めているといわれるが、人跡は山の斜面の到る処にあり、ラン科の植物などは最近の山野草ブームの影響で、見つかり次第掘取られてしまい目にすることも少なくなったのは寂しい限りである。これに比べイネ科等の植物は、花も目立たず人の注意をひくこともなく、名もない雑草と呼ぶにふさわしく人の足に踏まれながら、幸いにも抜取られる機会も少なく、生育と存在を続けて来たのである。記録にある種類で絶えてしまったものは恐らくないであろうし、むしろ種類の数からいうならば、帰化植物の侵

入によって却って増加している事実が認められる。

2. 開花の時期と場所

イネ科等の植物について、逗子市が特に顕著な特色を示しているという事実はなく、また特に珍しい種類が生育しているという事例もない。何を書くべきかいろいろ考えたが、結局平凡な着想しか浮ばぬまま、以下これらの生育における開花の時期と場所について述べたい。

初春早々最も早く花を見せるのは スズメノカタビラ で、人家や路傍の至る所で小さな可愛い花を咲かせているのを見るが、条件さえ良ければ年中どこでも花を咲かせているのを見ることができよう。陽春5月ともなれば、他の種々の植物にまじって活発な活動を始め、水田や湿地では ヒエガエリ・カズノコグサ・ムツオレグサ・チガヤ 等が開花し、野山の斜面や平地には カニツリグサ・オニシバ・コスカグサ・ナガハグサ・イチゴツナギ 等がはびこるようになる。

二子山付近ではPoa属の ナガハグサ・イチゴツナギ・ミゾイチゴツナギ・オオイチゴツナギ・スズメノカタビラ 等が見られるが、相近似したこれらの同定には、工夫と細かい観察が必要である。参考書等でその特徴を抜粋して一覧表を作って見たがまだすっきりせず、更にこれをもとに自分なりの検索表を作製してみた。こうしてその中から最も特徴的なものを二、三記憶し、同定に当たって見ると、意外にうまく同定できるようになった。先ず ナガハグサ は白ひげ(護穎の表面の白軟毛)がなく、根部に走出枝がある。他のものは走出枝がなく白ひげがあるが、花序の枝が1個所から2本以内であるものの内、葉の幅が広く5~7mmであるのが オオイチゴツナギ で、葉の幅が狭く1.5~3mmであるものを ミゾイチゴツナギ と同定する。花序の枝が1個所から3~5本出ている、綴毛(護穎の基部の綿毛状の軟毛)が長いのが イチゴツナギ で、綴毛のないのが スズメノカタビラ と同定する。この他にも葉舌の形状や大きさと花序の枝のざらつき等も同定のきめ手となるが、大まかな所を捉えて、これらは副次的な確かめとして同定に当れば尚一層確実な同定ができるであろう。先日県植物調査会のニュースFlora Kanagawa 10号に諏訪哲夫氏のイチゴツナギ属(Poa属)の検索表が載っていたがこれも氏が苦心して作った独特のものであることがうかがわれて、非常に参考になった。

また5月頃はイグサ科の スズメノヤリ・ヌカボウシソウ・ヤマスズメノヒエ が山地の斜面や路傍の傾斜などで見られるようになる。6月には路傍の乾いた地面は大型で旺盛な生育を示し、大きな花穂をたらず イヌムギ 覆われるし、これらに混って ネズミムギ・ホソムギ があり、 オニウシノケグサ・セイバンモロコシ 等の帰化植物が群生しているのを見る。山の斜面は ヤマカモジグサ が一斉に細い花枝をたらしめて地面をおおっている。気をつけて観察すれば キツネガヤ・ドジョウツナギ・スズメノテッポウ・カモガヤ 等も空地や山の斜面、草原等で発見することができるであろう。

カヤツリグサ科のCarex属(スゲ属)は分類の最も困難な分野で、ナキリスゲ が10月に開花するので除いては、ほとんど4~6月のこの時期に開花結実するので、観察の機会をのがさないようにしなければならぬ。はじめはどれもこれも同じに見えてしまうが、雄花穂・雌花穂のつき方、大きさ、色、形

状に注意して同定する。それでもはっきりしない時は鱗片・果胞・果実や柱頭の長さや数など細かく調べることが必要である。こうした小さいものは手持ちのルーペでは不十分で、どうしても20倍以上60倍位まで拡大観察できる実体双眼顕微鏡が必要になってくる。また現在この方面に関する詳細な図鑑がなく、私は方々探しまわったが、未だ満足するものはなく、入手に苦労している。またかなり満足すべきものでも、非常に数が少なく、高価で一般人には入手がむずかしく、この方面の詳細な研究書・図鑑類が発刊されることを切望している。

ホンモンジスゲやヒメカンスゲなどは4月の早い時期にあらわれ、5月には ヒカゲスゲ・ヤワラスゲ・マスクサ・ヒゴクサ が盛んに開花し結実する。珍しいものとしては、5月末、二子山から葉山町に下る道路わきで、初めて タカネマスクサ を発見したのは大きな喜びであった。その穂は堅く球状であるため、割合に同定し易いし、記録上でも二子山にはあることになっているが、そんなに方々にあるという訳ではないから、見つければ幸運な方といえるかも知れぬ。この時同時に同じ場所でイグサ科の ハナビゼキショウ も見つまっているが、これも県博の大場達之氏の指導による発見であって、自分ひとりの山歩きでは恐らく見のがしてしまったであろう。

7月には路傍や庭などに、ニワホコリやコメシバが発生するが、丈低く地面にへばりつくようにして咲く目立たぬ小型の草本であることと、また花期も割に短かいので、うっかり見のがしてしまうことが多い。斜面や団地の傾斜などで シナダレスズメガヤ を見ることができるが、斜面の土止めとして使われた草本と思われるが、ウィーピンググラスと呼ばれるように、冬でも細い毛状の葉が枯れ残って風にそよぐ様は老婆の乱れた白髪を見るようである。また花梗の枝の分岐点に白長毛が密生していることや、稀に茎に分蘖株を作っているのを見るが、この種は帰化植物で最近方々で見かけるようになった。

イネ科は8月に盛りを迎えるものは種類が少なく、スズメノヒエ・トダシバ・ジュズダマ 等の他は春から咲き続けているものや、秋咲きのもので比較的早く開花するものが、この時期の主流となるから一種の過渡期といえる。しかし8月から9月にかけてイグサ科の イ・クサイ・フトイ・コウガイゼキショウ 等が水田や低湿地を飾る。またカヤツリグサ科の カヤツリグサ・コゴメカヤツリ・ハマスゲ・ヒデリコ等が早いものは7月頃から、多くは8月から10月頃まで開花を続ける。

9月から10月にかけて秋深まる頃では、オヒシバ・メヒシバ・エノコログサの天下となり、空地といわず、草原といわず、乾燥した土地であれば道の傍から山の斜面までこれらで一杯になってしまう。帰化植物の シマスズメノヒエ も上のものに混って多く見られるし、また近頃 オオクサキビ も次第に姿を見せるようになってきた。また山野や草原には秋の気配をただよわす ノガリヤス・カゼクサ・チカラシバ・ヌカキビ・ネズミノオ 等が各所に見られる。これらの秋草の多くは株を作って生育し、仲々抜取るにも力がいる。チカラシバもそこからこの名が起ったといわれている程、株がかたく互いに密に硬く密着して道具がないと採取は困難である。

この時期に一斉にあらわれる チヂミザサ・アシボソ・ササガヤ・コブナグサ・サヤヌカグサ は葉の形や草丈がほとんど同じように見えよく類似して分類がむずかしいが、花序の枝分れの状態や芒の長短、

葉の形状や毛の有無が決め手となる。 コブナグサ の葉は心形で基部で茎をだくようになっていて葉の基部の周囲には白長毛があるからこれで見分けるとよい。 チヂミザサ の穂はほとんど単一の穂であることが多く、多くは紫色を帯びているし、 サヤヌカグサ ではイネの不稔穂を見るようだし、茎の節には著しい白長毛がある。 アシボソとササガヤ の区別には穂の形と芒の長短で決めると良い。 アシボソ の穂は多くは単一で発達せず多くても二又するが芒は小穂の倍位の長さであるのに対し、 ササガヤ は花序は3～4に枝分かれし、芒は小穂の3倍以上と大変長く少しねじれている。

チヂミザサ については、逗子市の市街地で毛の多い ケチヂミザサ と思われるものを採取し、その後各所で毛の少ない種々の型のものを取り比較して見た。図鑑や植物誌の記載によると、 ケチヂミザサ・チヂミザサ・コチヂミザサ の3つの名称があり、同定に迷ってしまったが、宮脇昭・奥田重俊氏の「日本植生便覧」には ケチヂミザサ を チヂミザサ に含めて、 チヂミザサ と コチヂミザサ の2つに区分してあった。私はこれが同定上妥当なものであると判断しこれに従うことにした。

秋更けて川辺や湿地には ススキ・ヨシ が秋風にそよぎ、また鷹取山の岩場で メガルガヤ・オガルガヤ を採取したのは10月の半ばであった。この鷹取山から田浦に下る尾根道で、私にははじめての チョウセンガリヤス を発見したが、逗子市ではこの付近にしか生育していないのではないと思われる。 カヤツリグサ科スゲ属(Carex属)の ナキリスゲ は、秋に開花・結実するこの属唯一の種類で、冬近くまでその穂を見ることができる。この穂が枯れ寒風に吹きさらされる頃から、イネ科等の植物は長い冬の眠りにつき、12月から2月頃までは、ほとんどこれらの花を見ることはなくなってしまう。

3. イネ科における帰化植物の進出

イネ科の植物を観察して気のつくことは、最近とみに帰化植物が目につくようになったことである。昔の目録になかった新しい名の植物が目立つようになったのは、近年東京周辺都市の著しい近代化、都市化の影響であると思われる。日本在来の植物が繁茂している所に帰化植物が侵入することは困難であろうが、鉄道・道路の敷設地や、工場・住宅の造成地・公園敷地等、ひとたび土地の開削が行なわれ、すべての植物がはぎ取られむき出しになった空地には、在来種にさきがけて先ず第一に帰化植物が侵入して根をおろし始める。こうした帰化植物は生活力がたくましく、分布方法に優れたものを有し、次第に定着して、在来種に代ってその地付近に繁茂するようになる。

披露山公園のなだらかな傾斜地は一面に ナギナタガヤ のしなやかな穂が風にそよぎ、乾燥した空地や路傍等には、たくましい イヌムギ・オニウシノケグサ・シマスズメノヒエ が群生しているのを見る。セイバンモロコシ は丈も高く目につき易い帰化植物で、広い空間地に一群を見ることができる。しかし逗子市内で見えるものは芒がないかまたは芒の発達しない型のものばかり、長田武正の帰化植物図鑑によれば ヒメモロコシ となっている。しかし多くの図鑑や写真集などでは セイバンモロコシ となっていて ヒメモロコシ の名はない。ヒメモロコシ は品種であり、芒の有無にかかわらず セイバンモロコシ の名を付しておけば安全である訳だが、逗子市内に或いは有芒の真正の セイバンモロコシ

があるかも知れない。不勉強なのでまだ見たことがないのではあるが、 セイバンモロコシ・ヒメモロコシ の両方の名称を目録にのせておいた。

その他前に少しく説明しておいたシナダレスズメガヤをはじめ、 オオクサキビ・ネズミムギ・ボウムギ・カモガヤ・ジュズダマ・コヌカグサ 等も各所で見られるようになった。珍しい カナリークサヨシ は新宿の空地で、オートムギ は披露山公園の草地で発見、採取標本に加えたのは望外の喜びであった。この他にもいくつか挙げられるかも知れないが、逗子市内をくまなく探査した訳でもなく、またその期間も得られなかったのは残念であった。従ってイネ科目録 84 種中目に止った 23 種 (27%) を挙げておくに止めた。

逗子市におけるイネ科等植物リスト

A. イ ネ 科

- | | |
|---|--|
| 1. メ ダ ケ | Arundinacea simonii Riviere |
| 2. ア ズ マ ネ ザ ケ | A. chino Makino |
| 3. ヤ ダ ケ | Sasa japonica Makino |
| 4. ア オ カ モ ジ グ サ | Agropyron racemiferum Koidz. |
| 5. カ モ ジ グ サ | A. kamoji Ohwi |
| 6. コ ヌ カ グ サ | Agrostis alba Linn. |
| 7. ヤ マ ヌ カ ボ | A. clavata Linn. |
| 8. オ ー ト ム ギ | Avena sativa Linn. |
| 9. カ ラ ス ム ギ | A. fatua Linn. |
| 10. オ オ ウ シ ノ ケ グ サ | Arnica sachalinensis A. Grey |
| 11. コ ブ ナ グ サ | Arthraxon hispidus Makino |
| 12. ト ダ シ バ | Arundinella hirta C. Tanaka |
| 13. イ ス ム ギ | Bromus catharticus Uahl |
| 14. キ ツ ネ ガ ヤ | B. pauciflorus Hack. |
| 15. ヒ ゲ ナ ガ ス ズ メ ノ チ ャ ヒ キ | B. rigidus Roth |
| 16. カ ズ ノ コ グ サ | Beckmannia syzigachne Fernald |
| 17. ヤ マ カ モ ジ グ サ | Brachypodium sylvaticum P. Beauv. var. miserum Kitag. |
| 18. ノ ガ リ ヤ ス | Calamagrostis arundinacea Roth var. brachytricha Hack. |
| 19. ヤ マ ア ワ | C. epigeios Roth |
| 20. カ ニ ツ リ グ サ | C. fauriei Hack. |
| 21. ヒ メ ア ブ ラ ス ス キ | Capillipedium parviflorum Steph |
| 22. ジ ュ ズ タ マ | Coix Lacryma-Jabi Linn. |
| 23. チ オ ウ セ ン ガ リ ヤ ス | Cleistogenes hackelii Honda |
| 24. オ ガ ル ガ ヤ | Cymbopogon tortilis Hitche. var. goeringii Hond-Mazz. |
| 25. ギ ヨ ウ ギ シ バ | Cynodon dactylon Pers. |
| 26. カ モ ガ ヤ | Dactylis glomerata Linn. |
| 27. メ ヒ シ バ | Digitaria adscendens Henrard |
| 28. コ メ ヒ シ バ | D. timorensis Balansa |
| 29. ア キ メ ヒ シ バ | D. violascens Kitam. |

30. ア ブ ラ ス ス キ	Eccoilopus cotulifer A. Camus
31. イ ス ビ エ	Echinochloa crus-galli Beauv.
32. オ ヒ シ バ	Eleusine indica Gartn.
33. ニ ワ ホ コ リ	Eragrostis multicaulis Steud.
34. カ ゼ ク サ	E. ferruginea Beauv.
35. シナダレスズメガヤ	E. curvula Nees
36. ナ ル コ ビ エ	Eriochloa villosa Kunth
37. ト ボ シ ガ ラ	Festuca parvigluma Steud.
38. ナ ギ ナ タ ガ ヤ	F. myuros Linn.
39. オニウシノケグサ	F. arundinacea Schreb.
40. ヒロハノウシノケグサ	F. elatior Linn.
41. ドジョウツナギ	Glyceria ischyronura Steud.
42. ム ツ オ レ グ サ	G. acutiflora Torr.
43. チ ガ ヤ	Imperata cylindrica Beauv. var. koenigii Durand et Sching
44. チ ゴ ザ サ	Isachne globosa O. Kuntze
45. サ ヤ ス カ グ サ	Leersia sayanuka Ohwi
46. ア ゼ ガ ヤ	Leptochloa chinensis Nees
47. ネ ズ ミ ム ギ	Lolium multiflorum Lam.
48. ホ ソ ム ギ	L. perenne Linn.
49. ス ス キ	Miscanthus sinensis Anderss
50. ハチジョウススキ	M. condensatus Hack.
51. サ サ ガ ヤ	Microstegium japonicum Steud.
52. ア シ ボ ソ	M. vimineum A. Camus var. polystachyum Ohwi
53. ネ ズ ミ ガ ヤ	Muhlenbergia japonica Steud.
54. キダチノネズミガヤ	M. ramosa Makino
55. チ ゼ ミ ザ サ	Oplismenus undulatifolius Roem. et Schult.
56. コ チ ゼ ミ ザ サ	O. undulatifolius Roem. et Schult var. japonicus Koidz.
57. ネ カ キ ビ	Panicum bisulcatum Thunb.
58. オ オ ク サ キ ビ	P. dichotomiflorum Michrx.
59. ハ ナ ク サ キ ビ	P. capillre Linn.
60. ス ズ メ ノ ヒ エ	Paspalum dilatatum Poir.
61. シマスズメノヒエ	P. thunbergii Kunth

62. タチスズメノヒエ
63. チ カ ラ シ バ
64. ク サ ヨ シ
65. カナリークサヨシ
66. ヨ シ
67. ナ ガ ハ グ サ
68. スズメノカタビラ
69. ミゾイチゴツナギ
70. オオイチゴツナギ
71. ヒ エ ガ エ リ
72. メ ガ ル ガ ヤ
73. エ ノ コ ロ グ サ
74. キンエノコロ
75. アキノエノコログサ
76. イ ヌ ア ワ
77. オ オ エ ノ コ ロ
78. セイバンモロコシ
79. ヒ メ モ ロ コ シ
80. オオアブラススキ
81. ネ ズ ミ ノ オ
82. スズメノテッポウ
83. シ バ
84. オ ニ シ バ

- Paspalum urvillei** Steud.
Pennisetum alopecuroides Spreng.
Phalaris arundinacea Linn.
P. canariensis Linn.
Phragmites australis Trin.
Poa pratensis Linn.
P. annua Linn.
P. acroleuca Steud.
P. nipponica Koidz.
Polypogon fugax Steud.
Themeda japonica C. Tanaka
Setaria viridis Beauv.
S. glauca Beauv.
S. faberi Herrm.
S. chondrachne Honda
Staria × **pycnocoma** Henrard
Sorghum halepense Pers.
S. halepense Pers. f. **muticum** Hubb.
Spodiopogon sibiricus Trin.
Sporobolus fertilis W. D. Clayton
Uandallia anagallis Yamazaki var. **verbenaefolia** Yamazaki
Goisia japonica Steud.
G. macrostachya Kitam.

B. カヤツリグサ科

1. ホンモンジスゲ
 2. ジュズスゲ
 3. ヤワラスゲ
 4. ヒカゲスゲ
 5. ホソバヒカゲスゲ
 6. マスクサ
 7. タカネマスクサ
 8. カサスゲ
- Carex pisiformis** Boott
C. ischonostachya Steud.
C. transversa Boott
C. lenceolata Boott
C. nanella Ohwi
C. gibba Wahlenb.
C. planata Fr. et Sav.
C. dispolata Boott

9. ヒ ゴ ク サ
10. エ ナ シ ヒ ゴ ク サ
11. ヒ メ カ ン ス ゲ
12. ナ キ リ ス ゲ
13. セ ン ダ イ ス ゲ
14. カ ヤ ツ リ グ サ
15. コ ゴ メ ガ ヤ ツ リ
16. ア ゼ ガ ヤ ツ リ
17. タ マ ガ ヤ ツ リ
18. ハ マ ス ゲ
19. ア ブ ラ ガ ヤ
20. ヒ デ リ コ
21. イ ソ ヤ マ テ ン ツ キ
22. ヒ メ ク グ
23. マ ツ バ イ
24. フ ト イ

Carex. japonica Thunb.

C. aphanolepis Fr. et Sav.

C. conica Boott

C. lenta D. Don

C. lenta D. Don var. **sendaica** T. Koyama

Cyperus microiria Steud.

C. iria Linn.

C. globosus All.

C. difformis Linn.

C. rotundus Linn.

C. wichurae Bocklr.

Fimbristylis miliacea Vahl

F. sieboldii Miq.

Kyllinga gracillima Miq.

Eleocharis yokoscensis Tang et Wang

Scirpus tabernaemontani Gmel.

C. イ グ サ 科

1. イ
2. ク サ イ
3. コウガイゼキショウ
4. ハナビゼキショウ
5. スズメノヤリ
6. スカボシソウ
7. ヤマスズメノヒエ

Juncus effusus L. var. **decipiens** Buchen.

J. tenuis Willd.

J. leschenaultii Gay

J. alatus Fr et Sav.

Luzula capitata Nakai

L. plumosa E. Meyer

L. multiflora Lejeune

逗子の野山の花

逗子市は三方をみどりの丘陵にかこまれて、西は相模湾に面し、山野の植物に海岸性の植物も加えて、その種類は多く、特に、神武寺の山谷は明治の昔から、日本の植物研究者の間に植物の宝庫として、京浜地区からはもちろん東北地方、関西地方からも植物採集をしに、毎年毎年多くの人達がやって来ました。

そのため何種類かの貴重な植物はとりつくされてしまって、今ではその姿が見られなくなってしまったものもあります。現在でも、神武寺の谷や、二子山の谷に植物の研究者が多くやって来ています。

ここでは、市民が逗子の野山をあるく時、一般的に見る事の出来る植物について、解説をしました。食用になるものも料理法をつけ加えました。山菜は季節がやって来ると、「あれが、食べたいなあ」と思うようになれば一人前です。でも自然保護の立場から乱獲はつつしんで欲しいと思います。

尚、季節についてはあくまでも標準的なもので、ここに示したものより早いものも、遅く花をつけるものもあります。また秋の野山をかざる紅葉のものも加えてみました。更に一般市民になじみのうすい学術用語は、なるべく使わないようにしました。

1. 早春の花（2月・3月）

キブシ ；

春の山 きぶしの花の盛りなり 木の芽はかたく かそけき中に 杉山彦三郎

（元横須賀市教育長）

果実が^{フレン}五倍子の代用品になるのでこの名があります。まだ風の冷たい早春、一つの枝から黄色い花をたくさんつけた穂が何本もたれ下がります。この花を見ると春がもう近くに来ている事を感じます。この仲間には、海岸性のもので、エノシマキブシがありますが、これは枝も太く、葉も大きく、実も大きい事で区別をしています。

春早く咲く花は、普通つぼみが前の年の秋に出来ています。キブシも秋に葉が散る頃、すでに小さなつぼみの穂が枝についています。

オオバヤシヤブシ ；

2月から、4月にかけて、山道を歩くと枯木のように見える枝に黄褐色の太いひも状の雄花がたれ下がります。雌花の穂は小さく、長さ6mmから8mmの楕円形で枝の先についています。下の方にある褐色の楕円形の実、去年の残がいいで冬を越し枯れたままついていて、雌花の穂が枝の先につき、その下に花がつかます。

フキノトウ ；

1月末から2月にかけて野山に、フキノトウが顔を出します。このフキノトウは、つぼみの集まったものですが、しだいにのびて40cmから50cmにもなり枝分かれし、その先に小さな白っぽい花の集まりをつけます。一つ一つの小さな花はつつ形の花です。

つつ形の花には二通りあって、一つは両性花でまん中にめしべ、まわりにおしべがありますが、このめしべは不完全で実を結びません。もう一つの花はめしべだけの花です。フキでは両性花をもつ株とめしべだけの雌花をつける株とが別々になっています。雌の株のめしべの頭に、両性花のおしべの花粉がつくと実を結びます。ですから実が出来るのは雌の株だけなのです。

フキノトウは特有の香りと苦味があり、熱湯にひたしてアクをぬいたのち、煮て食べたり、味噌と共にすりつぶしたり、味噌汁の中に浮かしたりします。

ツクシ ；

早春、堤や道ばたに頭を出すツクシは、春のおとずれを知らしてくれます。美しい花も咲かず実もならず、葉らしいものも見当りませんが、俗に“ハカマ”と呼ばれているものが、実は葉なのです。地上に頭をもち上げたツクシはやがて、まっすぐに伸び、茎の先の円柱形の穂から黄色い胞子をとばして、繁殖するシダ植物なのです。この胞子を顕微鏡で見ると丸まっていますが、そっと息を吹きかけると広がって、くもの子のような形で動きまわります。

漢字名では、“土筆”と書きますが、お隣の中国では、“^{ヒツクサイ}筆頭菜”と言います。その形が筆に似ているからです。尚、スギナは“杉菜”で、その姿が杉の枝に似ているからだそうです。ツクシは、はかまを取って、煮たり、油いため（少し砂糖、醤油で味付け）で食べると風味があり、昔から食用にされています。

良く子供の頃、スギナで遊び松葉に似た枝をさやから引き抜いて、また、もとのさやにさしこみ、「どこで接ないだ？」と言いながら遊んだものです。

オオイヌノフグリ ；

野原や、あぜ道では、るり色の可愛い花オオイヌノフグリが最も人目に多くつきます。この花も多くの人達が、春の訪れを知ることの出来る身近なものです。

帰化植物で、ふるさとはヨーロッパだと言われています。草丈は15cmから25cmになります。この花は虫媒花で花のしくみと昆虫との関係がうまく出来ています。昆虫は、キセルのようにつき出した雌花にとまり、左右に伸びた2本の雄花につかまると雄花は昆虫の重みでおしまげられ、粉袋が昆虫の毛だらけのお腹の下にきて、たくさんの花粉がこすりつけられます。こうして昆虫が他の花に花粉を運んで行くのです。

一般に帰化植物は、繁殖力が特に盛んです。花に手をかけるとすぐにポロリと散ってしまいます。こ

れに似た種類で タチイヌノフグリ は、草丈 15 cm から 25 cm、花はあい色で小さいです。茎は地面をはわず直立しています。

イヌノフグリ は、草丈 5 cm から 15 cm で花はうすべに色で葉や茎に毛がありません。これにそっくりな形をした フラサバソウ も、二子山の奥にひっそりと咲いています。

ムラサキケマン ；

筒状の細長い花が“ケマン”と言う仏具に似て紫色だから、黄色の キケマン に対してこの名があります。

道ばた、草むら、山のふもとなどに多く見られます。3月から5月に赤紫色の花がたくさんついた穂を出します。花の穂や茎はまっすぐに立っています。花は筒形で前の方は、くちびる状に開き後はつき出していて、きょ(距)になっています。ちょっと見ると一つ一つの花は、 スミレ の花を細長くした感じです。

キケマン ；

野山に咲く ムラサキケマン と良く似ていて花が黄色で茎の頂に多数集り、日当りのいい場所に大きい株になって咲く越年草です。葉は粗大で3回から4回羽状^{うじょう}に分かれ、各裂片は卵状くさび形で深いきれこみがあります。全体が白っぽい緑色で、折れたり傷ついたりするといやな臭みがあります。茎の高さは50 cm位に伸びて軟かく、切れば黄色い乳汁が出ます。有毒植物とされています。

2. 春の花（3月・4月）

ナズナ ；

春の七草の一つとして知られている越年草。一名 ペンペンサ ともいい、大根や アブラナ の仲間で花の形は十字形をしています。花の咲く頃には穂をつき出して、たくさんの小さい白い花をつけ、花が終ると三角形の実をつけます。この実が三味線のばちに似ています。このため ペンペンサ・パチグサ と呼ばれています。葉は地面にへばりついている根生葉。おひたし、ごま和え、汁の実に入れたり、塩と酢を入れて炊いたごはんによくきざんだ ナズナ を入れて混ぜ合わせて、“ナズナごはん”にします。

タンポポ ；

花が終って実がついた形が、タンポ槍の穂に似ているところから、“タンポのホ”という意味でこの名があります。

日本全国に分布し、非常に種類の多い多年草です。在来の普通の タンポポ は、 カントウタンポ



セイヨウタンポポ カントウタンポポ

ポと呼ばれています。

近頃見る タンポポ はほとんど戦後ふえてきた
セイヨウタンポポ です。この特徴は、花のもとを外
側から包んでいる“ほう”がそり返る性質を持っ
ています。 カントウタンポポ では、“ほう”は上向
きに並び、そり返らない事で区別します。

ホトケノザ ；

この名は、葉が円形で仏の坐るレンゲに似ているところから出た名です。葉のつけ根から紅紫色の細
長い花をたくさんつけます。畑、あぜ道などに生えています。1～2年草で茎は細く四角形で群り生え
ています。

スマイレ ；

この名は、花の形が大工さんが用いる墨つぼ（スマイレ）に似ているところから“スマイレ”が“ス
ミレ”になったといえます。あぜ道の日だまりには、 タチツボスマイレ が花をほころばせ、春が来た
事を告げます。早春の花は株元から柄をのばして咲きます。

スマイレ の種類は、二つのグループに分かれます。

1. 地上に茎が立たないグループ

スマイレ（花は濃紫色）・コスミレ（花は淡紫色）など。

2. 地上に茎が立つもののグループ

ニオイスマイレ（花は白色）・アオイスマイレ（花は淡紫色）・タチツボスマイレ（花は淡紫色）・
ニオイタチツボスマイレ（花は濃紫色）など。

二子山には、花がピンク色をした地上茎のない アカネスミレ があります。逗子市には、 パンジ
ー・ニオイスマイレ など栽培品を含めて、12種類の スミレ を見る事が出来ます。

パンジー（三色スマイレ）を除いて普通の スミレ の花は、実をむすばない花です。つまり美しい
スマイレ の花はむだに咲いているわけです。春から初夏にかけて、 スミレ の花が咲き、やがて花が
しおれてしまったころ、 スミレ には閉鎖花^{ヘイサカ}という特別製の花が出来ます。この頃、 スミレ には
夏葉という春の頃とは形の違う大きな葉が出てきます。この夏葉の葉柄には、翼^{ヨク}がついています。

特別製の花は、春先の花とはまったく異ったつぼみのような閉鎖花（閉花）というものです。この閉
鎖花は花びらもなく、固く閉じたままです。夏葉が出る頃から、 スミレ の根もとから、いつの間
にかこの閉鎖花がぞくぞくと出てきます。夏から秋まで続きます。この閉鎖花は、虫の世話にならず、自

分の花粉が自分のめしべの頭について受粉します。^{ジユフン}受粉が終ると、やがてたねになる^{シボウ}子房の中にたくさんのたまごが熟して種になります。

熟しきると、実は三つにさけて開きます。そして中の種が四方にとび散ります。

ハハコグサ ；

老いて尚 なつかしき名の 母子草 （虚子）

茎の白毛，頭花の冠毛などが暖く見えるから，この名があります。

春の七草の“オギョウ”というのが，これを指し若葉を草餅などに用います。道端・田畑，家の近くに生えています。越年草で高さは，20 cm～30 cmになります。

シュンラン ；

春蘭で日本産の代表的なランです。山林，低山地の乾燥した土地に多く生えます。常緑の多年草で一つの茎に一つの花をつけます。（一茎一花）

春の香りをただよわせる祝宴の席では，普通桜茶を使いますが，こった人達は，シュンランの花を使用します。

近頃めっきり少なくなってしまった花の一つです。

ノゲシ ； （一名 ハルノゲシ）

ウサギ・ヤギの大好物で道端，荒地などにごく普通に生えています。葉は タンポポ のようで茎が立ちます。菊の仲間です。春から夏にかけて，黄色い頭状花をつけます。草丈は1 m位で，茎や葉を傷つけると乳のような汁が出ます。若い葉をとって，一つまみの塩を入れた熱湯で良くゆでて水にさらし，おひたし，ごま和え，油いためなどでおいしくいただけます。大型でトゲのたくさん出ている アザミ のような形のものを“オニノゲシ”といいます。

キラソウ ； （一名 ジゴクノカマノフタ）

茎や葉は立ち上らずに地面をはうように広がるので，地面をおおう状態を地獄の釜の蓋に見立てた名。道端，土手などに多く見られます。多年草で茎と根ぎわの葉は四方に広がります。葉は緑で時には紫色をおびます。春，葉のつけ根に濃紫色のくちびる形の小花を数個つけます。草全体にちぢれ毛が密生しています。

カキドウシ ；

長くつるをのばすので垣根をつらぬき通すという意味です。道ばたや野原に生育するつる性の多年草

です。全体に細かい毛があり、茎や葉に香気があります。葉の形は、じん臓形で春に淡紫色のくちびる形の花を開きます。

ヒメハギ ；

紫色の花が ハギ を思わせる小形であるところからこの名があります。

多年草の小さなもので根は硬くやせて長く、茎も硬くて鉄線状。紫色の花は地面に近く咲きます。ともすると見過ごしてしまいがちなものですが、良く見ると、とてもきれいな花です。

トキワハゼ ；

田や畑などの乾燥した土地に生え、 サギゴケ に良く似た草で花の姿も似ています。一年草でくちびる形の花は赤紫色。 サギゴケ は花が終る頃から長いつるを出してふえていきます。

アケビ・ミツバアケビ ；

“開け実”の意味です。山野に普通に見られる無毛の落葉つる性の植物でつるは長くのびて分枝します。葉は、五葉からなる手をひろげたような掌状複葉で、4月頃新葉と共に柄のある赤紫色の花をつけ、一花穂の中に小形の雌花と大形の雄花が混って咲きます。

葉の三葉のものを、ミツバアケビ といいます。秋に大きい実がなり、ミツバアケビ の方が甘味が強いです。色々と料理に利用します。

・果皮の利用；（良く開いたもの）

1. 果肉を取り去り、皮を適当に刻む。
2. 酢かクエン酸につけて晒す。

（湯がいてアク取りしても良いのですが、多少変色をします。）

3. 布などでよく水切りする。
4. 油（高温）でアクをやわらげる。
5. 最後にゴマ味噌などで和える。

・開きかけのものの利用方法；

1. 果肉を取り、酢、水などで良く晒す。

（湯がく場合は、重曹を少し入れる。）

2. 別の鍋に、ニラ、たまねぎ、たまご、豚挽肉など好みの具をみじん切りにして、よく混ぜる。
3. 具を中に入れて、干びょうでしばる。
4. 高温の油で揚げる。
5. 出来上ったらさまし、うす切りにして食べる。

シロツメグサ と アカツメグサ ；

クローバ、オランダゲンゲ と呼ばれマメ科の仲間。野原、空地、道ばたにはびこって生えています。ヨーロッパの原産で、日本に渡って来たのは江戸時代です。

葉は三枚の小葉を持つ複葉（三出複葉）、まれに四枚の小葉を持つものもあります。これを四つ葉のクローバといって、ヨーロッパでは幸運のシンボルとされています。

夕方になると葉をたたんで閉じます。これを睡眠運動といいます。この花には、ミツバチが来て盛んに蜜を集め、上等な蜂蜜が取れます。1 Kg取るのに、シロツメグサの花が数十万個必要だと言われています。

アカツメグサ もヨーロッパ産で、明治維新の頃日本に入って来ました。茎・葉にも毛があり、茎は上に向って立ち、草丈30 cm～60 cm位、葉に三枚からなる三出複葉、葉の柄は短くつけねのところに卵形^{タコヨウ}の托葉がついています。緑肥として、栽培されています。

ジシバリ と オオジシバリ ；

ふく枝が地上を縦横に走って地面に貼りついているところから、この名がつけました。いたるところに良く生える草です。多年草で、春から夏にかけて直径2 cm程の美しい黄色の頭状花をつけます。花は正午前後に開くが、夕方はほとんどしぼんでしまいます。花の形はタンポポに似ています。舌状花^{ゼツジヨウカ}の裏側は紫色がかかっています。

ジシバリ に近い種類には、大型で茎が立つ事の多い オオジシバリ や頭状花が小形の ニガナ などがあります。

コオニタビラコ ；

きみがため 春の野に出で 若菜摘む

我がころもでに 雪は降りつつ （光孝天皇）

と古歌にありますが、この若菜というのは、“コオニタビラコ”であろうといわれております。葉はタンポポに似た形で、秋の終りに葉を出して冬を越すタイプのもので、これをロゼットと呼びます。若い芽を出した頃から、花が咲く迄、ゆでこぼしておひたしにしても、天ぷらにしてもおいしく食べられるものです。

3. 初夏の花 （5月・6月）

コウゾリナ ；

茎や葉の毛をカミソリに見立てた名前からいいます。“顔そり菜”の意味です。

平地、丘陵地、道端、土手、草地などに生える多年草です。全体に褐色の毛が多いです。早春にロゼット状ですが、のちに中心から茎が伸び60cm～90cmになります。茎は円柱形、葉はほそ長く、初夏に黄色の頭状花を咲かせます。次々と別の新しい株が成長してきて秋までずっと咲き続けます。

ウツギ ；

卵の花 匂う垣根に ほととぎす はやもき啼きて…………

唱歌で有名な“うの花”はこの幹が中空であるから^{ウツギ}空木といいます。

ウツギ という名を持つ植物は、ユキノシタ科とスイカズラ科があります。両者はまったく違う仲間です。

ユキノシタ科の落葉低木で、ウツギ の名を持つものは、ウツギ・マルバウツギ・ヒメウツギ・ウラジロウツギ・ウメウツギ などあります。花はどれも白く、花びらの数は五枚です。

ウツギ は、5月～6月頃白い花をつけます。葉は卵形で、ふちは、ギザギザと浅い鋸歯があります。表面は、ザラザラしています。

スイカズラ科の植物には、ウコンウツギ・キバナウツギ・オオベニウツギ・ハコネウツギ・タニウツギ・ニシキウツギ・ヤブウツギ などの種類があります。

初め花の色は白くて、のちに色が変わるものと、花の色がほとんど変わらないものとに分けられます。花がはじめ白くて、後で赤紫色に変るのが、ハコネウツギ です。

最後に暗い紅色に変るのが、ニシキウツギ。

花の色がほとんど変わらないもの	{	花が暗い赤色	ヤブウツギ
		花が紅色	タニウツギ・オオベニウツギ
		花が濃紅色	ビロウドウツギ
		花がうす黄色	キバナウツギ・ウコンウツギ

逗子には、ウツギ・マルバウツギ・ヒメウツギ が見られます。

カラスノエンドウ と スズメノエンドウ ； カスマグサ ；

野原、道ばたに見られる植物。エンドウをごく小さくしたような赤紫色の花が、4月から5月頃、葉のもとに咲きます。複葉の先端は巻きひげになって、他の植物にからみついています。花が終ると長形のさやが出来てその中には、10個位の黒い種が出来ます。

この仲間で、花も葉も小形のものに スズメノエンドウ があります。この花は白く紫がかっています。また、これに似た カスマグサ があります。

“カスマグサ”は“カラスノエンドウ”と“スズメノエンドウ”の中間の形をしているので、“カラス”の“カ”と“スズメ”の“ス”をとりその間を“マ”とし、“カスマグサ”としたのです。

カラスノエンドウ・スズメノエンドウ の仲間では花が穂をなし、たくさん花をつけるものに クサフジ があります。ちょっと大形で大変美しいものであります。小坪の畑の中にも咲いています。この花を フジ の花に見たて“草藤”と呼んだものです。

フタバハギ ； （一名ナンテンハギ）

二葉のハギの意味です。この葉を“ナンテン”の葉に見たてて ナンテンハギ ともいいます。山麓・原野にごく普通に生えています。多年草で春から夏にかけて、若葉を取り天ぷら（うすい衣を全体につけ低温でじっくり揚げます。）、にします。カラ揚げにしてもパリパリとしておいしいです。またおひたし、ゴマ和え、酢味噌和え、汁の実にも適します。

ミズ ；

高さ40cm位の宿根草です。水気の多いところに生えます。二子山にも沢山あります。雌雄別株で白い花が球状に咲きます。これは、最も重要な山菜の一つでスーパー・デパートなどでも売られている事があります。

葉を取り茎だけにして、塩を入れた熱湯で良くゆでて冷水にひたしてさまし、酢味噌和え、味噌汁に入れてもおいしいです。

ヤマフジ ；

マメ科のつる性で落葉低木で、日本には二種類あって、 フジ と ヤマフジ は日本特産のもので、栽培種のつるは“右巻き”ですが、 ヤマフジ は“左巻き”です。 ヤマフジ は花穂が短く花は大形です。若い葉を昔から食用にしています。

テイカカズラ ；

この名は昔定家卿の墓辺に生えていたのでついたと言われています。山野に多い常緑のつる性木本で、葉は柄があり、普通は楕円形で葉質は固く、新葉は緑色で光沢があります。時々赤変する葉がまじっています。初夏に白色で後に黄色に変る花をつけます。秋も終わりにになると濃い赤色に紅葉します。

スイカズラ ； （一名ニンドウ）

花中に蜜があり、子供がこれを吸う事から出た名前だといわれています。平地、山地のふちなどに生え、つる性で常緑木本で葉は長楕円形で冬もしおれないので忍冬^{ニンドウ}の名があります。

花は白色また乳紅色がのちに黄色に変わって、しおれることから キンギンバナ ともいいます。初夏に甘い香りがただよるので“ガ”の仲間が集ります。

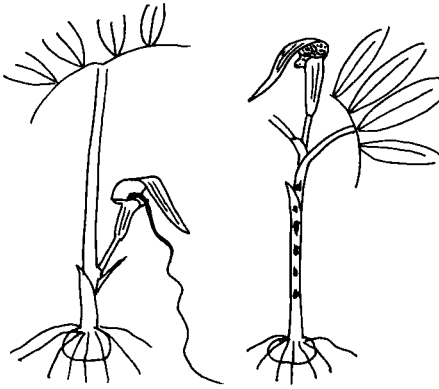
イチヤクソウ（一葉草） ；

この葉で切傷・火傷の薬になるのでこの名がつけました。山野の林の下に生える多年草で冬でも葉の色は変わりません。

数枚の葉が根ざわについていて厚ぼったく濃い緑色をしています。裏側は葉の柄と共に紫色を帯びています。

初夏、葉の間から 20 cm 程の花茎が出て、上の方に白い花を 5 ～ 6 個つけます。花は短い柄が下向きに開きます。このためこの花は自分の花粉で受粉します。

ウラシマソウ ；



ウラシマソウ ムラサキマムシグサ

この名は、花軸の上部が長くムチ状をなしているの
で、浦島太郎がつり糸をたれているのに見たてたもの
です。山林・竹藪に生えます。多年草で地中に大きな
球茎があり、この球茎からたくさんのひげ根が出てい
ます。球茎から地上に長い柄を持った葉を広げ、葉は
鳥の足のように分かれています。5 月頃、茎のつけ根、
地面に近いところから一本の花柄が突き出てその先に
花をつけます。

花は一枚の大きな花ずきん^{フツエンホク}仏焰包に包まれ中に一本
の肉穂があり、その下部にたくさんの雌花と雄花をつ
けます。肥料分が少ないと雄花ばかりになり、栄養が
良い場所は雌花ばかりになります。

花には、一種の悪臭があってハエが集まってきます。

この近い種類に ムラサキマムシグサ があります。これは葉の柄に紫色のまだらがあり、マムシのも
ように似ているのでこの名がつけられたのです。 ムラサキマムシグサ には長いつり糸は出ないし、
花は茎の上方につきます。またこの仲間に、田畑などに生えている小形で葉が三枚の カラスビシャク
もあります。

コマツナギ ；

この名は茎が丈夫で馬をつなぐ事が出来るという意味です。全体はハギの小型という感じです。野原・
川原・土手などに多く生えます。マメの仲間、茎は地上をはうようにのびます。夏から秋にかけ、葉
のつけ根から花柄をだし花穂をつけます。花は赤紫色の美しい蝶形花で、長さは 5 mm 程です。花穂は、
つぼみの時は上向きに出ますが、花が咲くとしだいに水平にたおれ、花が終わると下向きになります。

オカトラノオ ；

丘は生える トラノオ という意味で，“トラノオ”とはこの草の花穂がトラの尾を思わせるからです。日当りの良い野原，山地などに白い花穂をかたむけて咲きます。 サクラソウ の仲間です。

この草は多年草で，地中に長い地下茎をのばしてはびこります。草たけは60cm～1m位で根もこの方は紅色をしています，茎の上部は緑色です。茎は一本立ちで枝分かればありません。葉は秋には美しく紅葉します。

ハウチャクソウ ；

この名は，その花の形が寺院の軒，五重の塔の軒につり下げられる風鈴に似たかざりもの^{ハウチャク}の“宝鐸”のようだからです。 ユリ の仲間で丘の林の中に生える多年草です。茎は枝分かれています。5月頃，枝の先に短い柄のある花が1個から3個たれ下がってつきます。花色は下部が白く，上部が緑色をしています。つつ形で半開きのままです。

エビネ ；

この名は，地下茎の形がエビの尾に似ているので エビネ といいます。山林・竹藪に生える多年草 エビネ の仲間は花変わりといって，花の形が変化しているものが，少なくありません。紫褐色の花を10個内外つけます。

ネジバナ ；

みちのくの しるぶもじずり たれ故に 乱れそめにし 我ならなくに（古今集）河原左大臣
歌にもあるように，“忍^{シノブモジズ}揜^{モジズ}り”からでている言葉で シノブ の葉をすりつけて染めたものともいわれています。このすりぎぬは乱れもように染めてあったことから，このすりものの乱れもようのように花がねじれ巻いているので，“モジズリ”という名がつけられたものです。

野原・芝生の中などに茎がスッと立ってピンク色の花をつけ，花が花軸にらせん状にねじれて咲きます。ランの仲間です。花穂のねじれは，左巻き，右巻き，ねじれないもの，と色々ですが大体左巻きが多いようです。

シャガ ；

林の下などの湿った場所に一面にしげっている“アヤメ”の仲間です。5月頃美しい花が開きます。根茎は浅く地下をはって，細長い枝を分かってふえます。葉は緑色で，つやがあります。どの茎もまっすぐでなくなめに立っています。

花は白紫色が中央に橙色の斑点があり，黄色の突起があります。

朝花を開いて夕方にはしぼむ一日花で、実は熟して穂を作ることがありません。種を作らない植物には、 チューリップ・スイセン・オニユリ・ナツズイセン・ヒガンバナ などあります。

タツナミソウ ；

この名は、^{タツナミソウ}立浪草で花のようすがわきたつ波に似ているためです。林のへり、野原などに5月～6月頃紫の美しいくちびる形の花をつけます。 シソ の仲間です。

草丈は20cm～40cm位です。多年草で、むらがって生えています。茎・葉にはやわらかい毛が密に生えています。心臓形をした葉です。下部から上部に二列に並んでつきますが、片方によってついています。この花の特徴は、がくの上に円盤状の付属物がついている事です。雄しべが四本ですが、うち二本が長くなっています。

アゼムシロ ； （一名ミゾカクシ）

あぜに広がるのでこの名があります。田のあぜや、湿地に多いです。多年草で ハコベ を細かくしたような形で茎は細く地面に沿って長くのび節から根を出します。ところどころ斜上します。全体に毛はありません。夏から秋、長い花柄の先に白色五裂の小さい花を開きます。

4. 夏 の 花 （ 7 月 ・ 8 月 ）

ネムノ木 ；

この名は小葉が夜に閉じて、睡眠するからです。河岸、山野に生え落葉樹です。葉は羽状複葉（一本の軸の両側に小葉が並んでついているもの）、夏に小枝の頂に放射状に紅色の花をつけます。日没前に開花します。雄しべが多数で細い糸状で長く出るので夢のボンボリのような素晴らしい花です。

ハコネウツギ ；

これは、 ハコネウツギ と言われていますが箱根にはありません。海岸近くに生え、庭などに植えられています。花は、初め白く後に赤紫色に変わります。高さ3m～5mで枝は灰褐色で太く葉は広い楕円形でやや厚く光沢があります。実がバナナの形をすることでところから子供達は、バナナ木と呼んでいます。

ウバユリ ；

この名は、花の咲く時に葉が枯れているので、葉を（歯）にかけて姥にたとえたものです。ユリ の仲間としてはかなり変わった様子をしています。山野、藪、林の中に生えていて、高さ50cmから1m位になります。

普通の ユリ は、葉は細長く平行脈ですが、 ウバユリ だけは平たく大きい葉で、網状脈です。

夏の頃花は咲きますが、緑色がかった白で、三個から四個横向きにつきます。

普通の ユリ の仲間は、雄しべや雌しべはたばになりませんが、 ウバユリ では雄しべと雌しべは一つのたばになっており、また、雌しべに長いものと短いものがあります。

ウバユリ の^{リンクイ}鱗茎からはよいでんぶんがとれるので昔は良く食用にしたものです。

ヒルガオ ；

この名は、花が日中咲くためです。野原、道ばたなどに普通に生える ヒルガオ は アサガオ の仲間で、多年草です。地下茎から長いつるの茎を出して巻きつきます。左巻きで、ものにからんで伸びます。葉は大きく、長さ10cmに達するものもあり、長い柄があります。夏の頃、葉のつけ根から長い柄を出して、その頂きに大きいうす紅色の花をつけます。花は漏斗形です。

朝10時頃開いて、一日中咲いています。涼しい日などは翌日まで咲いている時があります。 ヒルガオ は実はなりません。繁殖は地下茎によります。 ヒルガオ に近い種類に、 コヒルガオ と ハマヒルガオ があります。

ノカンゾウ と ヤブカンゾウ ；



ノカンゾウ

ヤブカンゾウ

この名は、漢名^{カンゾウ}の萱草からきたものです。野原、溝のそばに生える ユリ の仲間です。夏の頃黄色がかった赤色の花をつけます。 ヤブカンゾウ は ノカンゾウ とよく似ていますが、この方の花は八重咲きです。 ノカンゾウ は一重咲きです。一日花で ノカンゾウ の方は種が出来ますが、 ヤブカンゾウ の方はできません。この草は、方言で“カッコウ菜”と呼び、食べてもくせがないので、熱湯で軽くゆで、水にさらして、おひたし、汁の実、酢味噌和え、油いためにするとおしく頂けます。特に春先、人という字を反対にしたような形で出てくる時は一番やわらかく、伸びてきたら根もとの白い部分をネギのようにスキヤキに入れてもいいでしょう。

カラスウリ ；

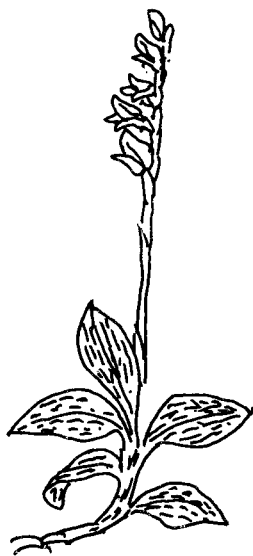
山のふもと、蔽地などに生えるつる草でウリの仲間です。地下に大きい“いも”つまり“かいこん”（塊根）があって、上方に長いつる状の茎をのびします。このつる草は、雌雄異株^{イシユ}で、雌花のつく株と雄花のつく株とが別々になっています。

花は、葉のつけ根からですが、雄花は数個で、短い総状花です。雌花は1個で、集まってつく事はありません。8月から9月ごろ咲きますが、花冠は五つに裂け、裂片のへりは糸状に細かく裂けていて、ふさのようにたれ下ります。見ているとレース編のようで、大変きれいです。花は、七時半頃から咲き始め、一晩中咲いています。朝がくるとしおれ始め、昼頃にはすっかりしおれてしまいます。

実は球形、楕円形で未熟の時は緑色でうすい縦の縞もようがありますが、熟すると真赤になり縞もようは消えます。実の中にはたくさんの種が入っています。その種の形が面白く、カマキリの頭に似ています。

カラスウリ に近い種類に キカラスウリ というのがあります。この実は熟すると黄色くなります。

ミヤマウズラ ；



ミヤマウズラ

この草のもようをウズラに見たてた名で、山中の落葉樹の林間に生えています。多年草で茎はひも状で多肉、緑白色をして地表に平たく伏して、下部各節から根を出します。常緑で葉は茎についてロゼット状になります。夏、葉芯から花茎を出し淡紫色の穂状花を出します。葉のもようがいろいろとあり、面白いものです。

5. 秋の花（9月～11月）

ツルボ ；

この名は連穂で穂花の形にもとづいたものです。

いたるところの原野に生える多年草で ユリ の仲間です。 ラッキョウ のような鱗茎があって、黒味がかった褐色の皮で包まれています。

葉は、春と秋に出ます。春の葉は普通二枚出て、夏に枯れます。

秋になると一本の茎が立ち、その先に淡紫色の総状花がつきます。ツルボの別名は“サンダイガサ”といい、これは“参内がさ”の意味でその花穂の形が、昔公卿が御所に参内する時におともの人が

後ろから、さしかける長い柄のついた傘に似ているからです。

ミズヒキ ；

水引きの 糸しなやかに ゆれいたり

滝谷桂子（横須賀植物会）

この名は、水引でその花穂を水引にみたてたものです。林の草むら、山地の山ぎわなどに見られる多年草です。茎は高さ50cm～80cmで、夏から秋に茎の先から長い花軸を出して赤色の小花を穂状につけます。軸が中空で葉の両面とも、ほとんど毛のないものを シンミズヒキ といいます。

ワレモコウ ；

背が高く、秋の野に目立つ多年草です。全株無毛、葉は羽状複葉で小葉は二対から六対あり、長い楕円形、または卵状の楕円形をしています。小葉のつけ根にある托葉も葉のような形をしていて下方にそり返ってついています。秋の頃、茎のいただきが枝分かれし、枝の先に円筒状の花穂をつけます。花穂は暗い赤紫色をしています。花卉はない花です。

花の形から“ダンゴバナ”と地方では言うところもあります。

ツリガネニンジン ；

この名は、花の形を釣鐘に、白い根を朝鮮人参にたとえたものです。山野に広く分布し、変化が多い多年草。茎は丸く高さ60cm～90cm位あり、全体に毛があります。葉の形がずい分と変るので、ちがった種類のように思われますがよく見ると葉が輪生（一つの節に三枚以上の葉が輪になってつく場合）で折ると白汁が出る特徴があるので、他のものと区別する事が出来ます。

食べてもくせがないので、若葉を摘んで、汁の実、卵とじ、茶碗蒸しの中味、おひたし、ゴマ和え、天ぷらに利用出来ます。

ナンバンギセル ；

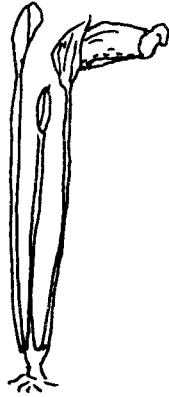
道のべの 尾花が下の思い草 今さらになぞ 物か^{オモ}念わむ （万葉集）

花の形を^{ナンバンギセル}南蛮煙管に見立てた名で、万葉集の オモイグサ つまり思い草で、くびれている姿を物思いにしづんでいる様子に見たてたのでしょう。

ススキ・ショウガ・サトウキビ 等の根に寄生する寄生植物です。茎はごく短く地中にかくれていて、うろこ状の赤褐色の葉に包まれています。

この茎から数本の花の柄がまっすぐに立って、赤紫色の美しい花をつけます。

この近い種類に山地の ススキ の原に生える オオナンバンギセル があります。この方は ナン



ナンバンギセル

バンギセル より大形で高さは20 cmにもなります。

花を包んでいる一枚のがくは、ナンバンギセルでは舟型をしていて先がとがっていますが、オオナンバンギセルの方はがくの先が丸味を帯びているので区別が付きます。

ホトトギス ；

この名は、この花についている紫色や黄色のまだらもようを、鳥のホトトギスの胸についているまだらもようになぞらえたものです。多年草（地上の茎、葉は冬に枯れてしましますが、地下の根や地下茎が生きていて、毎年新しく地上に茎・葉を出す草です。）ユリの仲間です。草全体に毛が多いです。

がけなどにたれ下が生えていますが、直立している事もあります。葉は普通長い楕円形で、毛で覆われており、葉の表面にまだらもようがあります。十月頃、葉のつけねに、2個～3個の花をつけます。

花には柄があって上向きに咲きます。花の形はロート状の釣鐘形で花被は六枚で裏側は白っぽく毛が生えていますが、内側には全体に濃い紫色のまだらがあり、もとのほうには黄色いまだらがついています。

ヤマホトトギス ；

山地、丘の木の下などに生える多年草で、ホトトギスに近い種類です。

花はホトトギスとくらべると小型で、花被がそり返って開いています。花は茎の上の方にだけつきます。内側は白地で、あざやかな紫色の斑点が散らばっています。

アキノキリンソウ ；

日当りのよい山地に生える多年草です。茎は直立し、草たけは30 cm～60 cm位です。

茎の下部は黒みがかった紫色をしていて、上部には短い毛が生えています。夏の終わり頃から秋にかけて、茎の先に黄色の花穂をつけます。花穂はたくさんの頭状花が集まっています。

ノコンギク ；

この名は野にある紺菊色という意味です。

平地、丘陵地のやや湿った草原に生える多年草で、茎の高さは30 cm～1 mでやせ長で縦に線が通り分枝します。葉は荒いのこぎり歯（鋸歯）があり、ざらつき、両面に毛がある。

晩夏から秋にかけて、多数の頭花をつけ花は紫色で中心の管状花は黄色です。

ヨメナ ；

この名は若葉が食べておいしく、秋はまた美しい花が開くところから嫁菜と言われています。

平地、丘陵地に多く多年草で茎の高さは、30 cm～1 m 緑色で多少紫色をおびほとんどざらつきがありません。葉は粗いのこぎり歯（鋸歯）がめだちます。秋に淡紫色で中央の管状花は黄色です。

サッとゆでてアクを抜き、細かくきざんで、塩と味の素で味つけしこれを熱いたきたてのごはんに好きなだけまぜる（よめなご飯）。プーンと香りが鼻をつき春には、かかす事の出来ないものです。汁の実、おひたしなど、おいしくいただけます。

ユウガギク ；

この名は葉にユズの香りのある菊の意味です。形は ヨメナ に似ていますが葉の切れこみが深く、花は白色にわずかに淡紫色をおび、花数は ヨメナ より多いです。

リュウノウギク ；

この名は、茎・葉に龍腦に似た香気をふくんでいます。

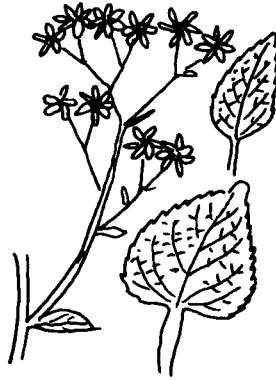
日当りの良い丘陵、山地に生える多年草です。茎はやせて高さ30 cm～60 cm、葉と共に白毛があります。葉の形は園芸種の葉によく似ていますがやや小さいです。秋に白色、中央の管状花は黄色で頭状花をつけます。

シラヤマギク ；

この名は白い花の咲く山菊の意味です。山地の林の中に多く、多年草です。高さ1 m以上で茎・葉共に非常にザラつき、葉は洋紙質で両面に毛があり、ハート型でふちにのこぎり歯（鋸歯）があり、濃緑色で上葉になるにしたがって柄は短いです。8月から10月頃、茎の上部で分枝し、白色で中央の管状花は黄色の頭状花が集まって咲きます。

ヤマシロギク ；

この名は山に咲く白菊の意味です。山地に生える多年草です。茎は細長く直立して高さ30 cm～90 cm位、葉は短い柄があります。葉のへりにのこぎり歯（鋸歯）があり、葉面はざらつき光沢があります。



シラヤマギク



ヤマシロギク

秋に茎の頂が分枝し、白色で中央の管状花は黄色の頭状花が咲きます。

ツリフネソウ ；

この名は、花の形が帆かけ船をつり下げたように見えるからです。山のふもと、湿地に生える一年草（春になると種から芽を出し、茎を伸ばし、葉を広げ、夏から秋までに花を開き、実をむすび、種を作り、地上の茎も根も全部枯れて、種だけが冬を越すものをいいます。）園芸種の ホウセンカ の仲間で、茎は直立枝分かれし、節の部分がいちじるしくふくらんで赤紫色で草丈は50 cm、秋の頃、茎の先に花柄を出し、3 個位の船を釣り下げたような形の花が咲きます。

サラシナショウマ ；

この名は、若い葉を煮て水でさらして味つけして食べるからです。山地の木の下または山中の草地などに生える大型の多年草です。茎高は1 m、直立して円柱形で緑色をしています。茎の頂に長い花穂を出して白い花を密につけます。晩秋になって、葉が枯れた姿はなかなか良い味わいがあるので、生け花の材料として良く使われています。食用には、まだ葉が伸び切らない内がおいしく、ゴマ和え、辛子和え、酢味噌和え、油いためにします。

ハギ ；

こぼれ花 ふむにはおしき はぎのみち

滝谷 桂子（横須賀植物会）

ハギの名は古い株から芽を出すぎ（芽）^{*}から出たといわれています。秋の七草の筆頭によまれているもので、

これは山野に多い ヤマハギ の種類です。このあたりには ハギ の種類は多く、 メドハギ・シナガワハギ・ヤブハギ・コマツナギ・キハギ・マルバハギ・ネコハギ(つるになる) など色々あります。園芸種には花が優美で、枝のたれる ミヤノハギ(一名ナツハギ) があります。

ヒガンバナ ； (一名マンジュシャゲ)

モズ啼いて 一直線の マンジュシャゲ 滝谷 桂子(横須賀植物会)

この名は花が秋の彼岸頃に咲くからです。堤防、あぜ道、墓地と人家近くに生える多年草です。六枚の花被(花びらとがくを一緒に呼ぶ名)から出来ています。花のなりたちからいうと外側の三枚は花びらのようになったがく(外花被^{ガイカヒ})で、内側の三枚は本当の花びらです(内花被^{ナイカヒ})。

ヒガンバナの花被は細長く、外側にそり返っています。へりはちぢれています。花が終わっても実をむすびません。花が終わると緑色の線状の葉が出て、冬の間しげり、三月になると枯れてしまい、夏の終わり頃に花茎をのぼします。これは有毒植物の一種で、黒い外皮に包まれた鱗茎にリコリンという毒物が含まれています。この鱗茎を昔壁土の中にすりこんで壁をぬると、ネズミの害をまぬがれるといわれています。

キツネノカミソリ ；

この名は葉をかみそりに見立てたものです。草原、山のふもとなどに夏の終りから大きい黄色がかった赤色の ユリ に似た花が開きます。これは ヒガンバナ の仲間です。花の下を掘ると球形のラッキョウのような玉(鱗茎)があります。この キツネノカミソリ は実をむすびます。かなり大きい丸い種を作ります。有毒植物です。

ツタ ；

この名は、“はう”の意味です。落葉性のつる植物で吸盤があり分岐した巻ひげで他の植物に巻きついて成長します。葉は卵形が普通ですが、三浅裂するものもあります。三小葉からなる複葉(たくさんの小さな葉が並んでついているもの)で上面に光沢があって、秋の紅葉はまことにあざやかで、色々の変化がありつい見とれる時があります。葉は冬も緑色の キツタ があり、秋に黒い実をつけます。

葉の落ちるツタを 夏ツタ 常緑の キツタを 冬ツタ とも呼びます。

ツワブキ ；

花や葉の光沢がきれいなのでよく庭園などにも植えられています。野生のものは、海岸のがけにおい繁っています。多年草で太い根茎を持っていて、ここから長い柄のある大きい葉がたばになって広がっています。葉は大きい腎臓形で、厚ぼったく、表面はつやつやと緑が濃く若葉の時は、葉の内側に巻

いて灰白がかった褐色の長い毛でおおわれていますが、葉が広がると毛は落ちてしまいます。

十月頃、葉の間から60cm程の花茎が立ち、黄色い頭状花を散房状につけます。葉の柄は食用や薬用にします。

6. 冬 の 花 （ 12月・1月 ）

アオキ ；

冬、赤い実がとてもきれいです。昔味噌を作る時、たるの中に味噌を仕込みその上をこの葉でおおいに蓋をした。それでおおう木という意味で“アオキ”と言ったのが、アオキ になったと言われています。日本特産品で常緑樹で高さ2m内外、若い枝は緑色をして、葉は長楕円状で厚く、つやつやと光沢があります。雌雄異株で、春に枝端に紫褐色の小花を多数つけます。実はダルマの形をしているところから、子供は“ダルマの木”と呼びます。虫害、煙害に強いです。

食用；新芽のやわらかい内につみ、熱湯に重曹を入れてゆで、時々水をかえながら、一日アクぬきをします。注意；ゆですぎると葉が溶けます。

良く絞り適当に切って油でよくいため、味噌と砂糖を入れてよく煮込みます。酢につけて食べてもおいしくいただけます。

カラタチバナ

神武寺や二子山の林の中に葉の大きな カラタチバナ があります。葉の長さは、20cmにもなります。先はだんだんがかり、濃い緑色をしています。このあたりが北限の植物でこれより北の方には見られません。常緑の低木で暖地の樹林内に生えています。普通は、長さ10cm位、幅2cm～3cm、へりの鋸歯が波形でにぶく歯の間に腺体があります。表面は濃い緑色で少し光沢があります。裏面は淡緑色で中脈がもり上がっています。冬に赤い実を マンリョウ のようにつけます。植木屋は、これを百両と呼んでいます。

マンリョウ ；

千両にまさる意味で暖地の樹陰に多く常緑の小低木で高さ30cm～60cm位で、茎は単一でほとんどが分岐しません。葉は長楕円形で厚く光沢があって、花は白色の小花が咲き、果実は冬にあざやかな赤色になります。

ヤブコウジ ；

藪に生える赤く熟した実をコウジに見立てた名で、山地、丘陵地の林内に生える常緑の小低木で、地下茎を伸ばし、繁殖し、茎高は、10cm～20cmで葉は長楕円形でふちに細かいぎざぎざの鋸歯があり、

質は光沢です。夏に白色の小花を下げます。果実は冬赤く、よく盆栽のよせ植にされます。万両、千両に対して、植木屋はこれを十両とも呼びます。

ヤブツバキ ；

葉につやがあるところから，“ツヤバギ”といったのがなまって ツバキ になりました。

常緑で高木、冬から春にかけて赤い花を下向きに咲かせます。ヒヨドリやメジロが蜜を吸いに来ます。

食用；新しい花を取り、花粉を取り除いて半面だけコロモをつけて天ぷらにすると、甘くて花の赤色が残る、きれいなところから、おいしさが倍增します。

カンアオイ ；

この名は葉が冬も枯れず形が アオイ に似ているからです。山地の木の下に生え、常緑の多年草で、茎は非常に短く、茎の先に一個の葉と一個花をつけます。

葉柄は、汚紫色で長く円柱形、葉は卵状楕円形か卵形で、表面は深緑色のところに白いようがついています。晩秋から初冬にかけて暗紫色の花を咲かせます。花を見ようとする場合、落葉をのけると、根もとのところに咲いています。ギフチョウの幼虫が、若葉を好んで食べます。

集 計 表

(種には変種)
を含む

羊 歯 植 物

科	属	種
ヒカゲノカズラ	1	1
イワヒバ	1	4
トクサ	1	1
ハナワラビ	2	4
ハナヤスリ	1	1
ゼンマイ	1	1
フサシダ	1	1
ウラジロ	2	2
コケシノブ	3	4
イノモトソウ	17	52
シノブ	1	1
キジノオシダ	1	1
オシダ	9	26
シンガシラ	2	2
チャセンシダ	2	5
ウラボシ	5	5
計	16	50 111

裸 子 植 物

ソテツ	1	1
イチヨウ	1	1
カヤ	1	1
マキ	1	2
イヌガヤ	1	1
マツ	2	3
スギ	1	1
ヒノキ	2	3
計	8	10 13

被 子 植 物

単子葉植物

ガマ	1	2
イネ	51	85
カヤツリグサ	6	24
イグサ	2	7
ヤシ	1	1
サトイモ	3	4
ツユクサ	3	3
ユリ	13	26
ヒガンバナ	1	2
ヤマノイモ	1	4
アヤメ	4	5
ショウガ	1	1
ラン	9	12
計	13	96 176

双子葉植物

離弁花植物

ドクダミ	2	2
コショウ	1	1
センリョウ	1	2
ヤナギ	1	2
カバノキ	2	5
ブナ	4	9
ニレ	3	3
クワ	5	7
イラクサ	4	9
ヤドリキ	2	2
ウマノスズクサ	2	2
タデ	4	22
アカザ	2	8
ヒユ	2	6
ヤマゴボウ	1	2
ツルナ	2	2
スベリヒユ	1	2
ザクロソウ	1	1
ナデシコ	5	11
キンポウゲ	8	15
アケビ	1	3
メギ	3	3
ツヅラフジ	2	2
モクレン	1	1
クスノキ	5	6
ケシ	3	4
アブラナ	12	14
ベンケイソウ	3	5
ユキノシタ	4	10
トベラ	1	1
バラ	15	21

マメ	21	30
フクロソウ	1	1
カタバミ	1	3
ミカン	3	5
ニガキ	1	1
ヒメハギ	1	1
トウダイグサ	6	11
ドクウツギ	1	1
ウルシ	1	3
モチノキ	1	3
ニシキギ	3	7
カエデ	1	5
ツリフネソウ	1	1
クロウメモドキ	2	2
ブドウ	4	4
ホルトノキ	1	1
アオイ	1	1
マタタビ	1	3
ツバキ	2	2
オトギリソウ	1	1
スマレ	1	10
キブシ	1	2
ジンチヨウゲ	2	2
グミ	1	2
ウリノキ	1	1
アカバナ	3	7
ウコギ	6	10
セリ	10	13
ミズキ	3	4
計	60	185 320

合弁花植物

イチヤクソウ	2	2
ツツジ	1	2
ヤブコウジ	2	4
サクラソウ	1	3
エゴノキ	1	1
モクセイ	3	4
フジウツギ	1	1
リンドウ	2	3
キョウチクトウ	1	1
ガガイモ	3	3
ヒルガオ	2	4
ムラサキ	3	4
クマツヅラ	3	5
シソ	12	18

ナス	4	6
ゴマノハグサ	4	7
ハマウツボ	1	1
イワタバコ	1	1
キツネノマゴ	1	1
ハエドクソウ	1	1
オオバコ	1	3
アカネ	4	5
スイカズラ	5	9
オミナエシ	2	2
ウリ	4	5
キキョウ	4	6
キク	42	76
計	27	111 178

	科 数	属 数	種数(含む変種)
離弁花植物	60	185	320
合弁花植物	27	111	178
双子葉植物	87	296	497
単子葉植物	13	96	176
被子植物	100	392	673
裸子植物	8	10	13
種子植物	108	402	687
羊歯植物	16	50	111
計	124	452	798

五十音順植物目録

植 物 名	科 名	植 物 名	科 名
ア		アケビ	アケビ
		アシ(ヨシ)	イネ
		アシタバ	セリ
		アシボソ	イネ
アイアスカイノデ	オンダ	アスカイノデ	オンダ
アイノコクマワラビ	イノモトソウ	アスナロ	ヒノキ
アオイスマレ	スマレ	アズマネザサ	イネ
アオカモジグサ	イネ	アゼガヤツリ	カヤツリグサ
アオキ	ミズキ	アツバスマレ	スマレ
アオツツラフジ	ツツラフジ	アブラガヤ	カヤツリグサ
アオホラゴケ	コケシノブ	アブラススキ	イネ
アオビユ	ヒユ	アブラチャン	クスノキ
アオミズ	イラクサ	アマクサンダ	イノモトソウ
アカガシ	ブナ	アマチャズル	ウリ
アカザ	アカザ	アマドコロ	ユリ
アカシデ	カバノキ	アメリカセンダングサ	キク
アカネ	アカネ	アメリカヤマゴボウ	
アカネスミレ	スマレ	(ヨウシュヤマゴボウ)ヤマゴボウ	
アカバナ	アカバナ	アラカシ	ブナ
アカマツ	マツ	アラゲミゾシダ	イノモトソウ
アカメガシワ	トウダイグサ	アレチウリ	ウリ
アカメヤナギ	ヤナギ	アレチギシギシ	タデ
アキカラマツ	キンポウゲ	アレチノギク	キク
アキザキヤツシロラン	ラン	アレチハナガサ	クマツヅラ
アキエノコログサ	イネ		
アキノキリンソウ	キク		
アキノギンリョウソウ	イチヤクソウ	イ	
アキノタムラソウ	キク	イ	イグサ
アキノノゲシ	キク	イガアザミ	キク
アキノミチヤナギ	タデ	イカリソウ	メギ
アキヒメシバ	イネ		

ウラジロガシ
ウラジロマタタビ
ウリノキ
ウワバミソウ

ブナ
マタタビ
ウリノキ
イラクサ

オオシマザクラ
オオニシキソウ
オオバイボタ
オオバウマノスズクサ
オオバコ
オオバジャノヒゲ
ユリ

バラ
トウダイグサ
モクセイ
ウマノスズクサ
オオバコ
ユリ

エ

エゴノキ
エゾタチカタバミ
エゾノギンギシ
エナシヒゴクサ
エノキ
エノキグサ
エノコログサ
エノシマキブシ
エビズル
エビネ
エンコウカエデ

エゴノキ
カタバミ
タデ
カヤツリグサ
ニレ
トウダイグサ
イネ
キブシ
ブドウ
ラン
カエデ

オオバノイノモトソウ
オオバノハチジョウシダ
オオバヤシャブシ
オオブタクサ
オオマツヨイグサ
オオモミジ
オオレンシダ
オカウコギ
オカトラノオ
オガルガヤ
オギ
オクマワラビ
オケラ
オサンダ
オトギリソウ
オトコエシ
オートムギ
オナモミ
オニウシノケグサ
オニカナワラビ
オニシバ
オニシバリ (ナツボウズ)

イノモトソウ
イノモトソウ
カバノキ
キク
アカバナ
カエデ
イノモトソウ
ウコギ
サクラソウ
イネ
イネ
イノモトソウ
キク
シシガシラ
オトギリ
オミナエシ
イネ
キク
イネ
オンダ
イネ

オ

オオアブラススキ
オオアレチノギク
オオイタチシダ
オオイチゴツナギ
オオイヌタデ
オオイヌノフグリ
オオウシノケグサ
オオエノコロ
オオオナモミ
オオカナワラビ
オオキジノオ
オオクサキビ
オオケタデ
オオジシバリ

イネ
キク
イノモトソウ
イネ
タデ
ゴマノハグサ
イネ
イネ
キク
オンダ
キジノオンダ
イネ
タデ
キク

オトギリソウ
オトコエシ
オートムギ
オナモミ
オニウシノケグサ
オニカナワラビ
オニシバ
オニシバリ (ナツボウズ)
オニノゲン
オニヤブソテツ
オニヤブマオ
オヒシバ
オモト
オヤブジラミ

イネ
イネ
イネ
イネ
イネ
オンダ
イネ
オンダ
イラクサ
イネ
ユリ
セリ

オランダガラシ
オランダミミナグサ
オリヅルシダ

アブラナ
ナデシコ
オシダ

カラスムギ
カラタチバナ
カラムシ
カモガヤ
カワラケツメイ
カワラナデシコ
カワラヨモギ
カンアオイ
ガンクビソウ
カントウタンポポ

イネ
ヤブコウジ
イラクサ
イネ
マメ
ナデシコ
キク
ウマノスズクサ
キク
キク

カ

ガガイモ
カキドウシ
ガクアジサイ
カクレミノ
カサスゲ
カジイチゴ
カシワバハグマ
カズノコグサ
カスマグサ
カゼクサ
カタバミ
カタヒバ
カナリークサヨシ
カナムグラ
カニクサ
カニツリグサ
ガマ
ガマズミ
カマツカ
カモガヤ
カモジグサ
カヤ (カヤノキ)
カヤツリグサ
カラクサイヌワラビ
カラクサナズナ
カラスウリ
カラスノエンドウ
カラスノサンショウ
カラスビシャク

ガガイモ
シソ
ユキノシタ
ウコギ
カヤツリグサ
バラ
キク
イネ
マメ
イネ
カタバミ
イワヒバ
イネ
クワ
フサシダ
イネ
ガマ
スイカズラ
バラ
イネ
イネ
イチイ
カヤツリグサ
イノモトソウ
アブラナ
ウリ
マメ
ミカン
サトイモ

キ

キカラスウリ
キクイモ
キクバドコロ
キケマン
キケンシヨウマ
ギンギン
キシヨウブ
キジョラン
キダチノネズミガヤ
キチジョウソウ
キッコウハグマ
キヅタ
キツネアザミ
キツネガヤ
キツネノカミソリ
キツネノボタン
キツネノマゴ
キハギ
キブシ
キュウリグサ (タビラコ)ムラサキ
ギョウギシバ
キヨスミギボウシ

ウリ
キク
ヤマノイモ
ケシ
キンボウゲ
タデ
アヤメ
ガガイモ
イネ
ユリ
キク
ウコギ
キク
イネ
ヒガンバナ
キンボウゲ
キツネノマゴ
マメ
キブシ
イネ
ユリ

キヨスミヒメワラビ

(シラガシダ) イノモトソウ

キヨタキシダ

イノモトソウ

キラソウ

シソ

キンエノコロ

イネ

キンミズヒキ

バラ

キンラン

ラン

ギンラン

ラン

クルマバナ

クモノスシダ

クロガネモチ

クロマツ

クロモジ

クワ (ヤマグワ)

クワタサ

グンバイナズナ

シソ

チャセンシダ

モチノキ

マツ

クスノキ

クワ

クワ

アブラナ

ク

クコ

ナス

クサイ

イグサ

クサギ

クマツヅラ

クサニワトコ (ソクズ)

スイカズラ

クサノオウ

ケシ

クサボケ

バラ

クサボタン

キンボウゲ

クサヨシ

イネ

クジャクシダ

イノモトソウ

クジャクフモトシダ

イノモトソウ

クズ

マメ

クスノキ (栽)

クスノキ

クスギ

ブナ

クマガエソウ

ラン

クマシデ

ガバノキ

クマツヅラ

クマツヅラ

クマノミズキ

ミズキ

クマヤナギ

クロウメモドキ

クマワラビ

イノモトソウ

ク라마ゴケ

イワヒバ

クララ

マメ

クリ

ブナ

クリハラン

ウラボシ

クルマバザクロソウ

ザクロソウ

ケ

ケアリタソウ

アカザ

ケイワタバコ

イワタバコ

ゲジゲジシダ

イノモトソウ

ケナシヒメムカシヨモギ

キク

ケブカフモトシダ

イノモトソウ

ケヤキ

ニレ

ゲンノシヨウコ

フウロソウ

ケンボナシ

クロウメモドキ

コ

コアカザ

アカザ

コアカソ

イラクサ

コウガイゼキシヨウ

イグサ

コウゾ

クワ

コウゾリナ

キク

コウブシ (ハマスゲ)

カヤツリグサ

コウヤボウキ

キク

コオニタビラコ

キク

コガマ

ガマ

コガンピ

ジンチヨウゲ

コクサギ

ミカン

コ克蘭

ラン

コゴメウツギ

バラ

コゴメガヤツリ	カヤツリグサ	ザクロソウ	ツルナ
コケシノブ	コケシノブ	ササガヤ	イネ
コシダ	ウラジロ	ササバギンラン	ラン
コスミレ	スミレ	サジガソウ	キク
コセンダングサ	キク	サネカズラ	モクレン
コチジミザサ	イネ	サヤヌカボ	イネ
コナスビ	サクラソウ	サラシナショウマ	キンポウゲ
コナラ	ブナ	サルトリイバラ	ユリ
コニシキソウ	トウダイグサ	サルナシ	マタタビ
コヌカグサ	イネ	サワアジサイ	
コハコベ (ハコベ)	ナデシコ	(ヤマアジサイ)	ユキノシタ
コバノカナワラビ	オシダ	サワハコベ	ナデシコ
コバノガマズミ	スイカズラ	サワラ (裁)	ヒノキ
コバノタツナミソウ	シソ	サンショウ	ミカン
コバノトネリコ			

(アオダモ)	モクセイ		
コバノヒノキシダ	チャセンシダ		
コヒルガオ	ヒルガオ	シオデ	ユリ
コヒロハハナヤスリ	ハナヤスリ	シケシダ	オシダ
コブナグサ	イネ	シケチシダ	オシダ
コマツナギ	マメ	シシウド	セリ
コマツヨイグサ	アカバナ	ジシバリ	キク
コミカンソウ	トウダイグサ	シドミ (クサボケ)	バラ
コメツブウマゴヤシ	マメ	シナガワハギ	マメ
コメヒシバ	イネ	シナダレスズメガヤ	イネ
コモチシダ	シシガシラ	シノブ	シノブ
コモチマンネングサ	ペンケイソウ	シバ	イネ
ゴヨウアケビ	アケビ	シバヤナギ	ヤナギ
ゴンズイ	ニシキギ	シマスズメノヒエ	イネ
コンテリクラマゴケ (裁)	イワヒバ	シモツケ	バラ

サ

サイハイラン	ラン	ジャケツイバラ	マメ
サクラタデ	タデ	ジャノヒゲ	ユリ
		ジャニンジン	アブラナ
		シュウブソウ	キク

シ

ジュウモンジンダ
 ジュズスゲ
 ジュズダマ
 ジュズネノキ
 シュロ
 シュンラン
 ショカツサイ
 シラカシ
 シラゲガヤ
 シラキ
 シラヤマギク
 シロザ
 シロダモ
 シロツメクサ
 シロノセンダングサ
 シロバナサクラタデ
 シロバナタンポポ
 シロバナハンショウズル
 シロヨメナ
 シンミズヒキ

オシダ
 カヤツリグサ
 イネ
 アカネ
 ヤシ
 ラン
 アブラナ
 ブナ
 イネ
 トウダイグサ
 キク
 アカザ
 クスノキ
 マメ
 キク
 タデ
 キク
 キンボウゲ
 キク
 タデ

スズメノヤリ
 スダジイ (イタジイ)
 スハマソウ
 スベリヒユ
 スミレ

イグサ
 ブナ
 キンボウゲ
 ヒユ
 スミレ

セ

セイタカアワダチソウ
 セイタカシケンダ
 セイバンモロコシ
 セイヨウカラシナ
 セイヨウタンポポ
 セイヨウノコギリソウ
 セキショウ
 ゼニバアオイ
 セリ
 センダイスゲ
 センナリホオズキ
 センニンソウ
 センノキ
 センブリ
 センボンヤリ
 ゼンマイ

キク
 オシダ
 イネ
 アブラナ
 キク
 キク
 サトイモ
 アオイ
 セリ
 カヤツリグサ
 ナス
 キンボウゲ
 ウコギ
 リンドウ
 キク
 ゼンマイ

ス

スイカズラ
 スイパ
 スカシタゴボウ
 スカシユリ
 スギ (栽)
 スギナ
 ススキ
 スズメウリ
 スズメノエンドウ
 スズメノカタビラ
 スズメノテッポウ
 スズメノヒエ

スイカズラ
 タデ
 アブラナ
 ユリ
 スギ
 トクサ
 イネ
 ウリ
 マメ
 イネ
 イネ
 イネ

ソ

ソクズ (クサニワトコ)
 ソテツ (栽)

スイカズラ
 ソテツ

タ

タイアザミ
 ダイコンソウ
 タイトゴメ

キク
 パラ
 ペンケイソウ

タウコギ	キク
タカサブロウ	キク
タカトウダイ	トウダイグサ
タカネマスクサ	カヤツリグサ
タガラシ	アブラナ
タケニグサ	ケシ
タチイヌノフグリ	ゴマノハグサ
タチシノブ	イノモトソウ
タチスズメノヒエ	イネ
タチチチコグサ	キク
タチツボスミレ	スミレ
タツナミソウ	シソ
タニイヌワラビ	イノモトソウ
タニギキョウ	キキョウ
タニジャコウソウ	シソ
タネツケバナ	アブラナ
タブノキ (イヌグス)	クスノキ
タマアジサイ	ユキノシタ
タマガヤツリ	カヤツリグサ
タムラソウ	キク
タラノキ	ウコギ
ダンドボロギク	キク

チ

チガヤ	イネ
チカラシバ	イネ
チゴザサ	イネ
チゴユリ	ユリ
チジミザサ	イネ
チチコグサ	キク
チチコグサモドキ	キク
チドメグサ	セリ
チャセンシダ	チャセンシダ
チャンバギク (タケニグサ)	ケシ

チョウセンガリヤス イネ

ツ

ツクバネウツギ	スイカズラ
ツタウルシ	ウルシ
ツタバウンラン	ゴマノハグサ
ツヅラフジ	ツヅラフジ
ツバキ (ヤブツバキ)	ツバキ
ツボクサ	セリ
ツボスミレ	スミレ
ツメクサ	ナデシコ
ツユクサ	ツユクサ
ツリガネニンジン	キキョウ
ツリフネソウ	ツリフネソウ
ツルウメモドキ	ニシキギ
ツルカノコソウ	オミナエシ
ツルグミ	グミ
ツルドクダミ	タデ
ツルナ	ツルナ
ツルニンジン	キキョウ
ツルボ	ユリ
ツルマサキ	ニシキギ
ツルマンネングサ	ベンケイソウ
ツワブキ	キク

テ

テイカカズラ	キョウチクトウ
テリハノイバラ	バラ

ト

トウオオバコ	オオバコ
トウゲシバ	ヒカゲノカズラ

トウゴクシダ	イノモトソウ
トウゴクミツバツツジ	ツツジ
トウダイグサ	トウダイグサ
トウバナ	シソ
トキワハゼ	ゴマノハグサ
ドクウツギ	
(イチロベゴロシ)	ドクウツギ
ドクダミ	ドクダミ
トコロ	ヤマノイモ
ドジョウツナギ	イネ
トダシバ	イネ
トネアザミ	キク
トペラ	トペラ
トボシガラ	イネ
トラノオシダ	チャセンシダ

ナ

ナガバギシギシ	タデ
ナガハグサ	イネ
ナガバコウヤボウキ	キク
ナガバノイタチシダ	イノモトソウ
ナガバモミジイチゴ	バラ
ナギ. (裁)	マキ
ナギナタガヤ	イネ
ナギナタコウジュ	シソ
ナギラン	ラン
ナキリスゲ	カヤツリグサ
ナズナ	アブラナ
ナチシケンダ	オンダ
ナツツタ	ブドウ
ナツトウダイ	トウダイグサ
ナツノタムラソウ	シソ
ナツボウズ(オニシバリ)	ジンチョウゲ
ナライシダ	イノモトソウ

ナルコビエ	イネ
ナルコユリ	ユリ
ナワシロイチゴ	バラ
ナンジャモンジャノキ	ホルトノキ
(ホルトノキ)	
ナンテン	メギ
ナンテンハギ	マメ
ナンパンギセル	ハマウツボ

ニ

ニオイタチツボスミレ	スミレ
ニガカシュウ	ヤマノイモ
ニガキ	ニガキ
ニガナ	キク
ニシキギ	ニシキギ
ニシキシダ	イノモトソウ
ニシキソウ	トウダイグサ
ニリンソウ	キンポウゲ
ニワゼキシュウ	アヤメ
ニワトコ	スイカズラ
ニワホコリ	イネ

ヌ

ヌカキビ	イネ
ヌカボシソウ	イグサ
ヌスビトハギ	マメ
ヌマダイコン	キク
ヌルデ	ウルシ

ネ

ネコノメソウ	ユキノシタ
ネコハギ	マメ

ネジバナ
ネズミガヤ
ネズミノオ
ネズミムギ
ネナシカズラ
ネムノキ

ラン
イネ
イネ
イネ
ヒルガオ
マメ

ハキダメギク
ハコネウツギ
ハコネシダ(ハコネソウ)
ハコベ(コハコベ)
ハシゴシダ
ハゼノキ
ハダカホオズキ
ハタザオ

キク
スイカズラ
イノモトソウ
ナデシコ
イノモトソウ
ウルシ
ナス
アブラナ

ノ

ノアザミ
ノアズキ
ノイバラ
ノガリヤス
ノカンゾウ
ノキシノブ
ノゲシ
ノコギリシダ
ノコンギク
ノササゲ
ノハカタガラクサ
ノビル
ノブキ
ノブドウ
ノボロギク
ノミノツヅリ
ノミノフスマ

キク
マメ
バラ
イネ
ユリ
ウラボシ
キク
オンダ
キク
マメ
ツユクサ
ユリ
キク
ブドウ
キク
ナデシコ
ナデシコ

ハチジヨウススキ
ハチジヨウベニシダ
ハナイカダ
ハナイバナ
ハナクサキビ
ハナビゼキシヨウ
ハハコグサ
ハマアカザ
ハマエノコロ
ハマエンドウ
ハマカンゾウ
ハマスゲ(コウブシ)
ハマダイコン
ハマツメクサ
ハマヒルガオ
ハマボウフウ
ハマホッス
ハリガネワラビ
ハルジヨオン

イネ
イノモトソウ
ミズキ
ムラサキ
イネ
イグサ
キク
アカザ
イネ
マメ
ユリ
カヤツリグサ
アブラナ
ナデシコ
ヒルガオ
セリ
サクラソウ
イノモトソウ
キク

ハ

バアソブ
ハイビユ
ハイホラゴケ
ハイメドハギ
ハエドクソウ
ハカタシダ

キキヨウ
ヒユ
コケシノブ
マメ
ハエドクソウ
オンダ

ヒ

ヒイラギ

モクセイ

へ

ヘクソカズラ

(サオトメカズラ) アカネ

ペニシダ イノモトソウ

ペニバナボロギク キク

ヘビイチゴ バラ

ヘビノネゴザ イノモトソウ

ヘラオオバコ オオバコ

ヘラシダ オシダ

ホ

ホウキギク キク

ホウチャクソウ ユリ

ホウピンダ チャセンシダ

ボウムギ イネ

ホウライシダ イノモトソウ

ホウコグサ(ハハコグサ) キク

ホコガタアカザ アカザ

ホシダ イノモトソウ

ホソアオゲイトウ ヒユ

ホソバシケンシダ オシダ

ホソバアカザ アカザ

ホソバカナワラビ オシダ

ホソバハマアカザ アカザ

ホソバヒカゲスゲ カヤツリグサ

ホソムギ イネ

ホタルカズラ ムラサキ

ホタルブクロ キキョウ

ボタンズル キンボウゲ

ホトケノザ シソ

ホトトギス ユリ

ホナガイヌビユ ヒユ

ホラシノブ イノモトソウ

ホルトノキ(モガシ・ナンジャモンジャノキ)

ホルトノキ

ボントクタデ タデ

ホンモンジスゲ カヤツリグサ

マ

マサキ ニシキギ

マスクサ イネ

マツカゼソウ ミカン

マツザカシダ イノモトソウ

マツバイ カヤツリグサ

マツバゼリ セリ

マツヨイグサ アカネ

マテバシイ ブナ

マネキグサ シソ

ママコノシリヌグイ タデ

マムシグサ サトイモ

マメグンバイナズナ アブラナ

マメズタ ウラボシ

マユミ ニシキギ

マルバウツギ ユキノシタ

マルバグミ グミ

マルバシャリンバイ バラ

マルバヌスビトハギ マメ

マンリョウ ヤブコウジ

ミ

ミウライノデ オシダ

ミサキカグマ イノモトソウ

ミズ(ミズナ) イラクサ

ミズキ ミズキ

ミズタマソウ アカバナ

ミズヒキ タデ

ミゾイチゴツナギ
ミゾシダ
ミゾソバ
ミゾホオズキ
ミチヤナギ
ミツデウラボシ
ミツデカエデ（裁）
ミツバ
ミツバアケビ
ミツバペンケイソウ
ミドリヒメワラビ
ミノゴメ
ミミナグサ
ミヤコグサ
ミヤマウコギ
ミヤマウズラ
ミョウガ

イネ
イノモトソウ
タデ
ゴマノハグサ
タデ
ウラボシ
カエデ
セリ
アケビ
ペンケイソウ
イノモトソウ
イネ
ナデシコ
マメ
ウコギ
ラン
ショウガ

メダケ（裁）
メダラ
メドハギ
メナモミ
メハジキ
メヒシバ
メマツヨイグサ
メヤブソテツ

イネ
ウコギ
マメ
キク
シソ
イネ
アカバナ
オシダ

モ

モガシ（ホルトノキ）
モジスリ
モチノキ
モミ
モミジイチゴ
モミジガサ

ホルトノキ
ラン
モチノキ
マツ
バラ
キク

ム

ムカゴネコノメソウ
ムギクサ
ムクノキ
ムツオレグサ
ムラサキカタバミ
ムラサキケマン
ムラサキサギゴケ
ムラサキシキブ
ムラサキツメクサ

ユキノシタ
イネ
ニレ
イネ
カタバミ
ケシ
ゴマノハグサ
クマツヅラ
マメ

メ

メガルガヤ
メギ
メキシコマンネングサ

イネ
メギ
ペンケイソウ

ヤ

ヤイトバナ（ヘクソカズラ）
ヤエムグラ
ヤクシソウ
ヤシャブシ
ヤダケ
ヤツデ
ヤドリギ
ヤナギタデ
ヤナギハナガサ
ヤハズソウ
ヤブカラシ
ヤブカンゾウ
ヤブコウジ
ヤブジラミ
ヤブソテツ

アカネ
アカネ
キク
カバノキ
イネ
ウコギ
ヤドリギ
タデ
クマツヅラ
マメ
ブドウ
ユリ
ヤブコウジ
セリ
オシダ

ヤブタバコ	キク	ユ	
ヤブタビラコ	キク		
ヤブツバキ	ツバキ	ユウガギク	キク
ヤブデマリ	スイカズラ	ユキノシタ	ユキノシタ
ヤブマオ	イラクサ	ユキヨモギ	キク
ヤブニッケイ	クスノキ	ユリワサビ	アブラナ
ヤブニンジン	セリ		
ヤブヘビイチゴ	バラ	ヨ	
ヤブマメ	マメ		
ヤブミョウガ	ツルクサ	ヨウシュヤマゴボウ	
ヤブラン	ユリ	(アメリカヤマゴボウ)	ヤマゴボウ
ヤブレガサ	キク	ヨシ (アシ)	イネ
ヤマアワ	イネ	ヨツバムグラ	アカネ
ヤマイヌワラビ	イノモトソウ	ヨメナ	キク
ヤマウコギ	ウコギ	ヨモギ	キク
ヤマカモジグサ	イネ		
ヤマグワ	クワ	ラ	
ヤマゴボウ	ヤマゴボウ		
ヤマザクラ	バラ	ラセイタソウ	イラクサ
ヤマジノホトトギス	ユリ		
ヤマシロギク	キク	リ	
ヤマスズメノヒエ	イネ		
ヤマツツジ	ツツジ	リュウノウギク	キク
ヤマトリカブト	キンポウゲ	リュウノヒゲ	ユリ
ヤマヌカボ	イネ	リュウメンシダ	イノモトソウ
ヤマノイモ	ヤマノイモ	リンドウ	リンドウ
ヤマハッカ	シソ		
ヤマブキ	バラ	ワ	
ヤマホタルブクロ	キキョウ		
ヤマホトトギス	ユリ	ワジュロ (シュロ)	ヤシ
ヤマヤブソテツ	オンダ	ワラビ	イノモトソウ
ヤマラッキョウ	ユリ	ワレモコウ	バラ
ヤマユリ	ユリ		
ヤワラシダ	イノモトソウ		
ヤワラスゲ	カヤツリグサ		

逗子市植物目録

FROLA ZUSHIENSIS

栽 は栽植品

文 は文献上のもの

裸 子 植 物 GYMNOSPERMAE

ソ テ ツ 科 CYCADACEAE

和 名
ソ テ ツ **Cycas revoluta** Thunb. 栽

イ チ ヨ ウ 科 GINKGOACEAE

イ チ ヨ ウ **Ginkgo biloba** Linn. 栽

イ チ イ 科 TAXACEAE

カ ヤ **Torreya nucifera** (Linn.) Sieb. et Zucc.

マ キ 科 PODOCARPACEAE

イ ス マ キ **Podocarpus macrophyllus** (Thunb.) Lamb. 栽
ナ ギ **P. Nagi** (Thunb.) 栽

イ ス ガ ヤ 科 CEPHALOTAXACEAE

イ ス ガ ヤ **Cephalotaxus harringtonia** (Knight.) K. Koch.

マ ツ 科 PINACEAE

モ ミ **Abies firma** Sieb. et Zucc.
ア カ マ ツ **Pinus densiflora** Sieb. et Zucc.
ク ロ マ ツ **P. thunbergii** Parlat.

ス ギ 科

ス ギ **Cryptomeria japonica** (Linn. fil.) D. Don. 栽

ヒ ノ キ 科 CUPRESSACEAE

ア ス ナ ロ **Thuopsis dolabrata** (Linn. fil.) Sieb. et Zucc. 栽
ヒ ノ キ **Chamaecyparis obtusa** (Sieb. et Zucc.) Sieb. et Zucc. ap. Endl. 栽

サ ワ ラ

C. **pisifera** (Sieb. et Zucc.) Sieb. et Zucc. ap. Endl.

栽

被子植物 ANGIOSPERMAE

単子葉植物 MONOCOTYLEDONEAE

ガ マ 科 TYPHACEAE

ガ マ

Typha latifolia Linn.

コ ガ マ

T. orientalis Presl.

イ ネ 科

メ ダ ケ

Arundinacea simonii Riviere

ア ズ マ ネ ザ ケ

A. chino Makino

ヤ ダ ケ

Sasa japonica Makino

ア オ カ モ ジ グ サ

Agropyron racemiferum Koidz.

カ モ ジ グ サ

A. komoji Ohwi

コ ス カ グ サ

Agrostis alba Linn.

ヤ マ ヌ カ ボ

A. clavata Linn.

オ ー ト ム ギ

Avena sativa Linn.

カ ラ ス ム ギ

A. fatua Linn.

オ オ ウ シ ノ ケ グ サ

Arnica sachalinensis A. Grey

コ ブ ナ グ サ

Arthraxon hispidus Makino

ト ダ シ バ

Arundinella hirta C. Tanaka

イ ヌ ム ギ

Bromus catharticus Uahl

キ ツ ネ ガ ヤ

B. pauciflorus Hack.

ヒ ゲ ナ ガ ス ズ メ ノ チ ヤ ヒ キ

B. rigidus Roth

カ ズ ノ コ グ サ

Beckmannia syzigachne Fernald

ヤ マ カ モ ジ グ サ

Brachypodium sylvaticum P. Beauv. var. **miserum** Kitag.

ノ ガ リ ヤ ス

Calamagrostis arundinacea Roth var. **brachytricha** Hack.

ヤ マ ア ワ

C. epigeios Roth

カ ニ ツ リ グ サ

C. fauriei Hack.

ヒメアブラススキ
 ジュズダマ
 チョウセンガリヤス
 オガルガヤ
 ギョウギシバ
 カモガヤ
 メヒシバ
 コメヒシバ
 アキメヒシバ
 アブラススキ
 イヌビエ
 オヒシバ
 ニワホコリ
 カゼクサ
 シナダレスズメガヤ
 ナルコビエ
 トボシガラ
 ナギナタガヤ
 オニウシノケグサ
 ヒロハノウシノケグサ
 ドジョウツナギ
 ムツオレグサ
 チガヤ
 チゴザサ
 サヤスカグサ
 アゼガヤ
 ネズミムギ
 ホソムギ
 オギ
 ハチジョウススキ
 ススキ
 ササガヤ
 アシボソ

Capillipedium parviflorum Steph.
Coix Lacryma-Jabi Linn.
Cleistogenes hackelii Honda
Cymbopogon tortilis Hitchc. var. *goeringii* Honda-Mazz
Cynodon dactylon Pers.
Dactylis glomerata Linn.
Digitaria adscendens Henr
D. timorensis Balansis
D. violascens Kitam.
Eccoilopus cotulifer A. Camus
Echinochloa crus-galli Beauv.
Eleusine indica Gartn.
Eragrostis multicaulis Steud.
E. ferruginea Beauv.
E. curvula Nees
Eriochloa villosa Kunth
Festuca parvigluma Steud.
F. myuros Linn.
F. arundinacea Schreb.
F. elatior Linn.
Glyceria ischyronura Steud.
G. acutiflora Torr.
Imperata cylindrica Beauv. var. *Koenigii* Durand et Schinz
Isachne globosa (Thunb.) O. Kuntze.
Leersia sayanuka Ohwi
Leptochloa chinensis Nees
Lolium multiflorum Lam.
L. perenne Linn.
Miscanthus sacchariflorus (Maxim.) Benth
M. condensatus Hack.
M. sinensis Anderss
Microstegium japonicum Steud.
M. vimineum A. Camus var. *polystachyum* Ohwi

ネ ズ ミ ガ ヤ
 キダチノネズミガヤ
 チ チ ミ ザ サ
 コ チ ゼ ミ ザ サ
 ス カ キ ビ
 オ オ ク サ キ ビ
 ハ ナ ク サ キ ビ
 ス ズ メ ノ ヒ エ
 シマズズメノヒエ
 タチズズメノヒエ
 チ カ ラ シ バ
 ク サ ヨ シ
 カナリークサヨシ
 ヨ シ
 ナ ガ ハ グ サ
 スズメノカタビラ
 ミゾイチゴツナギ
 オオイチゴツナギ
 ヒ キ ガ エ リ
 メ カ ル ガ ヤ
 エ ノ コ ロ グ サ
 キ ン エ ノ コ ロ
 アキノエノコログサ
 イ ス ア ワ
 オ オ エ ノ コ ロ
 セイバンモロコシ
 ヒ メ モ ロ コ シ
 オオアブラススキ
 ネ ズ ミ ノ オ
 スズメノテッポウ
 シ バ
 オ ニ シ バ

Muhlenbergia japonica Steud.
M. ramosa Makino
Oplismenus undulatifolius Roem. et Schult
O. undulatifolius Roem. et Schult. var. **japonicus** Koidz.
Panicum bisulcatum Thunb.
P. dichotomiflor Michrx.
P. capillre Linn.
Paspalum dilatatum Poir.
P. thunbergii Kunth
P. urvillei Steud.
Pennisetum alopecuroides Spreng.
Phalaris arundinacea Linn.
P. canariensis Linn.
Phragmites australis Trin.
Poa pratensis Linn.
P. annua Linn.
P. acroleuca Steud.
P. nipponica Koidz.
Polypogon fugax Steud.
Themeda japonica C. Tanaka
Setaria viridis Beauv.
S. glanca Beauv.
S. faberi Herrm.
S. chondrachne Honda
Setaria × **pycnocoma** Henrard
Sorghum halepense Pers.
S. halepense Pers. forma **muticum** Hubb.
Spodiopogon sibiricus Trin.
Sporobolus fertilis W. D. Clayton
Uandallia anagallis Yamazaki var. **verbenaefolia** Yamazaki
Goisia japonica Steud.
G. macrostachya Kitam.

ホンモンジスゲ
 ジュズスゲ
 ヤワラスゲ
 ヒカゲスゲ
 ホソバヒカゲスゲ
 マスクサ
 タカネマスクサ
 カサスゲ
 ヒゴクサ
 エナシヒコグサ
 ヒメカンスゲ
 ナキリスゲ
 センダイスゲ
 カヤツリグサ
 コゴメカヤツリ
 アゼガヤツリ
 タマガヤツリ
 ハマスゲ
 アブラガヤ
 ヒデリコ
 イソヤマテンツキ
 ヒメクグ
 マツバイ
 フトイ
 シマスズメノヒエ
 タチスズメノヒエ

シ ュ ロ

カラスビシャク
 (ハング)

カヤツリグサ科 CYPERACEAE

- Carex pisiformis** Boott
C. ischonostachya Steud.
C. transuersa Boott
C. lenceolata Boott
C. nanella Ohwi
C. gibba Wshlenb.
C. plata Fr. et Sav.
C. dispolata Boott
C. japonica Thunb.
C. aphanolepis Fr. et Sav.
C. conica Boott
C. lenta D. Don
C. lenta D. Don var. **sendaica** T.Koyama
Cyperus microiria Steud.
C. iria Linn.
C. globosus All.
C. difformis Linn.
C. rotundus Linn.
C. wichurae Bochl.
Fimbristylis miliacea Vahl.
F. rieboldii Miq.
Kyllinga gracillima Miq.
Eleocharis yokoscensis Tang et Wang
Scirpus tabernaemontani Gmel.
Paspalum dilatatum Poir.
P. urvillei Steud.

ヤシ科 PALMAE

Trachycarpus fortunei (Hook.) H. Wendl.

サトイモ科 ARACEAE

Pinellia ternata (Thunb.) Breitenb.

ウ ラ シ マ ソ ウ
ムラサキマムシグサ
セ キ シ ョ ウ

Arisaema urashima Hara
A. serratum (Thunb.) Schott
Acrous gramineus Soland.

ヤ ブ ミ ョ ウ ガ
ツ ユ ク サ
ノハカタカラクサ

ツ ユ ク サ 科 COMMELINACEAE

Pollia japonica Thunb.
Commelina communis Linn.
Tradescantia flumiensis Vell.

ス ズ メ ノ ヤ リ
(スズメノヒエ)
ヌ カ ボ シ ソ ウ
ヤマスズメノヒエ
ク サ イ
イ
ハナビゼキショウ
コウガイゼキショウ

イ グ サ 科
Luzula capitata (Miq.) Miq., ap. Komar

L. plumosa Nakai
L. multiflora Lejeune
Juncus tenuis Willd.
J. effusus Linn.
J. alatus Franch. et Savat.
J. leschenaultii Gay

ホ ト ト ギ ス
ヤマジノホトトギス
ヤマホトトギス
イワギボウシ
キヨスミギボウシ
ハマカンゾウ
ノカンゾウ
ヤブカンゾウ
ノ ビ ル
ヤマラッキョウ
ウ バ ユ リ
スカシユリ
ヤ マ ユ リ

ユ リ 科 LILACEAE

Tricyrtis hirta (Thunb.) Hook.
T. affinis Makino
T. macropoda Miq.
Hosta longipes (Franch. et Savat.) Matsum.
H. kiyosumiensis F. Maekawa
Hemerocallis littorea Makino
H. longituba Miq.
H. fulva (Linn.) Linn. var. **Kwanso** Regel
Allium grayi Regel
A. thunbergii G. Don
Lilium cordatum (Thunb.) Koidz.
L. maculatum Thunb.
L. auratum Lindl.

ツ ル ボ
 ア マ ド コ ロ
 ナ ル コ ユ リ
 ホ ウ チ ャ ク ソ ウ
 チ ゴ ユ リ
 キ チ ジ ョ ウ ソ ウ
 オ モ ト
 ヒ メ ヤ ブ ラ ン
 ヤ ブ ラ ン
 オ オ バ ジ ャ ノ ヒ ゲ
 ジ ャ ノ ヒ ゲ
 シ オ デ
 サ ル ト リ イ バ ラ

Scilla scilloides (Lindl.) Druce

Polygonatum odoratum (Mill.) Druce var. **pluriflorum** (Miq.) Ohwi

P. falcatum A.Gray

Disporum sessile Don

D. smilacinum A.Gray

Reineckea carnea (Andr.) Kunth

Rohdea japonica (Thunb.) Roth

Liriope minor (Maxim) Makino

L. platyphylla Wang et Tang

Ophiopogon plaiscapus Nakai

O. japonicus (Linn. fil.) Ker-Gawl.

Smilax riparia A. DC. var. **ussuriensis** (Regel) Hara et T. Koyama

S. china Linn.

ヒ ガ ン バ ナ
 キ ツ ネ ノ カ ミ ソ リ

ヒ ガ ン バ ナ 科 AMARYLLIDACEAE

Lycoris radiata (L' Herit.) Herb.

L. sanguinea Maxim.

ヤ マ ノ イ モ
 ニ ガ カ シ ユ ウ
 オ ニ ド コ ロ
 (ト コ ロ)
 キ ク バ ド コ ロ

ヤ マ ノ イ モ 科 DIOSCOREACEAE

Dioscorea japonica Thunb.

D. bulbifera Linn.

D. tokoro Makino

D. septemloba Thunb.

シ ヤ ガ
 キ シ ョ ウ ブ
 ヒ オ ウ ギ
 ニ ワ ゼ キ シ ョ ウ
 ヒ メ ヒ オ ウ ギ ズ イ セ ン

ア ヤ メ 科 IRIDACEAE

Iris japonica Thunb.

I. pseudoacorus Linn.

Belomcanda chinensis (Linn.) DC.

Sisyrinchium atlanticum Bickn.

Tritonia crocosmaeflora Lemoine

ミ ョ ウ ガ

シ ョ ウ ガ 科 ZINGIBERACEAE

Zingiber mioga (Thunb.) Roscoe

	ラ シ 科 ORCHIDACEAE
ク マ ガ エ ソ ウ	Cypripedium japonicum Thunb.
ア キ ザ キ ヤ ツ シ ロ ラ ン	Gastrodia confusa Honda et Tuyama
キ シ ラ シ ン	Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume
ギ シ ラ シ ン	C. erecta Thunb.) Blume
サ サ バ ギ ン ラ ン	C. longibracteata Blume
ネ ジ バ ナ	Spiranthes sinensis (Pers.) Ames
(モ ジ ズ リ)	
ミ ヤ マ ウ ズ ラ	Goodyera schlechtendaliana Reichb.
コ ク ラ シ ン	Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.
エ ビ ネ	Calanthe discolor Lindl.
サイ ハイ ラ ン	Cremastra appendiculata (D. Don) Makino
シ ュ ン ラ ン	Cymbidium goeringii (Reichb. fil.) Reichb.
ナ ギ ラ シ ン	C. lancifolium Hook.

被 子 植 物 ANGIOSPERMAE

双 子 葉 植 物 DICOTYLEDONEAE

離 弁 花 類 CHORIPETALAE

	ド ク ダ ミ 科 SAURURACEAE
ハ ン ゲ シ ヨ ウ	Saururus chinensis (Lour.) Baill.
(カ タ シ ロ グ サ)	
ド ク ダ ミ	Hottuynia cordata Thunb.

	コ シ ヨ ウ 科 PIPERACEAE
コ ウ ト ウ カ ズ ラ	Piper kadzura (Chois.) Ohwi

	セ ン リ ヨ ウ 科 CHLORANTHACEAE
ヒ ト リ シ ズ カ	Chloranthus japonicus Sieb.

フ タ リ シ ズ カ

Chloranthus serratus (Thunb.) Roem. et Schult.

シ バ ヤ ナ ギ

ヤ ナ ギ 科 SALICACEAE

Salix japonica Thunb.

ア カ メ ヤ ナ ギ
(マルバヤナギ)

S. chaenomeIoides Kimura

イ ヌ シ デ

カ バ ノ キ 科 BETULACEAE

Carpinus tschonoskii Maxim.

ア カ シ デ

C. laxiflora (Sieb. et Zucc.) Blume.

ク マ シ デ

C. japonica Blume

オオバヤシャブシ

Alnus sieboldiana Matsum.

ハ シ ノ キ

A. japonica (Thunb.) Steud.

ア カ ガ シ

ブ ナ 科 FAGACEAE

Quercus acta Thunb.

シ ラ カ シ

Q. myrsinaefolia Blume

ア ラ カ シ

Q. glauca Thunb.

ウ ラ ジ ロ ガ シ

Q. salicina Blume

コ ナ ラ
(ハハツ、ナ ラ)

Q. serrata Thunb.

ク ヌ ギ

Q. acutissima Carruth.

ク リ

Castanea crenata Sieb. et Zucc.

マ テ バ シ イ

Pasania edulis Makino

ス ダ ジ イ

P. edulis Makino var. **sieboldii** (Makino) Nakai

ケ ヤ キ

ニ レ 科 ULMACEAE

Zelkova serrata (Thunb.) Makino

エ ノ キ

Celtis sinensis Pers. var. **japonica** (Planch.) Nakai

ム ク ノ キ

Aphananthe aspera (Thunb.) Planch.

ク ワ ク サ

ク ワ 科 MORACEAE

Fatoua villosa (Thunb.) Nakai

ヤ マ グ ワ

Morus bombycis Koidz.

コ ウ ソ
イ タ ビ カ ズ ラ
ヒ メ イ タ ビ
イ ヌ ビ ワ
カ ナ ム グ ラ

Broussonetia kazinoki Sieb.

Ficus nipponica Franch. et Savat.

F. stipulata Thunberg

F. erecta Thunberg

Humulus japonicus Sieb. et Zucc.

イ ラ ク サ
ア オ ミ ズ
ミ ズ
ウ ワ バ ミ ソ ウ
カ ラ ム シ
コ ア カ ソ
ラ セ イ タ ソ ウ
オ ニ ヤ ブ マ オ
ヤ ブ マ オ

イ ラ ク サ 科 URTICACEAE

Urtica thunbergiana Sieb. et Zucc.

Pilea mongolica Weddell

P. hamaoi Makino

Elatostema umbellatum var. **majus** Maxim.

Boehmeria nippononivea koidz.

B. spicata (Thunb.) Thunb.

B. biloba Wedd.

B. holosericea Blume

B. longispica Steud.

ヤ ド リ ギ
ヒ ノ キ バ ヤ ド リ ギ

ヤ ド リ ギ 科 LORANTHACEAE

Viscum album Linn. var. **coloratum** (Komar.) Ohwi

Korthalsella japonica (Thunb.) Engler

カ シ ア オ イ
オ オ バ ウ マ ノ ス ズ ク サ

ウ マ ノ ス ズ ク サ 科 ARISTOLOCHIACEAE

Asarum kooyanum Makino var. **nipponicum** (F. Maekawa) Kitam.

Aristolochia kaempferi Willd.

イ シ ミ カ ワ
ヒ メ ス イ バ
ス イ バ
ナ ガ バ ギ シ ギ シ
ギ シ ギ シ
エ ゾ ノ ギ シ ギ シ
ア レ チ ギ シ ギ シ

タ デ 科 POLYGONACEAE

Chylocalyx perfoliatus Hassk. var. **perfoliatus** Hassk.

Rumex acetosella Linn.

R. acetosa Linn.

R. crispus Linn.

R. japonicus Houtt.

R. obtusifolius Linn.

R. conglomeratus Murr.

ミ ズ ヒ キ
 シ シ ミ ズ ヒ キ
 ア キ ノ ミ チ ヤ ナ ギ
 (ハ マ ミ チ ヤ ナ ギ)
 ミ チ ヤ ナ ギ
 マ マ コ ノ シ リ ヌ グ イ
 ミ ズ ソ バ
 ウ ナ ギ ツ カ ミ
 オ オ ケ タ デ
 イ ヌ タ デ
 シ ロ バ ナ サ ク ラ タ デ
 サ ク ラ タ デ
 ヤ ナ ギ タ デ
 ポ ン ト ク タ デ
 ツ ル ド ク ダ ミ
 イ タ ド リ

Polygonum filiforme Thunb.

- P. **filiforme** Thunb. var. **neo-filiforme** (Nakai) Ohwi
 P. **polyneuron** Franch. et Savat.
 P. **aviculare** Linn.
 P. **senticosum** (Meisner) Franch. et Savat.
 P. **thunbergii** Sieb. et Zucc.
 P. **sieboldii** Meisn.
 P. **orientale** Linn.
 P. **longisetum** De Bruyn
 P. **japonicum** Meisn.
 P. **conspicuum** (Nakai) Nakai
 P. **hydropiper** Linn.
 P. **pubescens** Blume
 P. **multiflorum** Thunb.
 P. **cuspidatum** Sieb. et Zucc.

シ ロ ア カ ザ
 (シ ロ ザ)
 コ ア カ ザ
 ア カ ザ
 ウ ラ ジ ロ ア カ ザ
 ケ ア リ タ ソ ウ
 ハ マ ア カ ザ
 ホ コ ガ タ ア カ ザ
 ホ ソ バ ハ マ ア カ ザ

ア カ ザ 科 CHENOPODIACEAE

Chenopodium album Linn.

- C. **ficifolium** Smith.
 C. **album** Linn. var. **centrorubrum** Makino
 C. **glaucum** Linn.
 C. **ambrosioides** Linn.
Atriplex subcordata Kitagawa
 A. **hastata** Linn.
 A. **gmelinii** C. A. Mey.

ホ ソ ア オ ゲ イ ト ウ
 ア オ ビ ユ
 (ホ ナ ガ イ ス ビ ユ)
 ハ ・ イ ビ ユ
 イ ヌ ビ ユ

ヒ ユ 科 AMARANTHACEAE

Amaranthus patulus Bertoloni

- A. **viridis** Linn.
 A. **deflexus** Linn.
 A. **lividus** Linn.

ヒカゲイノコズチ
(イノコズチ)

ヒナタイノコズチ

Achyranthes japonica (Miq.) Nakai

A. fauriei Lev. et Van.

ヤマゴボウ科 PHYTOLACCACEAE

ヤマゴボウ

Phytolacca esculenta Van Houtte

ヨウシュヤマゴボウ

P. americana Linn.

ツルナ科 AIZOACEAE

ツルナ

Tetragonia tetragonoides (Pall.) O. Kuntze

ザクロソウ

Mollugo pentaphylla Linn.

スベリヒユ科 PORTULACACEAE

スベリヒユ

Portulaca oleracea Linn.

ヒメマツバボタン

P. pilosa Linn.

ザクロソウ科 AIZOACEAE

クルマバザクロソウ

Mollugo verticillata Linn.

ナデシコ科 CARYOPHYLLACEAE

ツメクサ

Sagina japonica (Sw.) Ohwi

ハマツメクサ

S. maxima A. Gray

ノミノツヅリ

Arenaria serpyllifolia Linn.

オヤンダミミナグサ

Cerastium glomeratum Thuill.

ミミナグサ

C. holosteoides var. **hallaisanense** (Nakai) Mizushima

ウシハコベ

Stellaria aquatica (Linn.) Scop.

サワハコベ
(ツルハコベ)

S. diversiflora Maxim.

コハコベ
(ハコベ)

S. media (Linn.) Villars

ノミノフスマ

S. alsine Grimm var. **undulata** (Thunb.) Ohwi

カワラナデシコ

Dianthus superbus Linn. **S. P. longicalyeinus** Kitam.

フジナデシコ
(ハマナデシコ)

D. japonicus Thunb.

ク サ ボ タ ン
ハ ン シ ョ ウ ツ ル
ボ タ ン ツ ル
セ ン ニ ン ソ ウ
ス ハ マ ソ ウ

ニ リ ン ソ ウ
タ ガ ラ シ
ウ マ ノ ア シ ガ タ
(キ ン ポ ウ ゲ)
キ ツ ネ ノ ボ タ ン
ア キ カ ラ マ ツ
ヒ メ ウ ズ
ヤ マ ト リ カ ブ
サ ラ シ ナ シ ョ ウ マ
イ ヌ シ ョ ウ マ
キ ケ ン シ ョ ウ マ

ア ケ ビ
ミ ツ バ ア ケ ビ
ブ ヨ ウ ア ケ ビ

メ ギ
ナ ン テ ン
イ カ リ ソ ウ

ツ ツ ラ フ ジ
(オ オ ツ ツ ラ フ ジ)

キ ン ポ ウ ゲ 科 RANUNCULACEAE

Clematis stans Sieb. et Zucc.

C. japonica Thunb.

C. apiifolia DC.

C. terniflora DC.

Anemone hepatica Linn. var. **japonica** (Nakai) Ohwi forma **variegata** (Makino) Hara

A. flaccida Fr. Schm.

Ranunculus sceleratus Linn.

R. japonicus Thunb.

R. quelpaertensis (Leveille) Nakai

Thalictrum minus Linn. var. **hypoleucum** (Sieb. et Zucc.) Miq.

Aquilegia adoxoides (DC.) Ohwi

Aconitum japonicum Thunb. var. **montanum** Nakai

Cimicifuga simplex Wormsk.

C. japonica (Thunb.) Sprengel

C. acerina (Sieb. et Zucc.) C. Tanaka var. **peltata** (Makino) Hara

ア ケ ビ 科 LARDIZABALACEAE

Akebia quinata (Thunb.) Decaisne

A. trifoliata (Thunb.) Koidz.

A. pentaphylla Makino

メ ギ 科 BERBERIDACEAE

Berberis thunbergii DC.

Nandina domestica Thunb.

Epimedium grandiflorum Morr. var. **thunbergianum** (Miq) Nakai

ツ ツ ラ フ ジ 科 MENISPERMACEAE

Sinomenium acutum (Thunb.) Rehd. et Wils.

オ オツヅラフジ

Cocculus trilobus (Thunb.) DC.

サ ネ カ ズ ラ
(ビナンカズラ)

モ ク レ シ 科 MAGNOLIACEAE

Kadsura japonica (Thunb.) Dunal

ク ス ノ キ
ヤ ブ ニ ッ ケ イ
タ ブ ノ キ
(イヌグス)

ク ス ノ キ 科 LAURACEAE

Cinnamomum camphora (Linn.) Siebold

C. japonicum Siebold, ex Nakai

Machilus thunbergii Sieb. et Zucc.

ク ロ モ ジ
ア ブ ラ チ ャ ン
シ ロ ダ モ

Lindera umbellata Thunb.

Parabenzoin praecox (Sieb. et Zucc.) Nakai

Neolitsea sericea (Blume) Koidz.

ク サ ノ オ ウ
タ ケ ニ グ サ
(チャンパギク)
ム ラ サ キ ケ マ ン
キ ケ マ ン

ケ シ 科 PAPAVERACEAE

Chelidonium majus Linn. var. **asiaticum** (Hara) Ohwi

Macleaya cordata (Willd.) R. Br.

Colydalis incisa (Thunb.) Pers.

C. ophiocarpa Hook. et Thoms.

ハ マ ダ イ コ ン

ア ブ ラ ナ 科 CRUCIFERAE

Raphanus sativs Linn. var. **hortensis** Backer forma *raphanistroides*
Makino

カ ラ ク サ ナ ズ ナ
マ メ グ ン バ イ ナ ズ ナ
グ ン バ イ ナ ズ ナ
ジャ ニ ン ジ ン
タ ネ ッ ケ バ ナ
ユ リ ワ サ ビ
オ ラ ン ダ ガ ラ シ
イ ヌ ガ ラ シ
シ ョ カ ッ サ イ
セ イ ヨ ウ カ ラ シ ナ

Coronopus didymus (L.) Smith.

Rapidum virginicum Linn.

Thlaspi arvense Linn.

Cardamine impatiens Linn.

C. flexuosa With.

Wasabia tenuis (Miq.) Matsum.

Nasturtium officinale R. Br.

Rorippa indica (Linn.) Hochr.

Orychophragmus violaceus O. E. Schulz.

Brassica juncea (L.) Czern.

スカシタゴボウ
ナ ズ ナ
ハ タ ザ オ

Rorippa islandica (Oeder) Borbàs
Capsella bursa-pastoris (Linn.) Medic.
Arabis glabra (Linn.) Bernh.

ベンケイソウ科 CRASSULACEAE

ミツバベンケイソウ
タイトゴメ
コモチマンネングサ
メキシコマンネングサ
ツルマンネングサ

Sedum verticillatum Linn.
S. oryzifolium Makino
S. bulbiferum Makino
S. maxicanum Britt.
S. sarmentosum Bunge.

ユキノシタ科 SAXIFRAGACEAE

ユキノシタ
ムカゴネコノメ
(タマネコノメ)
イワボタン
ネコノメソウ
(ミズネコノメソウ)
タマアジサイ
ガクアジサイ
サワアジサイ
(ヤマアジサイ)
ウ ツ ギ
ヒ メ ウ ツ ギ
マルバウツギ

Saxifraga stolonifera Curtis
Chrysosplenium maximowiczii Franch. et Savat.
C. macrostemon Maxim.
C. grayanum Maxim.
Hydrangea involucrata Siebold
H. macrophylla (Thunb.) forma **normalis** (Wilson) Hara
H. macrophylla S. P. **serrata** Makino
Deutzia crenata Sieb. et Zucc.
D. gracilis Sieb. et Zucc.
D. scabra Thunb.

トベラ科 PITTOSPORACEAE

トベラ

Pittosporum tobira (Thunb.) Ait.

バラ科 ROSACEAE

コゴメウツギ
シモツケ
ヤマブキ
ヘビイチゴ

Stephanandra incisa (Thunb.) Zabel
Spiraea japonica Linn. fil.
Kerria japonica (Linn.) DC.
Duchesnea chrysantha (Zoll. et Mor.) Miq.

ヤブヘビイチゴ
 ダイコンソウ
 フユイチゴ
 カジイチゴ
 ナガバモミジイチゴ
 モミジイチゴ
 ナワシロイチゴ
 ワレモコウ
 キンミズヒキ
 イイバラ
 テリハノイバラ
 ヤマザクラ
 オオシマザクラ
 イヌザクラ
 (シロザクラ)
 マルバシャリンバイ
 クサボケ
 (シドミ、ノボケ、コボケ)
 カマツカ
 (ウシコロシ)

ネムノキ
 ジャケツイバラ
 カワラケツメイ
 クララ
 キハギ
 メドハギ
 ハイメドハギ

ネコハギ
 ヤハズソウ
 フジカンゾウ
 ヌスビトハギ

Duchesnea indica (Andr.) Focke

Geum japonicum Thunb.

Rubus buergeri Miquel

R. trifidus Thunb.

R. palmatus Thunb.

R. palmatus Thunb. var. **coptophyllus** (A. Gray) Koidz.

R. parvifolius Linn.

Sanguisorba officinalis Linn.

Agrimonia pilosa Ledeb.

Rosa multiflora Thunb.

R. wichuraiana Cre'p.

Prunus jamasakura Sieb., ex Koidz.

P. lannesiana (Carr.) Wilson var. **speciosa** (Koidz.) Makino

P. buergeriana Miq.

Rhaphiolepis umbellata (Thunb.) Makino

Chaenomeles japonica (Thunb.) Lindl.

Pourthiaea villosa (Thunb.) Decne.

マ メ 科 LEGUMINOSAE

Albizia julibrissin Durazz.

Caesalpinia japonica Sieb. et Zucc.

Cassia nomame (Sieb.) Honda

Sophora flavescens Aiton

Lespedeza buergeri Miq.

L. cuneata (Du Mont. d. Cours.) G. Don

L. cuneata (Du Mont. d. Cours.) G. Don var. **serpens** (Nakai)

Ohwi

L. pilosa (Thunb.) Sieb. et Zucc.

Kummerovia striata (Thunb.) Schindler

Desmodium oldhamii Oliver

D. oxyphyllum DC.

マルバヌスビトハギ

カラスノエンドウ

カ ス マ グ サ

スズメノエンドウ

ヒロハクサフジ

ナンテンハギ

ハマエンドウ

ノ ア ズ キ
(ヒ メ ク ズ)

ノ サ サ ゲ

ク ズ

ヤ ブ マ メ

コ マ ツ ナ ギ

フ ジ

ミ ヤ コ グ サ

ムラサキツメクサ
(アカツメクサ)

シ ロ ツ メ ク サ
(オランダゲンゲ)

ウ マ ゴ ヤ シ

コマツブウヤゴヤシ

シ ナ ガ ワ ハ ギ

ゲンノショウコ
(フ ウ ロ ソ ウ)

ムラサキカタバミ

カタ タ バ ミ

エゾタチカタバミ

サ シ シ ヨ ウ

イヌザンショウ

Desmodium podocarpum DC.

Vicia sepium Linn.

V. tetrasperma (Linn.) Schreb.

V. hirsuta (Linn.) S. F. Gray

V. japonica A. Gray

V. unijuga A. Br.

Lathyrus japonicus Willd.

Dunbaria villosa (Thunb.) Makino

Dumasia truncata Sieb. et Zucc.

Pueraria lobata (Willd.) Ohwi

Amphicarpaea edgeworthii Benth. var. **japonica** Oliver

Indigofera pseudo-tinctoria Matsum.

Wisteria floribunda (Willd.) DC.

Lotus corniculatus Linn. var. **japonicus** Regel

Trifolium pratense Linn.

T. repens Linn.

Medicago hispida Gaertn.

M. lupulina Linn.

Melilotus suaveolens Ledeb.

フ ク ロ ソ ウ 科 GERANIACEAE

Geranium thunbergii Sieb. et Zucc.

カ タ バ ミ 科 OXALIDACEAE

Oxalis Martiana Zucc.

O. corniculata Linn.

O. stricta Linn.

ミ カ ン 科 RUTACEAE

Zanthoxylum piperitum (Linn.) DC.

Z. shinifolium Sieb. et Zucc.

カラスザンショウ
コ ク サ ギ
マ ツ カ ゼ ソ ウ

Zanthoxylum ailanthoides Sieb. et Zucc.

Orixa japonica Thunb.

Boenninghausenia japonica Nakai

ニ ガ キ

ニ ガ キ 科 SIMAROUBACEAE

Picrasma quassioides (D. Don) Benn.

ヒ メ ハ ギ

ヒ メ ハ ギ 科 POLYGALACEAE

Polygara japonica Houtt.

ヒ メ ユ ズ リ ハ
コ ミ カ ン ソ ウ
エ ノ キ グ サ
ア カ メ ガ シ ワ
シ ラ キ
ニ シ キ ソ ウ
コ ニ シ キ ソ ウ
オ オ ニ シ キ ソ ウ
ト ウ ダ イ グ サ
タ カ ト ウ ダ イ
(イブキタイゲキ)
ナ ツ ト ウ ダ イ

ト ウ ダ イ グ サ 科 EUPHORBIACEAE

Daphniphyllum teijsmannii Zoll.

Phyllanthus urinaria Linn.

Acalypha australis Linn.

Mallotus japonicus (Thunb.) Muell. Arg.

Sapium japonicum (Sieb. et Zucc.) Pax et Hoffm.

Euphorbia pseudochamaesyce Fisch., Mey., et Lallem.

E. supina Rafin.

E. maculata Linn.

E. helioscopia Linn.

E. pekinensis Rupr.

E. sieboldiana Morr. et Decne.

ド ク ウ ツ ギ

ド ク ウ ツ ギ 科 CORIARIACEAE

Coriaria japonica A. Gray

ツ タ ウ ル シ
ハ ゼ
(リュウキュウハゼ)
ヌ ル デ
(フ シ ノ キ)

ウ ル シ 科 ANACARDIACEAE

Rhus ambigua Lavallée, ex Dippel

R. succedanea Linn.

R. javanica Linn.

イヌツゲ
クロガネモチ
モチノキ

モチノキ科 AQUIFOLIACEAE

Ilex crenata Thunb.

I. rotunda Thunb.

I. integra Thunb.

ツルウメモドキ
ニシキギ
マサキ
ツルマサキ

ニシキギ科 CELASTRACE

Celastrus orbiculatus Thunb.

Euonymus alatus (Thunb.) Sieb.

E. japonicus Thunb.

E. fortunei (Turcz.) Hand.-Mazz. var. **radicans** (Sieb., ex Miq.)
Rehd.

マユミ
ツリバナ
ゴンズイ

E. sieboldianus Blume

E. oxyphyllus Miq.

Euscaphis japonica (Thunb.) Kanitz

イロハモミジ
(タカオカエデ、モミジ)
オオモミジ

カエデ科 ACERACEAE

Acer palmatum Thunb.

A. cissifolium (Sieb. et Zucc.) forma **atropurpureum** (Van. Houtte)
Schwer.

ヤマモミジ
エンコウカエデ
ミツデカエデ

A. palmatum Thunb. var. **matsumurae** (Koidz.)

A. Mono Maxim. **marmoratum** Hara form. **dissectum** Rehder

A. cissifolium (Sieb. et Zucc.) K. Koch

ツリフネソウ

ツリフネソウ科 BALSAMINACEAE

Impatiens textori Miq.

クマヤナギ
ケンポナシ

クロウメモドキ科 RHAMNACEAE

Berchemia racemosa Sieb. et Zucc.

Hovenia dulcis Thunb.

エビヅル

ブドウ科 VITACEAE

Vitis ficifolia Bunge var. **Iobata** (Regel) Nakai

ノ ブ ド ウ
ツ タ
(ナ ツ ヅ タ)
ヤ ブ カ ラ シ

Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv.

Parthenocissus tricuspidata (Sieb. et Zucc.) Planch.

Cayratia japonica (Thunb.) Gagn.

ホ ル ト ノ キ
(モ ガ シ)

ホ ル ト ノ キ 科 ELAEOCARPACEAE

Elaeocarpus sylvestris (Lour.) Poir. var. **ellipticus** (Thunb.) Hara

ゼ ニ バ ア オ イ

ア オ イ 科 MALVACEAE

Malva neglecta Wallr.

サ ル ナ シ
ウラジロマタタビ

マ タ タ ビ 科 ACTINIDIACEAE

Actinidia arguta (Sieb. et Zucc.) Planch., ex Miq.

A. hypoleuca Nakai

ヤ ブ ツ バ キ
ヒ サ カ キ

ツ バ キ 科 THEACEAE

Camellia japonica Linn.

Eurya japonica Thunb.

オ ト ギ リ ソ ウ

オ ト ギ リ ソ ウ 科 GUTTIFERAE

Hypericum erectum Thunb.

ア オ イ ス ミ レ

ス ミ レ 科 VIOLACEAE

Viola hondoensis W. Becker et H. Boiss.

ス ミ レ

V. mandshurica W. Becker

ア ツ バ ス ミ レ

V. mandshurica W. Becker var. **boninensis** (Nakai) Mizushima

ノ ジ ス ミ レ

V. yedoensis Makino

ヒ メ ス ミ レ

V. minor (Makino) Makino

ア カ ネ ス ミ レ

V. Phalacrocarpa Maxim.

コ ス ミ レ

V. japonica Langsd.

タ チ ツ ボ ス ミ レ

V. grypoceras A. Gray

ニ オ イ タ チ ツ ボ ス ミ レ

V. obtusa (Makino) Makino

ツ ボ ス ミ レ

V. verecunda A. Gray

キ ブ シ
エノシマキブシ
(ナンバンキブシ、
ハチジョウキブシ)

キ ブ シ 科 STACHYURACEAE

Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.

S. praecox Sieb. et Zucc. var. **matsuzakii** (Nakai) Makino

オニシバリ
(ナツボウズ)
コガンピ

ジ ン チ ヨ ウ ゲ 科 THYMELAEACEAE

Daphne pseudo-mezereum A. Gray

Wikstroemia ganpi (Sieb. et Zucc.) Maxim.

マルバグミ
ツルグミ

グ ミ 科 ELAEAGNACEAE

Elaeagnus macrophylla Thunb.

E. glabra Thunb.

ウリノキ

ウ リ ノ キ 科 ALANGIACEAE

Alangium platanifolium (Sieb. et Zucc.) Harms var. **trilobum** (Miq.) Ohwi

ミズタマソウ
アカバナ
マツヨイグサ
オオマツヨイグサ
メマツヨイグサ
コマツヨイグサ
ヒルザキツキシミソウ

ア カ バ ナ 科 ONAGRACEAE

Circaea mollis Sieb.

Epilobium Pyrriholophum Franch. et Savat.

Oenothera stricta Ledeb. ex Link

O. erythrosepala Borbas.

O. biennia agg.

O. Laciniata Hill.

O. speciosa Nutt.

タ ラ ノ キ
メ ダ ラ
ウ ド
キ ツ タ
(フ ユ ツ タ)
ヤ ツ デ

ウ コ ギ 科 ARALIACEAE

Aralia elata (Miq.) Seemann

A. elata (Miq.) Seemann var. **subinermis** Ohwi

A. cordata Thunb.

Hedera rhombea (Miq.) Bean

Fatsia japonica (Thunb.) Dence. et Planch.

カ ク レ ミ ノ
ヤ マ ウ コ ギ
オ カ ウ コ ギ
ミ ヤ マ ウ コ ギ
セ ン ノ キ
(ハ リ ギ リ)

Dendropanax trifidus (Thunb.) Makino

Acanthopanax spinosus Miquel

A. japonicus Fr. et Sav.

A. trichoden Fr. et Sav.

Kalopanax pietus (Thunb.) Nakai

セ リ 科 UMBELLIFERAE

チ ド メ グ サ
ツ ボ ク サ
ウ マ ノ ミ ツ バ
ヤ ブ ニ ン ジ ン
ヤ ブ ジ ラ ミ
オ ヤ ブ ジ ラ ミ
ミ ミ バ
セ リ
ハ マ ボ ウ フ ウ
ノ ダ ケ
ア シ タ バ
シ シ ウ ド
マ ツ バ ゼ リ

Hydrocotyle sibthorpioides Lam.

Centella asiatica (Linn.) Urban

Sanicula chinensis Bunge

Osmorhiza aristata (Thunb.) Makino et Yabe

Torilis japonica (Houtt.) DC.

T. scabra (Thunb.) DC.

Cryptotaenia japonica Hassk.

Oenanthe javanica (Blume) DC.

Glehnia littoralis Fr. Schm., ex Miq.

Angelica decursiva (Miq.) Franch.

A. keiskei (Miq.) Koidz.

A. pubescens Maxim.

Apium leptophyllum (Pers.) F. Muell.

ミ ズ キ 科 CORNACEAE

ア オ キ
ハ ナ イ カ ダ
ミ ズ キ
ク マ ノ ミ ズ キ

Aucuba japonica Thunb.

Helwingia japonica (Thunb.) F. G. Dietr.

Cornus controversa Hemsley

C. brachypoda C. A. Mey.

被 子 植 物 ANGIOSPERMAE

双 子 葉 植 物 DICOTYLEDONEAE

合 弁 花 類 GAMOPETALAE

イ チ ヤ ク ソ ウ 科 PYROLACEAE

- イ チ ヤ ク ソ ウ **Pyrola japonica** Klenze
ギンリョウソウモドキ **Monotropa uniflora** Linn.
(アキノギンリョウソウ)

ツ ツ ジ 科 ERICACEAE

- ヤ マ ツ ツ ジ **Rhododendron kaempferi** Planchon
トウゴクミツバツツジ **R. wadanum** Makino

ヤ マ コ ウ ジ 科 MYRSINACEAE

- ヤ ブ コ ウ ジ **Ardisia japonica** (Thunb.) Blume
マ ン リ ヨ ウ **A. crenata** Sims
カ ラ タ チ バ ナ **A. crispa** (Thunb.) DC.
イ ズ セ ン リ ヨ ウ **Maesa japonica** Moritzi

サ ク ラ ソ ウ 科 PRIMULACEAE

- コ ナ ス ビ **Lysimachia japonica** Thunb.
オ カ ト ラ ノ オ **L. clethroides** Duby
ハ マ ボ ッ ス **L. mauritiana** Lam.

エ ゴ ノ キ 科 STYRACACEAE

- エ ゴ ノ キ **Styrax japonica** Sieb. et Zucc.

モ ク セ イ 科 OLEACEAE

- オ オ バ イ ボ タ **Ligustrum ovalifolium** Hassk.
イ ボ タ ノ キ **L. obtusifolium** Sieb. et Zucc.
ヒ イ ラ ギ **Osmanthus heterophyllus** (G. Don) P. S. Green
ア オ ダ モ **Fraxinus lanuginosa** Koidz.
(コバノトネリコ)

フ ジ ウ ツ ギ 科 LOGANIACEAE

- フ ジ ウ ツ ギ **Buddleja japonica** Hemsl.

セ ン ブ リ
フ デ リ ン ド ウ
リ ン ド ウ

リ ン ド ウ 科 GENTIANACEAE

Swertia japonica (Schult.) Makino
Gentiana zollingeri Fawcett.
G. Scabra Bunge var. **buergeri** (Miq.) Maxim.

テ イ カ カ ズ ラ

キ ョ ウ チ ク ト ウ 科 APOCYNACEAE

Trachelospermum asiaticum (Sieb. et Zucc.) Nakai

ガ ガ イ モ
イ ヨ カ ズ ラ
(スズメノオゴケ)
キ ジ ョ ラ ン

ガ ガ イ モ 科 ASCLEPIADACEAE

Metaplexis japonica (Thunb.) Makino
Cynanchum japonicum Morren et Decaisne
Marsdenia tomentosa Morren et Decaisne

ハ マ ヒ ル ガ オ
コ ヒ ル ガ オ
ヒ ル ガ オ
ネ ナ シ カ ズ ラ

ヒ ル ガ オ 科 CONVOLVULACEAE

Calystegia soldanella (Linn.) Roem. et Schult.
C. hederacea Wall.
C. japonica Choisy
Cuscuta japonica Choisy

ハ ナ イ バ ナ
ホ タ ル カ ズ ラ
ヒ レ ハ リ ソ ウ
キ ャ ウ リ グ サ
(タ ビ ラ コ)

ム ラ サ キ 科 BORAGINACEAE

Bothriospermum tenellum (Hornem.) Fisch. et Mey.
Buglossoides zollingeri (DC.) Johnston
Symphytum officinale Linn.
Trigonotis peduncularis (Trevir.) Benth.

ヤ ナ ギ ハ ナ ガ サ
ア レ チ ハ ナ ガ サ
ク マ ツ ズ ラ
ム ラ サ キ シ キ ブ
ク サ ギ

ク マ ツ ズ ラ 科 VERBENACEAE

Verbena bonariensis Linn.
V. brasiliensis Vell.
V. officinalis Linn.
Callicarpa japonica Thunb.
Clerodendrum trichotomum Thunb.

シ	ソ	科	LABIATAE
キ ラ ン ソ ウ (ジゴクノカマノフタ)	Ajuga decumbens Thunb.		
タ ツ ナ ミ ソ ウ	Scutellaria indica Linn.		
コ バ ノ タ ツ ナ ミ (ビロードタツナミ)	S. indica Linn. var. parvifolia (Makino) Makino		
カ キ ド ウ シ	Glechoma hederacea Linn. var. grandis (A.Gray) Kudo		
ウ ツ ボ グ サ	Prunella vulgaris Linn. var. lilacina Nakai		
タニジャコウソウ	Chelonopsis longipes Makino		
メ ハ ジ キ	Leonurus sibiricus Linn.		
ホ ト ケ ノ ザ	Lamium amplexicaule Linn.		
ヒメオドリコソウ	L. purpureum Linn.		
マ ネ キ グ サ (ヤマキセワタ)	L. ambiguum (Makino) Ohwi		
アキノタムラソウ	Salvia japonica Thunb.		
ナツノタムラソウ	S. lutescens Koidz.		
イヌコウジュ	Mosla punctulata (J.F.Gmel.) Nakai		
ク ル マ バ ナ	Clinopodium chinense (Benth.) O.Kuntze var. parviflorum (Kudo) Hara		
ト ウ バ ナ	C. gracile (Benth) O. Kuntze.		
ナギナタコウジュ	Elsholtzia ciliata (Thunb.) Hylander		
フトボノナギナタコウジュ	E. nipponica Ohwi		
ヤ マ ハ ッ カ	Plectranthus inflexus (Thunb.) Vahl, ex Benth.		

ナ	ス	科	SOLANACEAE
センナリホオズキ	Physalis angulata Linn.		
ハダカホオズキ	Tubocapsicum anomalum (Franch. et Savat.) Makino		
ワ ル ナ ス ビ	Solanum carolinense Linn.		
イヌホオズキ	S. nigrum Linn.		
ヒヨドリジョウゴ	S. lyratum Thunb.		
ク	Lycium chinense Miller		

コ	マ	ノ	ハ	グ	サ	科	SCROPHULARIACEAE
ツ	タ	バ	ウ	ン	ラン		Cymbararia muralis Gaertn. Mey.et Scherb.

ムラサキサギゴケ
ト キ ワ ハ ゼ
ビロードモウズイカ
タチイヌノフグリ
オオイヌノフグリ
イヌノフグリ

Mazus miquelii Makino

M. japonicus (Thunb.) O. Kuntze

Verbascum thapsus Linn.

Veronica arvensis Linn.

V. persica Poir.

V. didyma Tenore var. **lilacina** (Hara) Yamazaki

ハ マ ウ ツ ボ 科 OROBANCHACEAE

ナンバンギセル

Aeginetia indica Linn.

イ ワ タ バ コ 科 GESNERIACEAE

ケ イ ワ タ バ コ

Conandron ramondiioides Sieb. et Zucc. forma **pilosum** (Makino)
Ohwi

キ ツ ネ ノ マ ゴ 科 ACANTHACEAE

キ ツ ネ ノ マ ゴ

Justicia procumbens Linn. var. **leucantha** Honda (sens. mut.)

ハ エ ド ク ソ ウ 科 PHRYMACEAE

ハ エ ド ク ソ ウ

Phryma leptostachya Linn. var. **asiatica** Hara

オ オ バ コ 科 PLANTAGINACEAE

オ オ バ コ

Plantago asiatica Linn.

ト ウ オ オ バ コ

P. major Linn. var. **japonica** (Franch. et Savat.) Miyabe

ヘ ラ オ オ バ コ

P. lanceolata Linn.

ア カ ネ 科 RUBIACEAE

ジュ ス ネ ノ キ
ヘ ク ソ カ ズ ラ
(ヤ イ ト バ ナ)

Damnacanthus major Sieb. et Zucc.

Paederia scandens (Lour.) Merrill var. **mairei** (Léveillé) Hara

ア カ ネ

Rubia akane Nakai

ヤ エ ム グ ラ

Galium spurium Linn. var. **echinospermon** (Wallr.) Hayek

ヨ ツ バ ム グ ラ

G. trachyspermum A. Gray

ス イ カ ズ ラ 科 CAPRIFOLIACEAE

ニ ワ ト コ

Sambucus sieboldiana Blume, ex Graebn.

ソ ク ズ
ヤ ブ デ マ リ
ガ マ ズ ミ
コ バ ノ カ マ ズ ミ
ツ ク バ ネ ウ ツ ギ
ハ コ ネ ウ ツ ギ
ス イ カ ズ ラ
ウ グ イ ス カ グ ラ

Sambucus chinensis Lindl.

Viburnum plicatum Thunb. var. **tomentosum** (Thunb.) Miquel

V. dilatatum Thunb.

V. erosum Thunb.

Abelia spathulata Sieb. et Zucc.

Weigela coraensis Thunb.

Lonicera japonica Thunb.

L. gracilipes Miq. var. **glabra** Miq.

オ ミ ナ エ シ 科 VALERIANACEAE

オ ト コ エ シ
ツ ル カ ノ コ ソ ウ

Patrinia villosa (Thunb.) Juss.

Valeriana flaccidissima Maxim.

ウ リ 科 CUCURBITACEAE

ア レ チ ウ リ
キ カ ラ ス ウ リ
カ ラ ス ウ リ
ス ズ メ ウ リ
ア マ チ ヤ ズ ル

Sicyos angulatus Linn.

Trichosanthes kirilowii Maxim. var. **japonica** (Miq.) Kitamura

T. cucumeroides (Ser.) Maxim.

Melothria japonica (Thunb.) Maxim.

Gynostemma pentaphyllum (Thunb.) Makino

キ キ ヨ ウ 科 CAMPANULACEAE

ツ リ ガ ネ ニ ジ ン
ホ タ ル ブ ク ロ
ヤ マ ホ タ ル ブ ク ロ
タ ニ ギ キ ヨ ウ

Adenophora triphylla (Thunb.) A. DC. var. **japonica** (Regel) Hara

Campanula punctata Lam.

C. punctata Lam. var. **hondoensis** (Kitam.) Ohwi

Peracarpa carnosa (Wall) Hook. fil. et Thoms. var. **circaeoides** (Fr. Schm) Makino

Codonopsis lanceolata (Sieb. et Zucc) Trautv.

C. ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

ツ ル ニ ン ジ ン
バ ア ソ ブ

キ ク 科 COMPOSITAE

ハ ハ コ グ サ
タ チ チ チ コ グ サ
チ チ コ グ サ モ ド キ

Gnaphalium affine D. Don

G. purpureum Linn.

G. purpureum Linn. var. **spathulatum** (Lam.) Baker

チ チ コ グ サ

ヤ ブ タ バ コ

ザジガンクビソウ

ガ ン ク ビ ソ ウ

セ ン ボ ン ヤ リ
(ムラサキタンポポ)

コ ウ ヤ ボ ウ キ

ナガバコウヤボウキ

カシワバハグマ

キ ッ コ ウ ハ グ マ

ブ タ ク サ

オ オ ブ タ ク サ

オ ナ モ ミ

オ オ オ ナ モ ミ

ヒ ヨ ド リ バ ナ

ヌ マ ダ イ コ ン

セイタカアワダチソウ

アキノキリンソウ

キ ク イ モ

ハ キ ダ メ ギ ク

ユ ウ ガ ギ ク

ヨ メ ナ

ハ ル ジ オ ン

ヒ メ ジ ョ オ ン

ア レ チ ノ ギ ク

オオアレチノギク

ヒメムカシヨモギ

ケナシヒメムカシヨモギ

シ ラ ヤ マ ギ ク

ホ ウ キ ギ ク

ヒロハホウキギク

ノ コ ン ギ ク

シ ロ ヨ メ ナ

Gnaphalium japonicum Thunb.

Carpesium abrotanoides Linn.

C. glossophyllum Maxim.

C. divaricatum Sieb. et Zucc.

Leibnitzia anandria (Linn.) Nakai

Pertya scandens (Thunb.) Sch. Bip.

P. glabrescens Sch. Bip.

P. robusta (Maxim) Beauverd

Ainsliaea apiculata Sch. Bip.

Ambrosia artemisiifolia Linn. var. **elatior** Linn. Descourtils

A. trifida L.

Xanthium strumarium Linn.

X. canadense Mill.

Eupatorium chinense Linn. var. **simplicifolium** (Makino) Kitam.

Adenostemma lavenia (Linn.) O. Kuntze

Solidago altissima Linn.

S. virga-aurea Linn. var. **asiatica** Nakai

Helianthus tuberosus Linn. lla Fern

Galinsoga ciliata (Raf.) Blake

Kalimeris pinnatifida (Maxim.) Kitam.

K. yomena Kitam.

Erigeron philadelphicus Linn.

E. annuus (Linn.) Pers.

E. bonariensis Linn.

E. sumatrensis Retz.

E. canadensis Linn.

E. pusillus Nutt.

Aster scaber Thunb.

A. subulatus Michx.

A. sp.

A. ageratoides Turcz. var. **ovatus** (Franch. et Savat.) Nakai

A. ageratoides Turcz. var. **harae** (Makino) Kitam. forma **leueauthus**

シ ユ ウ ブ ン ソ ウ	Honda
フ キ	Rhynchospermum verticillatum Reinw. (Franch. et Savat.)
ベ ニ バ ナ ボ ロ ギ ク	Petasites japonicus (Sieb. et Zucc.) Maxim.
ダ ン ド ボ ロ ギ ク	Crassocephalum crepidioides (Benth) S. Moore
ツ ワ ブ キ	Erechtites hieracifolia (Linn.) Raf.
ノ ボ ロ ギ ク	Farfugium japonicum (Linn.) Kitam.
モ ミ ジ ガ サ	Senecio vulgaris Linn.
ヤ ブ レ ガ サ	Cacalia delphiniifolia Sieb. et Zucc.
セ イ ヨ ウ ノ コ ギ リ ソ ウ	Syneilesis palmata (Thunb) Maxim.
イ ソ ギ ク	Achillea millefolium Linn.
リ ユ ウ ノ ウ ギ ク	Chrysanthemum pacificum Nakai
カ ワ ラ ヨ モ ギ	C. makinoi Matsum. et Nakai
ユ キ ヨ モ ギ	Artemisia capillaris Thunb.
ヨ モ ギ	A. momiyamae Kitam.
ノ ブ キ	A. princeps Pampan.
メ ナ モ ミ	Adenocaulon himalaicum Edgew.
タ カ サ ブ ロ ウ	Siegesbeckia pubescens (Makino) Makino
ア メ リ カ セ ン ダ ン グ サ	Eclipta prostrata (Linn.) Linn.
タ ウ コ ギ	Bidens frondosa Linn.
コ セ ン ダ ン グ サ	B. tripartita Linn.
シ ロ ノ セ ン ダ ン グ サ	B. pilosa Linn.
ア メ リ カ セ ン ダ ン グ サ	B. pilosa Linn. . var. minor (Blume) Sherff
オ ケ ラ	B. frondosa Linn.
ノ ア ザ ミ	Atractylodes japonica Koidz, ex Kitam.
イ ガ ア ザ ミ	Cirsium japonicum DC.
タ イ ア ザ ミ	C. nipponicum (Maxim) Makino var. comosum (Fr. et Sav.) Kitam.
キ ツ ネ ア ザ ミ	C. nipponicum (Maxim) Makino var. incomptum (Maxim) Kitam.
タ ム ラ ソ ウ	Hemistepta lyrata Bunge
ヤ ブ タ ビ ラ コ	Serratula coronata Linn. var. insularis (Iljin) Kitam.
ユ オ ニ タ ビ ラ コ	Lapsana humilis (Thunb.) Makino
ブ タ ナ	L. apogonoides Maxim.
コ オ ゾ リ ナ	Hypochoeris radicata Linn.
	Pieris hieracioides Linn. var. glabrescens (Regel) Ohwi

カントウタンポポ
 シロバナタンポポ
 セイヨウタンポポ
 オオジシバリ
 イワニガナ
 (ジシバリ)
 ニガナ
 アキノゲシ
 ノゲシ
 オニゲシ
 ヤクシソウ

Taraxacum platycarpum Dahlst.
T. albidum Dahlst.
T. officinale Weber
Ixeris japonica (Burm.) Nakai
I. stolonifera A. Gray
I. dentata (Thunb.) Nakai
Lactuca indica Linn. var. **laciniata** (O.Kuntze) Hara
Sonchus oleraceus Linn.
S. asper (Linn.) Hill
Youngia denticulata (Houtt) Kitam.

羊 歯 植 物 文 は過去に報告のあったもの

ヒカゲノカズラ科 LYCOPODIACEAE
 トウゲシバ **Lycopodium serratum** Thunb.

イワヒバ科 SELAGINELLACEAE
 タチクラマゴケ **Selaginella nipponica** Fr. et Sav.
 クラマゴケ **S. remotifolia** Spring
 カタヒバ **S. involvens** (Sw.) Spring
 コンテリクラマゴケ **S. uncinata** Spring

トクサ科 EQUISETACEAE
 スギナ **Equisetum arvense** Linn.

ハナワラビ科 BOTRYCHIACEAE
 フユノハナワラビ **Sceptridium ternatum** (Thunb.) Lyon
 オオハナワラビ **S. japonicum** (Prantl) Lyon
 ナツノハナワラビ **Japanobotrychium virginianum** (Linn.) Nishida
 ナガボノナツノハナワラビ **J. strictum** (Und.) Nishida 文

ハナヤスリ科 OPHIOGLOSSACEAE
 コヒロハハナヤスリ **Ophioglossum petiolatum** Hooker

ゼ　　シ　　マ　　イ	ゼ　　シ　　マ　　イ　　科　　OSMUNDACEAE
ゼ　　シ　　マ　　イ	Osmunda japonica Thunb.
フ　　サ　　シ　　ダ	フ　　サ　　シ　　ダ　　科　　SCHIZAEACEAE
カ　　ニ　　ク　　サ	Lygodium japonicum (Thunb.) Sw.
ウ　　ラ　　ジ　　ロ	ウ　　ラ　　ジ　　ロ　　科　　GLEICHENIACEAE
コ　　シ　　ダ	Dicranopteris dichotoma (Thunb.) Bernh.
ウ　　ラ　　ジ　　ロ	Gleichenia japonica Spr.
コ　　ケ　　シ　　ノ　　ブ	コ　　ケ　　シ　　ノ　　ブ　　科　　HYMENOPHYLLACEAE
コ　　ケ　　シ　　ノ　　ブ	Mecodium wrightii (V. d. B.) Copel.　　文
ア　　オ　　ホ　　ラ　　ゴ　　ケ	Crepidomanes makinoi (C. Chr.) Copel. var. tosec (Christ) K.Iwats.
ウ　　チ　　ワ　　ゴ　　ケ	Gonocormus minutus (Bl.) v. d. B.
ハ　　イ　　ホ　　ラ　　ゴ　　ケ	Vandenboschia radicans (Sw.) Copel.
イ　　ノ　　モ　　ト　　ソ　　ウ	イ　　ノ　　モ　　ト　　ソ　　ウ　　科　　PTERIDACEAE
イ　　ヌ　　シ　　ダ	Dennstaedtia hirsuta (Sw.) Mett.
オ　　ウ　　レ　　ン　　シ　　ダ	D. wilfordii (Moore) Koidz.
フ　　モ　　ト　　シ　　ダ	Microlepia marginata (Panzer) C. Chr.
ク　　ジャ　　ク　　フ　　モ　　ト　　シ　　ダ	M. marginata (Panzer) C. Chr. var. bipinnata Makino　　文
フ　　モ　　ト　　カ　　グ　　マ	M. pseudo-strigosa Makino
ケ　　ブ　　カ　　フ　　モ　　ト　　シ　　ダ	M. pseudo-strigosa Makino var. yakusimensis H. Ito
ホ　　ラ　　シ　　ノ　　ブ	Sphenomeris chusana (Linn.) Copel.
イ　　ワ　　ヒ　　メ　　ワ　　ラ　　ビ	Hypolepis punctata (Thunb.) Mett.
ワ　　ラ　　ビ	Pteridium aquilinum (Linn.) Kuhn. var. latiusculum (Desr.) Und.
オ　　オ　　バ　　ノ　　イ　　ノ　　モ　　ト　　ソ　　ウ	Pteris cretica Linn.
マ　　ツ　　ザ　　カ　　シ　　ダ	P. cretica Linn. var. albo-lineata Hook.
イ　　ノ　　モ　　ト　　ソ　　ウ	P. multifida Poir.
ア　　マ　　ク　　サ　　シ　　ダ	P. dispar Kunze　　文
オ　　オ　　バ　　ノ　　ハ　　チ　　ジョ　　ウ　　シ　　ダ	P. inaequalis Bak. var. aequata (Miq.) Tagawa　　文
イ　　ワ　　ガ　　ネ　　ゼ　　ン　　マ　　イ	Coniogramme infermedia Hieron
イ　　ワ　　ガ　　ネ　　ソ　　ウ	C. japonica (Thunb.) Diels

イヌイワガネソウ
リョウメンシダ
ナライシダ
イワヘゴ
オクマワラビ
クマワラビ
アイノコクマワラビ
ナガバノイタチシダ
ミサキカグマ
オオイタチシダ
ヒメイタチシダ
トウゴクシダ
ベニシダ
ハチジョウベニシダ

キヨスミヒメワラビ
ゲジゲジシダ
ハシゴシダ
ハリガネワラビ
ヤワラシダ
ヒメワラビ
ミドリヒメワラジ
ミゾシダ
アラゲミゾシダ

ホシダ
ヘビノネゴサ
ヤマイヌワラビ
カラクサイヌワラビ
ヒロハイヌワラビ
イヌワラビ
ニシキシダ

- C. japonica** (Thunb.) Diels var. **fauriei** Hieron Tagawa 文
- Polystichopsis standishii** (Moore) Tagawa
- P. miqueliana** (Maxim.) Tagawa 文
- Dryopteris atrata** (Wall.) Ching
- D. uniformis** (Makino) Makino
- D. lacera** (Thunb.) O. Ktze.
- D. lacera** (Thunb.) O. Ktze. forma **intermedia** H. Ito
- D. sparsa** (Ham.) O. Ktze.
- D. chinensis** (Bak.) Koidz. 文
- D. pacifica** (Nakai) Tagawa
- Dryopteris sacrosancta** Koidz. 文
- D. nipponensis** Koidz.
- D. erythrosora** (Eat.) Ktze.
- D. erythrosora** (Eat.) Ktze. var. **caudipinna** (Nakai) H. Ito 文
- Ctenitis maximowicziana** (Miq.) Ching 文
- Phegopteris decursive-pinnata** (Van Hall) Fée.
- Lastrea glanduligera** (Kunze) Moore
- L. japonica** (Bak.) Copel. 文
- L. laxa** (Fr. et Sav.) Copel. 文
- L. oligophlebia** (Bak.) Copel.
- L. viriifrons** (Tagawa) Tagawa
- Leptogramma mollissima** (Fisch.) Ching
- L. mollissima** (Fisch.) Ching var. **pilosissima** (H. Ito) Kurata 文
- Cyclosorus acuminatus** (Houtt.) Nakai
- Athyrium yoscense** (Fr. et Sav.) Christ 文
- A. vidalii** (Fr. et Sav.) Nakai 文
- A. clivicola** Tagawa 文
- A. wardii** (Hook) Makino 文
- A. nipponicum** (Mett.) Hance
- A. nipponicum** (Mett.) Hance forma **metallicum** (Makino) Honda

タニイヌワラビ
キヨタキシダ
タチシノブ
ホウライシダ
ハコネシダ
クジャクシダ

Athyrium otophorum (Miq.) Koidz. 文
A. squamigerum (Mett.) Ohwi 文
Onychium japonicum (Thunb.) Kunze
Adiantum capillus (venëris) Linn.
A. monochlamys Eaton
A. pedatum Linn.

シノブ
シノブ

シノブ科 DAVALLIACEAE
Davallia mariesii Moore

オオキジノオ
オオキジノオ

キジノオシダ科 PLAGIOGYRIACEAE
Plagiogyris euphlebia (Kunze) Mett.

イヌカンゾウ
イワデシダ
オリヅルシダ
ジュウモンジシダ
ヒメカナワラビ
イノデ
アイアスカイノデ
アスカイノデ

オシダ科 ASPIDIACEAE
Matteuccia orientalis (Hook) Trev.
Woodsia polystichoides Eaton 文
Polystichum lepidocaulon (Hook.) J. Sm.
P. tripterum (Kunze) Pr.
P. tsus-simense (Hook.) J. Sm.
P. polyblepharum (Röhm) Pr.
P. polyblepharum (Röhm.) Pr. var. **intermedium** (Tag.)
Kurata
P. polyblepharum (Röhm.) Pr. var. **fibrillos-paleaceum**
(Kodama) Tag.

ミウライノデ
オニヤブソテツ
ヤブソテツ
ヤマヤブソテツ
メヤブソテツ
コバノカナワラビ
ホウバカナワラビ
ハカタシダ
オニカナワラビ

P. × miuranum Kurata
Cyrtomíus falcatum (L. f.) Pr.
C. fortunei J. Sm.
C. fortunei J. var. **clivicolum** (Makino) Tagawa
C. hookerianum (Pr.) C. Chr.
Polystichopsis pseudo-aristata (Tag.) Tagawa
P. aristata (Forst.) Holtt
P. simplicior (Makino) Tagawa
P. simplicior (Makino) Tagawa var. **major** (Tagawa) Tagawa

オオカナワラビ
シ ケ シ ダ
セイタカシキシダ
ホソバシキシダ
ナチシキシダ
シ ケ チ シ ダ
ヘ ラ シ ダ
ノコギリシダ
ヒカゲワラビ

P. amabilis (Bl.) Tagawa

Athyrium japonicum (Thunb.) Copel.

A. dimorphophyllum (Koidz.) Tagawa

A. conilii (Fr. et Sav.) Tagawa

Lunathyrium fimbriichlamys (Nakai) Kurata Comb. Nov.

Cornopteris decurrenti-alat (Hook) Nakai

Diplazium subsinuatum (Wall.) Tagawa

D. wichurae (Mett.) Diels

D. chinense (Bak.) C. Chr.

シ シ ガ シ ラ 科 BLECHNACEAE

オ サ シ ダ
コ モ チ シ ダ

Struthiopteris amabilis (Makino) Ching 文

Woodwardia orientalis Sw.

チャ セ ン シ ダ 科 ASPLENIACEAE

チャセンシダ
トラノオシダ
コバノヒノキシダ
ホウビシダ
クモノスヒダ

Asplenium trichomanes Linn. 文

A. incisum Thunb.

A. salerii Hook.

A. unilaterale Lam.

Camptosorus sibiricus Rupr. 文

ウ ラ ボ シ 科 POLYPODIACEAE

ノ キ シ ノ ブ
マ メ ズ タ
ク リ ハ ラ ン
ヒ ト ツ バ
ミ ツ デ ウ ラ ボ シ

Lepisorus thunbergianus (Kaulf.) Ching

Lemmaphyllum microphyllum Pr.

Neocheiropteris ensata (Thunb) Ching

Pyrrosia lingua (Thunb.) Farwell

Crypsinus hastatus (Thunb.) Copel.

調 査 の 結 果

昔は15年から20年も経過すると雑木は切られて薪炭となった。その都度林床の ササ をはじめ低木もきれいに刈り取られた。植栽された スギやヒノキ もよく手入れされて、死節ができないように枝打ちが行われた。そのため林床は明るくシダ類をはじめ陰地を好む植物の格好の生活の場となった。

戦後人々の生活様式が変り、燃料も薪炭は使用しなくなった。そのため林を伐り払うこともなくなりアズマネザサ の繁茂をほしのままにしている。所によっては アズマネザサ 以外の植物は受け付けないという状態である。

スギやヒノキ の林も放任されたままで、枯れた枝がそのままついて、林内は薄暗く林床には シダ さえも生活できない状態のところもある。

常緑広葉樹は樹陰下にあってもたくましく成長を続ける。落葉広葉樹は樹陰には弱い。そこでこのまま人為による林の更新がなければ、常緑広葉樹は成長の一途をたどり、やがて落葉広葉樹より高く抜き出してしまうと、落葉広葉樹は日照不足となりついには枯死してしまうのではなかろうか。

ササ類も日照を好む植物で、落葉樹林下では冬季に日照が多いので生活を維持するが、常緑樹林下では周年日照が不足するので生活はできない。現在猛威をふるっている アズマネザサ も、常緑広葉樹林の発達と反比例して、次第に衰えていくであろう。

人口の増加による宅地造成、大気汚染の問題もさることながら、海岸の変ぼうも驚くばかりである。海岸は埋立てられ、護岸工事がなされ、海浜植物の生活する場は減少するばかりである。このまま進行すればやがて海浜植物は姿を消す運命となろう。

昔の風光明媚とたたえられることに一役買っていたのは クロマツ である。海岸の岩上に、社寺林の中に、山の鼻に姿の整った クロマツ の老木があった。戦後のマツクイムシの被害で三浦半島だけでなしに、日本中の名所旧蹟といわれる所からさえも クロマツ は姿を消していった。

高木層に変化があれば、低木層から林床の植物まで関連して変化がおきる。むかし報告された植物をたずねると、すっかり様相が変り、 ダンドホロギク などの帰化植物で埋まっており落胆することもしばしばある。人の世もきびしいが植物の世界もよりきびしいようである。

もしこのまま山林のある地区に人手が加わらない状態が長く続けば、広葉常緑樹は成長を続け、やがては全面を覆う状態になろう。その下に入った落葉広葉樹や林床のササ類は日照不足のために、枯死消滅していくであろう。そのときに必然的に照葉樹林が再びよみがえったということであろう。しかしそれには100年を単位として計る年月が必要なことであろうが、戦後30余年、そろそろそのような傾向が現われてきたと推測されるところもある。

各調査区からリストアップされた植物を“植物目録”としてまとめ、別に神武寺の植物・単子葉植物・帰化植物・シダ植物・四季の植物などと項目を分け、見る人の便宜を図った。

いずれも逗子市の域内に産するものであるから、殊更に産する場所は明記しなかった。

なお各事項のうち(栽)とあるものは植栽されたもの。(文)とあるものはかつて文書により学界その他に報告されたもので、今回の調査では見あたらなかった植物である。環境の変化か乱獲のため絶滅してしまったのであろう。誠に惜いことである。

○ 絶滅したと思われる植物

重複するが、絶滅したと思われる植物、今回の調査で見あたらなかった主な植物は次のとおりである。

シロバナハンショウズル(キンボウゲ科)、アカショウマ(ベンケイソウ科)、リンボク(バラ科)、モガシ(ホルトノキ科・神武寺以外に見あたらず)、タイミンタチバナ(ヤブコウジ科)、タニギキョウ(キキョウ科・神武寺より消滅)、フウラン(ラン科) ハナミョウガ(ショウガ科)。

シダ類では ツルデシダ、ヤマヤブソテツ、アオホラゴケ、セイタカシケシダ、ハリガネワラビ、シケチシダ そのほか数多くある。

○ 湿地の植物

水中に生える沈水植物や水面上にぬき出る植物や、水辺を好む植物には数多くの種類がある。近年沼地が埋められたり、水田も宅地となってしまったので、水中植物や水辺の植物は誠に僅少であった。

参 考 文 献

逗子市の植生		逗子市教育委員会
丹沢大山学術調査報告書		神奈川県
植物（展示解説シリーズ 1）		神奈川県立博物館
牧野 新日本植物図鑑		北隆館
世界の植物（週間朝日百科）		朝日新聞
原色日本植物図鑑 木本編		保育社
原色日本植物図鑑 草本編		保育社
原色日本帰化植物図鑑		保育社
原色日本羊歯植物図鑑		保育社
図説日本の植生（沼田・岩瀬）		朝倉書房
樹木大図説（上原敬二）		有明書房
日本植物誌		誠文堂
帰化植物		井上書店
日本帰化植物図鑑（長田）		北隆館
研究報告 № 11	1965.3	ノキシノブ属 横須賀市博物館
” № 12	1966.3	神奈川の羊歯植物 1 ”
” № 12	1967.3	” 2 ”
” № 14	1968.3	” 3 ”
” № 15	1969.3	” 4 ”
” № 16	1970.3	” 5 ”
” № 17	1971.3	” 6 ”
” № 18	1971.9	” 7 ”
” № 18	1971.9	日本産羊歯植物 ”

大谷先生・逗子産植物に関する（資料）文献

研究報告より

浦

- | | | |
|-------------|---------------------|----------|
| № 2 (1957) | ○ 三浦半島羊歯植物への寄与（其の一） | P. 5~10 |
| | ○ 三浦半島顕花植物の検討（其の一） | P. 11~14 |
| № 3 (1958) | ○ 三浦半島顕花植物の検討（其の二） | P. 16~21 |
| | ○ 三浦半島羊歯植物への寄与（其の二） | P. 22~24 |
| № 4 (1959) | ○ 三浦半島種子植物の検討（其の三） | P. 19~25 |
| № 5 (1960) | ○ 三浦半島植物雑記 | P. 18~26 |
| | ○ 神奈川県産植物の報告 | P. 27~35 |
| № 6 (1961) | ○ 三浦半島植物雑記（その2） | P. 32~35 |
| | ○ 神奈川県産植物の報告（その2） | P. 37~44 |
| № 22 (1976) | ○ 神奈川県羊歯植物（8） | P. 1~22 |
| № 23 (1976) | ○ 神奈川県羊歯植物（補遺） | P. 7~34 |

雑報（1~21）及び館報（22— ）より

- | | | |
|-------------|------------------|----------|
| № 14 (1969) | ○ 相模神武寺の植物 | P. 17~23 |
| № 15 (1970) | ○ 神奈川県産植物分布資料（1） | P. 23~25 |
| № 16 (1971) | ○ " （2） | P. 6~9 |
| № 22 (1976) | ○ " （6） | P. 1~11 |
| № 23 (1977) | ○ " （7） | P. 1~13 |
| № 24 (1978) | ○ " （8） | P. 1~11 |
| № 25 (1979) | ○ " （9） | P. 1~6 |
| № 26 (1980) | ○ " （10） | P. 1~5 |

（以 上）

あ　　と　　が　　き

本市の文化財調査報告書も第十一集の発刊のはこびとなりましたことを心から敬意を表する次第であります。

逗子市は三方を山に囲まれ西に海を持つ気候温暖の地であります。海と山を持つ恵まれた自然環境は古代から人々の安住の地であったようであります。このことは既に発掘調査された遺跡によっても明らかなことであります。この豊かな自然は長い歴史の中でも人々に利用され恵まれた生活の基盤になっていました。

最近の著しい都市化の中で、逗子の自然も大きく変わりました。わたくしたちは古くから受けつがれた自然の恩恵を忘れてはならないと思います。まだ残されている自然を守る意味でも、また自然に対する研究の目を向けるという意味でも、今回の植物調査は非常に意義深いものと確信いたします。

この第十一集の植物調査報告書は小学生から成人にいたるまで逗子の自然研究のよき伴侶となれば幸いです。また刊行にあたりましては、故・大谷茂先生の永年にわたる研究資料のもとに、調査執筆して下さった横須賀植物会会長・山田友久先生のほか、西山清治・浜中義治・山内好孝・石渡宏・山本久子・大森雄治・石渡治一先生方、そして会員のみなさんや鎌倉の間瀬美保子・長谷川義人先生方のご援助もいただきました。また、榎山泰先生からも格別のご指導をいただき、ここに厚く御礼申し上げます。

逗子市教育委員会社会教育課長

堀　　内　　智　　也

昭和57年3月20日印刷

昭和57年3月31日発行

逗子市文化財調査報告書第11集

植 物

編 集 逗子市教育委員会
発行者 逗子市逗子4-2-10

印刷所 有限会社 モ リ ヤ
逗子市久木3-4-11

